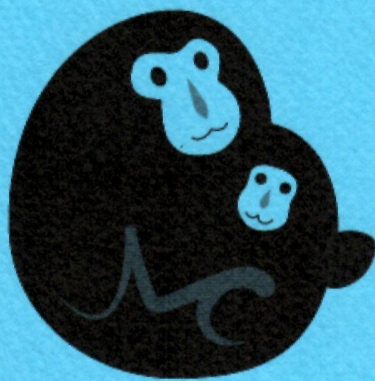


公益財団法人
日本モンキーセンター
年報

平成 29 年度



公益財団法人日本モンキーセンター

目次

目次	1
巻頭言 公益財団法人化4年間の歩みを振り返って	2
公益財団法人日本モンキーセンター 事業方針	10
I 公益事業	
(1) 調査研究	10
(2) 保全活動	36
(3) 環境教育並びに社会普及活動	37
(4) 図書及び学術誌の刊行	48
(5) 標本等の資試料の収集・管理及び展示	54
(6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営	67
(8) 研究会、講演会の開催	79
(9) 展示、保全、環境教育及び社会普及活動に関わる人材の育成	84
(10) その他	85
II 収益事業	
(1) 動物園における物品並びに飲食物販事業	88
(2) 所有する土地・建物の賃貸事業	88
III 総務	
(1) 組織	89
(2) 人事	91
(3) 総務	91
(4) 寄附	92
IV 経理	93
付録 飼育霊長類家系図（ポリビアリスザル・ワオキツネザル・ヤクシマザル）	101

巻 頭 言

公益財団法人化 4 年間の歩みを振り返って

所長 松沢 哲郎

日本モンキーセンター（英文名称 Japan Monkey Centre、略称 JMC）の年報をお届けする。JMC は、1956 年 10 月 17 日の創立で、2014 年 4 月 1 日に公益財団法人になった。一貫して日本における霊長類学の研究・教育・社会貢献の拠点となっている。本誌は、新体制の第 4 年度にあたる 2017 年度（平成 29 年度）の活動報告である。これまでどおり当該年度の活動を網羅し経理の細部も記載し公表した。したがって、いわば活動の自己点検報告書でもある。

移行してまる 4 年が経過した。尾池和夫理事長（京都造形芸術大学学長）のもと、所長・松沢哲郎（京都大学高等研究院特別教授）、博物館長・山極壽一（京都大学総長）、動物園長・伊谷原一（京都大学野生動物研究センター教授）が、引き続き運営している。すなわち公立でも私立でもなく、この「大学教員が運営の中核を担う」公益財団法人立という、世界的にも類例のない珍しい博物館であり動物園だといえるだろう。

2014 年 4 月の公益財団法人化に半年先だって 2013 年 10 月 1 日から、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（PWS）が発足した。絶滅の危機に瀕している大型の野生動物の保全や福祉の専門家を育てる大学院教育プログラムである。2020 年 3 月末日までの 7 年度にわたって文部科学省の支援を受ける事業で、松沢・山極・伊谷の 3 名ともがその企画立案に最初から関わってきた。PWS は JMC を教育研究の実践の場として位置付けて、もろもろの支援をおこなってきた。

本稿では、巻頭言としてはまことに異例だが、公益財団法人化した最初の 4 年間（2014-2017 年度）の活動の全体を振り返りながら、新生 JMC の来し方をみつめ、その行く末を考えてみたい。

生息地研修

所長就任当初から、2 つの事業を提唱し実施してきた。第 1 は「生息地研修」である。サル類の自然の生息地に職員を派遣して、かれらの暮らしを実際に見て現地を体験してもらう。第 2 は「環境エンリッチメント」である。野生の姿から学んだことを JMC の動物園で実践し、飼育する動物たちの暮らしの改善に役立てる。

まず生息地研修について述べる。所長に就任した当初に全所員約 40 名を一堂に集めてたずねたところ、京都大学霊長類研究所の大学院生だったひとりを除いて全員が幸島に行ったことがなかった。何よりもこの事実に驚いた。サル類を専門とする日本モンキーセンターの職員でありながら、なんと日本の霊長類学の発祥地に行ったことがない。さらには野生のニホンザルを見たことがそもそもない、という者もかなりいた。

欧米には野生のサル類がない。世界の先進国のなかで日本だけはサルがいる。こうした日本の利点を生かして、まずは野生のニホンザルをその生息地で実際に見てもらふ必要があると考えた。そこで京都大学野生動物研究センター（WRC）の研究施設がある幸島と屋久島に職員を派遣して、野生のサルとその暮らしぶりを見てもらった。

また、WRC には熊本サンクチュアリ（KS）と呼ぶ施設がある。チンパンジーが 55 個体もいる（2018 年 7 月 31 日現在）。さらには日本ではそこで見られないボノボ 6 個体がいる。KS には、このチンパンジー属 2 種を同時に同じ場所で見比べてできるという他の施設にはない利点がある。KS は厳密には飼育下ではあるがこれも生息地研修の場とした。この 4 年間で、幸島に 17 回で延べ 57 人、屋久島に 9 回で延べ 34 人、KS に 17 回で延べ 55 人の派遣をおこなった。その結果、事務部を含めた JMC の全職員が自然の生息地でサルを見たことになる。つまり、4 年前と人々の経験値の様相は一変した。「動物園は自然への窓（Zoo as a window for the nature）」という意識は、JMC 職員の中に広く深く定着しつつあるといえるだろう。

さらにサル類以外の野生動物についてもぜひ職員に見てもらいたい。そこで国外の生息地研修を実施した。ボルネオ、アマゾン、アフリカのタンザニアなどである。タンザニアでは、伊谷動物園長が長年にわたって現地のツアー会社と連携して毎年 9 月に 10 日間ほどのツアーを実施してきた。ライオン、ゾウ、キリン、シマウマ、カバといった野生動物を見て、さらにはゴンベ国立公園のジェーン・グドールさんたちが研究してきた野生チンパンジーを見ることができる。このタンザニア・ツアーには京都市動物園からも毎年 2 名が参加している。さらに名古屋市東山動物園や熊本市動植物園や日立のかみね動物園などからの参加もあり、野生動物研究センターを中核とした連携動物園間の交流を深める機会にもなってきた。こうした JMC の所員の国内外の渡航費用等は原則として、JMC 本体と京大側が応分の負担をして支援してきた。

環境エンリッチメント

JMC の定款では、「霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営」という表現がある。「福祉に配慮した動物園」をめざしている。飼育動物の福祉向上についての取り組みは、この4年間でずいぶん推進されたのではないだろうか。ちなみに動物園における定款あるいは設置条例等でこうした「福祉」の文言があるのは、わたしたちの知る限り日本で唯一である。この4年間の動物園での環境エンリッチメントの取り組みから、主に3つの成果を強調したい。

第1は、バックヤードの改善である。バックヤードとは入園者の目にさらされない裏の飼育場所のことだ。傷病を負ったサルや、なかまとの折り合いの悪いサルが飼育されている。それらを、なかまとの関係を改善して群れに戻したり、飼育環境のより適切な他園に譲渡ないしブリーディング・ローンで貸し出したりした。こうしてバックヤードの収容室棟・隔離室棟の個体数が大幅に削減された。公益財団法人化当時78個体いたが、現在は25個体にまで減った。残った個体はほとんどが高齢や障害などによるものだ。手厚い飼育を心がけている。

第2に、すべての動物舎で環境エンリッチメントの実施が行き届くようになった。公益財団法人化された2014年以前からも夏の強い日差しを遮るよしずなどの覆い、動物のための暑さ対策などはされていた。この4年間でみると、檻の中をできるだけ広く歩きまわれるように、止まり木を導入し消防ホースを吊るした。コンクリートの床面の上に土や植物をいれて水場も作り、より複雑で自然な環境に近づけた。床材や基質を手作り工事で変化させた。ケージ内への植樹もしている。以前は、ケージ内に不安定な何かを入れることに抵抗感があったようだ。落ち葉・竹・ブラウズ・おもちゃ・ロープなどを入れることについては、「危ない」「病気がケガをする」「逃亡につながる」といった旧来の意見も根強かった。良い例が消防ホースだ。2014年4月の公益財団法人化時点で、ケージ内には消防ホースは1本もなかった。今ではこうした素材を利用したエンリッチメントがふつうにおこなわれるようになった。施設の改修にかかる資金がままならないので職員の創意工夫によるところが大きい。が、職員の意識と実践は公益財団法人化以前に比べると著しく高くなったといえるのではないだろうか。また食事の面でのエンリッチメントも進んだ。近隣の農家やスーパーなどからご寄付をいただき、多くの種類の旬の食べ物を楽しんでいる。餌料費もこの4年間で発足当初の79%にまで節減された。飼育個体数が約1割減ったことを考慮しても、ご寄付の効果だといえる。なお、造園やメンテナンスや寄付野菜集めなど、そうした地味でなかなか目立たない努力はたいへん貴重だと思う。園内のメンテナンスについては、それを専門にする職員を潤沢に配置するゆとりがなく、「各自の持ち場から」整理・清掃を心がけると意識を育みたい。

第3は、単独飼育の解消である。チンパンジー、テナガザルなどで、単独飼育されていたものを馴致して群れ飼育や混合飼育をするようにした。バーバリーマカクについては、バックヤードで個別飼育されていた多数を群で飼えるようにした。また、過密な群れについてはメンバーを分けて分散させた。ワオキツネザル、トクモンキー、などである。フサオマキザルも過密でケガをするものが多かった。そこでトクモンキーとおなじく、雌雄でケージをわけることでリスクを減じることができた。

環境エンリッチメントは現在ではどの動物園でも実践していることだ。そういう意味では、どちらかというと、JMCはこれまでマイナスだったものを、なんとか標準のゼロに近づけたという程度かもしれない。そもそもJMCの飼育施設や水道・電気などの基幹インフラの老朽化は目に余るものがある。老朽化への対応は、現場を指揮して運営する伊谷動物園長から何度も聞かされた課題である。それでもなんとか現場の飼育員たちの創意とくふうで、この4年間を振り返ると、サルたちの飼育環境の改善は進んだといえるだろう。

サル類、標本資料、GAIN、連携研究

サル類61種883個体を飼育している（2018年6月30日現在）。個体数は2014年4月の発足時は995個体で、あかンぼうの生まれる5月には一時1,005個体だった。サル類はすべて絶滅の危惧される動物種である。これほど多くの種数をもつ動物園は世界的にも類例がない。ただし、飼育種数の変化としては年々減少する傾向にある。それは飼育個体が高齢化したり、傷病によって亡くなったりする一方で、補充がむずかしいからだ。貴重な遺伝子資源ともいえるサル類だ。そこで日本動物園水族館協会を通して、あるいは独自のルートで他の国内外の園と連絡をとり、ブリーディング・ローンや無償譲渡などをおこなってきた。なお、基本方針として、「動物を売らない買わない」。絶滅の危惧される希少動物であるサル類は売買の対象にすべきでない、という方針を堅持してきた。

標本資料も17,124点を保有している。「飼育霊長類標本データベース（CaPriCo）」としてホームページ上で公開している。公益財団法人化前の2012年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費・データベース、課題番号248042）で整備したものだ。生きた霊長類を有するだけでなく、動物園でこれまでに死亡したほとんどの個体を解剖し標本資料として保存整理してきた。

その結果、約 6,600 に及ぶ個体から、4,000 点以上の骨格標本、7,000 点以上の脳や内臓、全身の液浸標本、剥製や毛皮、さらには寄生虫標本など、多数の標本を作製してきた。隣接する京都大学霊長類研究所の標本資料と比べて勝るとも劣らない質と量である。2 人の博士学芸員（高野智と新宅勇太）がこうした資料の整理にあたっている。

GAIN（大型類人猿情報ネットワーク）と呼ぶ個体情報データベースも作成している。文部科学省のナショナルバイオリソース事業の一環である。その経費で雇用されている綿貫宏史朗が学術部の一員として JMC に在籍しており、主に大型類人猿（チンパンジー、ボノボ、ゴリラ、オランウータン）のいわば戸籍を作っている。日本に住むすべての個体がデータベース化されて、その出生や死亡がリアルタイムに和英で国内外の研究者に向けて公表されている。2017 年度の顕著な成果としては、チンパンジーの親子 3 個体（アキラ、アイ、アユム）のトリオ・ゲノムの解析をおこなって論文として公表された。こうしたゲノム情報についても公開を順次進めている。詳細については以下のサイトで確認いただきたい。<https://shigen.nig.ac.jp/gain/>

「連携研究」というかたちで、生きたサル類や標本資料を研究者の利用に供している。公益財団法人化と同時にこの連携研究の制度を発足させた。ただし研究利用については厳しく制限している。いわゆる「侵襲的実験利用」は理由のいかんを問わずこれをおこなわない。彼らの福祉向上に資する研究だけを認めている。なお適正な連携研究を実施するための「研究倫理ガイドライン」を施行した。連携研究の数は、この 4 年間で、18 件、20 件、16 件、16 件、という推移をたどっており、ほぼ一定数で推移している。

なお JMC は文部科学省・日本学術振興会のいわゆる科学研究費を申請できる。これは動物園としてはきわめて珍しい。平成 30 年度から、ようやく京都市動物園が「生き物・学び研究センター」を拡充して、科研費申請ができるようにした。JMC は今後とも科研費やその他の外部資金を取り続けられる団体として存在していくのがひとつの発展の方向だろう。環境省の事業費をかつていただいたことがある。環境アセスメント等の事業の展開もあるかもしれない。

獣医療

年度末のおもな飼育動物数と診療件数の推移は、2016 年度 964 個体 3,858 件、2017 年度 932 個体 3,959 件だった。専任の獣医師は岡部直樹ひとりだが、園長補佐で病院長の木村直人が随時に支援をしている。隣接する京都大学霊長類研究所の獣医師グループや熊本にある野生動物研究センター・熊本サルクチュアリの鶴殿俊史獣医師らと連携して、獣医学カンファレンスを定期的に開催している。また 2018 年度からは霊長類研究所の宮部貴子助教・獣医師が、JMC のアドバイザーに就任した。宮部は麻酔を専門とする研究者であり、今後はさらに強力な支援をいただけると期待している。なお「バースコントロールの取り組みがすすんだ」という点も、この 4 年間の顕著な成果といえるだろう。前述のバックヤードの個体が減った原因としては、①死亡、②園内や園外への移出、そして③バースコントロールをすることで無計画繁殖による過密や闘争を未然に回避して、そもそもバックヤードに来る個体を減らすことができた、といえるだろう。

海外動物園との連携

この 4 年間の海外との連携のハイライトはシカゴのリンカーンパーク動物園へのニホンザル 9 個体の供与だといえるだろう。宮島に由来するサルを無償でリンカーンパーク動物園に送った。レーゲンシュタイン・マカク・フォレスト（サルの森）と名付けられている。レーゲンシュタインとは Joseph Regenstein という創業者が地元シカゴの実業家で、紙やプラスチックや化学素材で財をなした。財団としてシカゴ大学等に寄付をしていて、このサルの森もその地元貢献の一環である。1,550 万ドル（およそ 17 億円）をかけてニホンザルの施設を 2015 年 4 月に開園した。2016 年には 2 個体のあかんぼうが早くも生まれている。同年 8 月にシカゴで国際霊長類学会が開催されたおりに、大会に参加した JMC 職員 7 名（松沢・友永・綿貫・森村・打越・林・松田）がそのようすを見ることができた。おそらく全米で、さらには世界でいまいちばん整った動物園の「サルの森」だといえるだろう。当方がリンカーンパーク動物園に何度も足を運び、先方から JMC へも訪問してもらい、2014 年の公益財団法人化とともに交渉を開始して検討した計画が実を結んだ。①相手先が信頼できる施設で相互交流をして将来にわたる紐帯を築き、②サル類がより良い施設に迎えられるのであれば、こうした無償譲渡を今後も続けたいと考えている。

なおリンカーンパーク動物園は、「1 年 365 日開園、無料」というのがうたい文句である。シカゴという大都会にあって、五大湖のひとつのミシガン湖に面している。どうして経営が成り立つかといえば、収入の大きな柱のひとつが駐車場だ。車社会のアメリカでは自動車で来る方が多い。それから大口の会社や篤志家の寄付がある。寄付文化が根付いている。そして無料だが市民の誇りでもあり、市民ひとりひとりからの小口の支援がある。動物園には博士学位をもった研究員や飼育員が 25 名いると、園を切り盛りするスティーブ・ロス博士から聞いた。シカゴのニホンザルについては以下のサイトをご覧ください。<https://www.lpzoo.org/exhibit/regenstein-macaque-forest>

国内での保全活動

日本にはニホンザルとその亜種であるヤクシマザルがいる。日本モンキーセンターは、前身の財団法人の時代に、広島県宮島のサルの保全にかかわる事業に協力してきた。宮島には、かつて観光目的で小豆島から移入された群れがいる。地元の関係者の要請をもとに捕獲されたサルを受け入れて飼育している。

またヤクシマザルについては、そもそも JMC の創立時に屋久島からヤクシマザルを導入した。それが現在の JMC のたき火にあたるサルとして有名な「モンキーバレイ」のサルたちのルーツである。たき火にあたるサルは伊勢湾台風の後が始まった。伊勢湾台風とは 1959 年 9 月 26 日に潮岬に上陸して東海一円に甚大な被害をもたらした台風 15 号である。最低気圧 895hPa の大型で、死者・行方不明者が約 5,000 人に達した。その際に出た倒木や倒壊家屋の廃材を職員がたき火にしていたところ、サルが近寄ってきて火にあたるようになったという。冬の風物詩として、永年にわたって来園者に親しまれてきた。

後述する PWS の協力を得て、幸島と屋久島での生息地実習を実施してきた。JMC の職員は必ず幸島でニホンザルを見て、屋久島でヤクシマザルとヤクシカを見る。そうした経験を通じて、生息地の紹介を JMC の博物館で職員がおこなってきた。今後とも、日本の固有種であるニホンザルとヤクシマザルについて、自らの体験をもとに発信できる職員を育成していきたい。

海外での保全活動

ヒト以外の霊長類は中南米、アフリカ、インド、東アジア、東南アジアに分布している。とりわけ大型類人猿の保全活動に力を入れてきた。先々代の所長が西田利貞である。タンザニアのマハレ国立公園で野生チンパンジーの研究をしてきた。京都大学を定年退職したあと、財団法人日本モンキーセンターの所長になった。その西田が音頭をとって、大型類人猿の保護の計画をとりまとめ、環境省の事業費を獲得した。そうした事業の系譜があって、博物館長の山極はコンゴのカフジビエガの東ゴリラについて、所長の松沢はギニアのボソウ・ニンバのチンパンジーについて、動物園長の伊谷はコンゴのムバリのボノボについて、それぞれ保全活動をおこなっている。そうした活動のようすを JMC で一般に向けて紹介してきた。なお、WWF 職員だった岡安直比が 2016-2018 年にかけて JMC に在職し、国際保全事業部長として、海外での保全活動を実施した。

公益財団法人としての JMC が単体で海外での事業を実行するのは手に余る。しかし、公益財団法人である利点を生かし、保全活動を海外で展開する団体と連携して、絶滅の危機に瀕している霊長類の保全を生息地で推進することは今後ともさらに重要性をますます高める。

学術誌『プリマーテス』の刊行

霊長類学の分野で、世界で最も古い英文の学術誌『PRIMATES(プリマーテス)』を 1957 年に創始した。現在はシュプリンガー・ネイチャー社から刊行している。日本霊長類学会の準機関誌でもある。

2018 年当初に、従来の年 4 号から 6 号へと発行回数を 1.5 倍増した。論文掲載料は一貫して無料だったが、カラー写真も無料で掲載できるようになった。世界の最新の学術成果をとりあげ発信している。

次期 2018-2020 年の 3 年間の新たな編集体制を整えた。編集長は前期に引き続き松沢が担当し、副編集長としてジム・アンダーソン（京都大学文学研究科教授）を迎えた。なお、2018 年 7 月の編集会議の議を経て、平田聡（野生動物研究センター教授、副センター長）が新たに 2 人目の副編集長になる。論文の査読の手配はこの 2 名の副編集長がおこなうこととした。

公益財団法人化の前から長年にわたって『プリマーテス』の編集事務を担当してくださった古賀典子さんが、2018 年 6 月 15 日をもって退職されることとなった。多年の尽力に感謝したい。幸い、いわゆるインパクトファクター（IF、雑誌の評価の指標で、論文が引用される頻度を数値化している）は、今年は IF = 1.202 で、この 3 年間ずっと微増を続けている。社会的注目を数値化したオルトメトリックというスコアも、他の雑誌に比べて著しく高い。つまり、霊長類の研究は、いまなお多くの人の注目を浴びているといえる。

和文雑誌『モンキー』の発行

創立 60 周年の記念事業として『モンキー』を 2016 年に復刊し、『霊長類学からワイルドライフサイエンスへ』と副題のついた誌名になった。ISSN（国際標準逐次刊行物番号）は不変だ。季刊雑誌で年 4 回（6、9、12、3 月）の発行である。協賛・協力する教育研究機関や企業を表紙のロゴで明記した。本稿執筆の時点（2018 年 7 月）で、第 3 巻 1 号の出版すなわち通算 9 号までできた。なお 1 年前までのバックナンバーは無料で HP での公開を始めた。ぜひご覧いただきたい。

山極博物館長が「ぼくはこうしてゴリラになった」という自伝の連載をしている。京大総長という激戦のかたわら、こうした連載をもつ雑誌は本誌ひとつといって良いだろう。本誌は店頭で発売されていない。定期購読を申し込まれた方に郵送料を

当方負担で送付している。平成 30 年度になって初めて、京大生協「ルネ」の書籍部で販売していただけるようになった。

今後は、副題にあるように霊長類学からワイルドライフサイエンスへの展開が期待される。折しも、京都大学野生動物研究センターが創立 10 周年を迎えた。『モンキー』3 巻 2 号はその特集号になる。これを契機に、表紙をサル類の写真から野生のウマにした。ポルトガルのアルガ山の野生のウマである。野生のオオカミに捕食されている。『モンキー』は創刊号から、平田聡（野生動物研究センター教授、JMC 評議員、本誌副編集長）が「ウマ学ことはじめ」と題して連載を続けてきた。本誌のちょうど真ん中の見開きページをその連載にあてているので非常に目立つ企画だ。当初から、「モンキーなのに、なんでウマなの？」と聞かれる。しかし、それこそが JMC が主張する「自然への窓」としての動物園であり博物館の方向だろう。したがって引き続き、ゾウやキリンやイルカをはじめ、さまざまな野生動物（ワイルドライフ）を読者に紹介していきたい。

京大モンキーキャンパス、京大日曜サロン、プリマーテス研究会

環境教育の場であり、毎年 1 月末の土日に「プリマーテス研究会」を開催して、研究者や大学生・中高生や一般の方々の研究発表の場になっている。京大モンキーキャンパスは、シニアの研究者を中心にした有料のプログラムで毎年 1 回 6 人の講師のリレー講義形式だ。京大日曜サロンは、さまざまな階層の講演者を用意し、大学院生を含めたアウトリーチの場になっている。これらの開催実績については、この年報のなかで詳述してあるので、ぜひそちらを参照していただきたい。

保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学等への働きかけ

環境教育の場として考えると、保育園・幼稚園に始まる学校教育の活動の場としての利用の広がりが期待される。犬山市内のすべての小学校・中学校の全 14 校が毎年 1 回は JMC を訪れてくださるようになった。以前より犬山市をはじめ扶桑町、小牧市、各務原市、可児市、美濃加茂市など近隣市町から小学校低学年の校外学習の場として活用いただいていた。これを高学年のより深い学習の場とする取り組みをおこない、平成 29 年度からは犬山市内の小学校・中学校全 14 校が理科の学習で訪れるようになった。また、京都の小学校 2 校が 6 年生の修学旅行の訪問先として JMC を選んでくださった。また名古屋の明和高校のばあいは、SSH の取り組みとして始まり毎年継続して開催されている。

ユニークな試みとしては、学会や研究会等の誘致を始めた。学会の大会や研究会やシンポジウムを開催していただく。今後はさらにそれが一過性のものではなくて、園内にそうした研究・教育さらには社会貢献の施設を恒常的にもつことがひとつの進路になるだろう。

入園者数の動向

公益財団法人の主要な使命であり、重要な収入の柱のひとつが入園者である。2014 年度の入園者数は 147,523 人、2015 年度は 154,378 人、2016 年度は 118,113 人、2017 年度は 112,965 人だった。すなわちサル年のときに一時上向いて 15 万人を超えたが、全体としては減少傾向にある。なんとか入園者数の増加につながるくふうが必須だと認識している。公益財団法人化後の 4 年間を総括し、広報や、さらには施設の更新等に積極的に取り組みたい。

公益財団法人化以前の入園者数は、隣接する遊園地「日本モンキーパーク」（名鉄の関連会社である名鉄インプレスが経営）との合算値でしか出てこない。まだ「ラインパーク」という営業呼称で、名古屋鉄道株式会社の直営施設だったところ、1978 年（昭和 53 年）に 1,254,375 人で 100 万人を超えていたのが最高である。日本モンキーパークになって 1985 年（昭和 60 年）に 1,137,375 人で、そこから徐々に減って 2002 年に 80 万人を切り、2010 年に 60 万人を切った。公益財団法人化して分離独立したあと、モンキーパーク単体で現在の年間入園者数は 50 万人台で推移していると承知している。

パークとのあいだは連絡通路で行き来ができる。しかし民営の施設と公益の施設なので共通券等の設定がむずかしい。来園者からは「以前は入れたのに、どうして両方に入れないのか」という苦情があり、人々のニーズにあわせた受け入れ態勢を作るよう話し合いを進めている。

京都大学との連携

京都大学の「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（英文略称、PWS）」は 2013 年 10 月 1 日に発足し 6 年度目に入り、中間評価では最高の S 評価を得た。霊長類を初めとする絶滅の危機に瀕した野生動物について、研究・教育・社会貢献をおこなっている。日本モンキーセンターは PWS の実践の場と位置づけられる。

PWS のカリキュラムの一環として、実際に飼育、標本管理、獣医業務を経験する「動物園・博物館実習」を JMC で実施している。この実習は、京都大学大学院理学研究科の正式科目としても位置付けられている。実習での経験を踏まえて、連携研究でも多

くのPWS履修生がそれぞれの研究テーマを持ってJMCで研究するようになった。PWSが主催する屋久島実習などに、JMCのスタッフも参加し、相互交流が実現している。また、小中高の団体利用時にも、機会によってPWS履修生が主体的に関わっている。具体的にはスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の高校生向けの園内一斉ガイドなどでは、留学生による英語のガイドに人気があった。さらに、夏休みに東京丸の内で実施する「丸の内キッズジャンボリー」でも、JMCとPWSの連携が2014年から継続しており、5年目に入った。

京都大学との連携の利点は、京都大学に籍を置く職員が勤務地を日本モンキーセンターとして、日々の運営に参画することだ。わたくし自身、給与は京都大学からいただき、無給の所長としてその運営にたずさわっている。同様に、現在、助教が2名、研究員が3名、京都大学に籍を置いたまま、日々の活動を日本モンキーセンターに拠点を置いておこなっている。

もうひとつの明確な利点は、科学的に正しい知識の普及である。理事長、所長から、若い事務職員や飼育員まで含めて、アドバイザーを除いた職員の中に、博士の学位をもつものが9名（尾池、松沢、山極、伊谷、友永、林、高野、新宅、早川）、修士号ないし獣医師の資格をもつものがほかに10名いる（修士：木村、打越、赤見、鏡味、田中、廣澤、小泉、舟橋、獣医師：木村、岡部、綿貫）。職員の半分近くが修士・博士相当というこれほど高学歴の動物園は日本では他に類例がないだろう。そうした学術的基盤を活かして、動物の名前の表記や生態・行動の解説には万全を期している。「日本モンキーセンター霊長類和名リスト447種」を公開しているのが良い証左だといえるだろう。日本モンキーセンターが、霊長類学の分野における標準的な和名を提供している。

リサーチフェローとキュレーター

河合雅雄さん（現会長）が所長をしていた時代、1983年に「リサーチフェロー」という職種をJMCが初めて導入した。初代のリサーチフェローが、山極壽一京大総長（JMC博物館長）である。著書等で目にする山極さんの履歴には必ずその冒頭に「日本モンキーセンター・リサーチフェロー」と明記されている。京大の大学院生だったころ、屋久島の野生ニホンザルに続き、アフリカで野生マウンテンゴリラの研究をした。大学院をでて30歳になってもまだ定職がないときに、JMCがリサーチフェロー研究職を用意したのである。山極さんは1952年2月21日生まれで、1983年1月16日だから、もうすぐ31歳というときである。5年半をリサーチフェローとしてすごして、1988年7月1日に京都大学霊長類研究所の助手になった。以後、助教授、教授、研究科長・学部長となり、2014年10月1日に京大総長になった。JMCは、山極さんを最初に見出したことを誇りにしている。

歴代リサーチフェローは以下のとおり。生態系のリサーチフェローは、山極壽一（京都大学総長）、広谷（宮藤）浩子（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員）、浜井美弥（京都大学研究員）、中村美知夫（京都大学准教授）、竹ノ下祐二（中部学院大学教授）、座馬耕一郎（長野県看護大学准教授）、伊藤詞子（京都大学研究員）、大橋岳（中部大学講師）である。形態系のリサーチフェローは、濱田穰（京都大学教授）、中野良彦（大阪大学准教授）、小林秀司（岡山理科大学准教授）、郡司晴元（茨城大学准教授）、高野智（JMC博士学芸員）、江木直子（京都大学助教）、清水大輔（中部学院大学准教授）、新宅勇太（京都大学特定助教・JMC博士学芸員）。

公益財団法人化して、リサーチフェローという職名を廃した。それまで学芸員とリサーチフェローと区別していたものを、欧米の標準にならって「キュレーター（curator）」すなわち「博士学芸員」と統一して位置づけた。博士学芸員とは、博物館・動物園の学術を担う博士の学位をもつかそれと同等の者である。高野智（京大理学博士）、赤見理恵（東大修士）、新宅勇太（京大理学博士・京大特定助教）、早川卓志（京大理学博士・京大特定助教）、綿貫宏史朗（獣医師・京大特定研究員）の5名が博士学芸員として新生JMCに勤務している。なお、新宅・早川・綿貫の3名は京都大学に籍を置きつつJMCを勤務地にするものである。

JMCはリサーチフェローという職を1983年に導入した。35年も前のことだ。この間に、JMCのリサーチフェローとして過ごした方々が社会の重要な職責を担うにいたったことを誇りに思いたい。また、その伝統を受け継ぐ博士学芸員がその他のエデュケーターと呼ばれる学芸員と協力して、さらに学術部を盛り立ててほしいと願っている。なお2018年度（平成30年度）から、学術部は友永雅己部長（京大教授）と林美里副部長（京大助教）という、2人の京大霊長類研究所の教員が指導する体制になった。

モンキー友の会、法人友の会

公益財団法人発足とともに、友の会の制度を発足させた。年間3,000円である。会員になると、年間の入園が無料になり、駐車場が無料になり、年2回発行の「ニューズレター」とともに催事のお知らせが届くしくみだ。また年2回、4月と10月に、

友の会の会員だけを対象にした講演会を開催し、必ず尾池理事長か、松沢所長か、山極博物館長か、伊谷動物園長が講演する、というかたちで会員限定のサービスを提供してきた。会員数は 800 人程度で推移している。年額にすると 240 万円なのでまとまった収入源だ。これをさらに増やす努力が必要だろう。平成 30 年度からはサポート会員（年会費 5,000 円以上）という制度も始めた。さらには、法人を対象にした会員制度も試験的に運用中である。

運営組織

公益財団法人としての運営を法にのっとって粛々と進めている。法令により、特定団体に所属する理事や評議員が総数の 3 分の 1 を超えてはならない。そのため、京都大学の関係者は 3 分の 1 未満になるように配慮して、各界からのご意見を広く取り入れるように心がけている。

公益財団法人化して 4 年が経過したので、その間の実績等を考慮して評議員が一部交代した。評議員会が理事を選任するのが公益財団法人のあり方なので、今後は運営の中核である理事についても任期の節目ごとに見直して、事業の安定した継続を図りたい。

JMC は博物館であり動物園だという二重の性格をもっている。しかし運営体制は理事長のもと、所長がいて、その下に博物館長、さらに下に動物園長という、一直線の指揮系統にした。博物館と動物園を並列しない。動物園の運営も手掛ける博物館である、という姿勢を鮮明にしている。かつ指揮系統が明瞭で、現場を直接に統括するのは動物園長一人である。すなわちこの 4 年間、伊谷動物園長のもとに現場は運営されてきた。

動物園長のもとに 3 部構成で、学術部、動物園部、事務部がある。2 年間だけ国際保全事業部を置いて 4 部構成とした。平成 30 年 6 月に 3 部構成に戻した。そうした各部の活動とその詳細は、この年報に詳述されているのでぜひご覧いただきたい。

なお「全体会議」というユニークな手法で組織を運営してきた。ギリシャの時代の直接民主制のようなものをイメージしていただきたい。所長、動物園長から、正職員や契約職員まで含め、また学術部員も飼育員も事務職員も所外のアドバイザーも、全員が一堂に会する。総員 40 数名の会合だ。これを毎月 1 回開催している。議事録の出席名簿は職階順ではなくて、日本モンキーセンターに着任した順番になっている。4 年目のわたくしが、そろそろ中堅にさしかかった。重要な事項をこの場で直接に審議し、主要な情報をみなで共有する。公益財団法人化を契機に持ち込んだこうした自由・自主・自立の精神が、新生の公益財団法人日本モンキーセンターに根付いてほしいと願っている。

経営

日本の動物園は約 90 園あるが、その約 7 割が地方公共団体により設立または運営されている。都道府県や大きな市である。ただし「自治体立」は 7 割とはいえ、指定管理者制度などにより自治体の手で運営されていないものが過半数を占めるようになってしまっている。北からみると、旭川、札幌、釧路、盛岡、仙台・・・というようになる。大型類人猿のいる動物園はすべて大型類人猿情報ネットワーク GAIN に登録されているので、そちらを見ていただくと主要な施設は網羅されている。

検索エンジンのグーグルでこうした動物園の名前を入れてみると、「グーグルのクチコミ」というかたちで人々の評判が数値化されて出てくる。5 段階評価だ。5 が最高点で、1 が最低点になる。レストランや観光地を決める際に目安にしておられる方も多いだろう。

動物園を検索して評価の高い順番に並べてみると(7 月 29 日現在で)、4.4 が旭川の旭山動物園や和歌山白浜のアドベンチャーワールド、4.3 が東京の多摩動物公園や名古屋の東山動物園や豊橋の豊橋総合動植物公園、4.2 が東京の上野動物園や横浜のよこはま動物園ズーラシアや神戸の王子動物園、4.1 が京都市動物園、4.0 が大阪の天王寺動物園、3.9 が日本モンキーセンターと続く。

ちなみに動物園以外の施設と比較すると、日本モンキーセンターと隣接している名鉄インプレス経営の日本モンキーパークという遊園地の評価は同じ 3.9 である。同じ市内の施設としては、4.3 が犬山城と明治村、4.0 がリトルワールドとなる。また、サルだけを扱う施設といえば、日本には野猿公苑が 1950 年代から各地にできた。現在著名なものとしてある施設を同様に検索してみると、宮崎県串間市の京都大学野生動物研究センターが管理する幸島がクチコミ数は少ないが評価は 4.7 と非常に高い。そのあとは 4.5 が嵐山モンキーパークいわたやま、4.4 が長野県の地獄谷野猿公苑、4.1 が大分市の高崎山自然動物園、3.8 が兵庫県の淡路島モンキーセンターという順番になる。

こうした数百・数千にものぼる草莽の人々の声を平均した値は、そうした施設を実地に体験したわれわれがもつ実感や実態とそうかけ離れていない。すなわち日本モンキーセンターの 3.9 という評価は、けっして高くはないがそう低いものでもない

といえる。まだ伸びしろがある、と表現してもよいだろう。

施設の老朽化が著しい。この4年間は修理につぐ修理だった。大幅な施設の改修や新しい展示の導入が耳目を集めるのは容易に想像できるが、そうしたことをする財政的な余力はないと判断して、この4年間は自重してきた。しかし、施設の更新は直近の課題になっており、伊谷動物園長のもと動物園の施設の将来構想の検討をおこなっている。

この年報に、JMCの収支については詳細を掲載している。ぜひそれを熟読していただきたい。JMCの掲げる目標も、日々の実践もすばらしいものがある。唯一たりないのは収支のバランスだ。しかし、収支のバランスを欠いたままでは事業として存続しない。公益財団法人化して4年が経過したが、今はまだ、前身の財団法人という時代の日本モンキーセンターを支援し、動物園を自ら運営してきた名古屋鉄道という企業が、引き続きの支援をして財団としての経営が成り立っている。今後は、多様な方面からの収入を確保して公益事業を継続していく必要があると認識している。

改革と将来構想

約40名の職員がいる。特徴はみな若いということだ。職員の年齢の中央値は20歳台後半から30歳前後で推移している。この若い人々が力だ。彼らが生息地研修を経験し、環境エンリッチメントを実践してきた。そうした中で生まれたアイデアを伊谷動物園長にあげて、この4年間にさまざまな改革を試みてきた。

最も顕著な例が2018年に完成した「ツリーハウス」だろう。キッズズーの中の大きな樹木クスノキを利用して、木の枝の上に4階建てに相当するツリーハウスを作った。設計から施工まで、すべて3人の職員がおこなった（鏡味芳宏、根本慧、石田崇斗）。こうした若い力が動物園そのものの運営や経営の力になっていき、さらには博物館を含めた活動がさらに盛り立てられて、真の意味での公益をめざす、ユニークな団体として公益財団法人日本モンキーセンターが育っていったほしいと願っている。

結語として

日本モンキーセンターは、これからも「自然への窓」であり続けたい。サル類を見て、その背後にある、彼らが暮らす自然そのものへの憧憬を人々の心の中に育みたい。そのためには、広範な人々の理解と支援の持続が必須だ。そのためのまず第1歩として、ぜひ現地の犬山に足を運んでいただきたい。「友の会」の会員になる。雑誌「モンキー」の年間購読をする。さらには来園した感想をSNS等で発信する。なおご寄付はインターネットからでもできるようになっており、免税措置が可能だ。広く皆様からのご支援を期待している。HPは以下の通りである。

英文：<http://www.japanmonkeycentre.org/>

和文：<http://www.j-monkey.jp/>

公益財団法人日本モンキーセンター 事業方針

この法人は定款第4条の定めるところにしたがい、以下の事業をおこなう。

1. 公益事業

- (1) 霊長類に関する総合的な調査研究
- (2) 霊長類の保護及びその生息地の保全に関わる活動
- (3) 霊長類に関する環境教育並びに社会普及活動
- (4) 霊長類に関する図書及び学術誌の刊行
- (5) 霊長類の標本等の資料の収集・管理及び展示
- (6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営
- (7) 霊長類の適切な飼育・展示並びにこれに関する技術的指導及び協力
- (8) 霊長類に関する研究会、講演会の開催
- (9) 霊長類等に関する展示、保全、環境教育及び社会普及活動に関わる人材の育成
- (10) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 収益事業

- (1) 動物園における物品並びに飲食物販事業
- (2) 所有する土地・建物の賃貸事業
- (3) その他動物園等に関連する収益事業

I 公益事業 (1) 調査研究

1. 霊長類に関する調査研究の実施

- (1) 霊長類の社会行動の研究
- (2) 霊長類の進化に関する研究
- (3) 霊長類の形態学的研究
- (4) 霊長類の生態学的研究
- (5) 霊長類の遺伝学的研究
- (6) 霊長類の保全研究
- (7) 霊長類の福祉に配慮した飼育管理に関する研究
- (8) 霊長類の福祉に配慮した獣医療に関する研究
- (9) 霊長類を中心とした教材開発に関する研究
- (10) 霊長類標本の作成・管理に関する研究並びに研究利用
- (11) 霊長類の生体及び標本を活用した連携研究の推進
- (12) 研究会等の積極的参加による情報の交換と収集
- (13) 霊長類稀少種の繁殖に関する研究
- (14) 市民参加による霊長類をはじめとした生物多様性の保全に関わる基礎研究

2. 研究倫理ガイドライン

2016年4月1日より施行

内部委員3名、外部委員4名からなる研究倫理委員会を設置

3. 外部研究費による研究活動（モンキーセンター受入分）

- (1) 日本学術振興会科学研究費基盤C（2016～2018年度）
代表者：赤見理恵
分担者：高野智
課題名：プロトコル分析を用いた動物園における学びの構造的研究
- (2) 京都大学野生動物研究センター共同利用研究（2017年度）
代表者：木村直人
課題名：動物園飼育下サル類の健康管理の指標となる標準体脂肪率の検討

4. 他機関との連携

- (1) 大型類人猿情報ネットワーク（GAIN）との連携
綿貫宏史朗
- (2) 地球規模生物多様性情報機構（GBIF）およびサイエンスミュージアムネットへの標本情報の提供
- (3) 環境省生物多様性センター モニタリングサイト1000里地調査の実施（S118 犬山地域：日本モンキーセンター哺乳類調査グループ）
園敷地内3ヶ所（アフリカセンター裏、バックヤード裏、エコドーム裏）にセンサーカメラを設置
設置期間：2017年6月13日～7月23日

5. 研究業績

(1) 論文他

- Altschul DM, Wallace EK, Sonnweber R, Tomonaga M, Weiss A. (2017). Chimpanzee intellect: Personality, performance and motivation with touchscreen tasks. Royal Society Open Science. 4: 170169. doi: 10.1098/rsos.170169
- Bard KA, Maguire-Herring V, Tomonaga M, Matsuzawa T. (2017). The gesture 'Touch': Does meaning-making develop in chimpanzees' use of a very flexible gesture? Animal Cognition. online first. doi: 10.1007/s10071-017-1136-0
- Bryson-Morrison N, Tzanopoulos J, Matsuzawa T, Humle T. (2017) Activity and habitat use of chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in the anthropogenic landscape of Bossou, Guinea, west Africa. International Journal of Primatology. 38: 282–302. doi: 10.1007/s10764-016-9947-4
- Chapman CA, Bortolamiol S, Matsuda I, Omeja PA, Paim FP, Reyna-Hurtado R, Sengupta R, Valenta K (2018) Primate population dynamics: variation in abundance over space and time. Biodiversity and Conservation. online first. DOI: 10.1007/s10531-017-1489-3
- Fitzgerald M, Coulson R, Lawing A, Matsuzawa T, Koops K (2018) Modeling habitat suitability for chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in the Greater Nimba Landscape, Guinea, West Africa. Primates. online first. doi: 10.1007/s10329-018-0657-8
- Gao J, Su Y, Tomonaga M, Matsuzawa T. (2017) Learning the rules of the rock-paper-scissors game: chimpanzees versus children. Primates. 59: 7–17. doi: 10.1007/s10329-017-0620-0
- Gonseth C, Kawakami F, Ichino E, Tomonaga M. (2017) The higher the farther: Distance-specific referential signals in chimpanzees (*Pan troglodytes*). Biology Letters. 13: 20170398. doi: 10.1098/rsbl.2017.0398
- Hanya G, Naito S, Namioka E, Ueda Y, Sato Y, Pastrana AJ, He T, Yan X, Saito M, Costa FPR, Allanic M, Honda T, Kurihara Y, Yumoto T, Hayakawa T. (2017) Morphometric and Genetic Determination of Age Class and Sex for Fecal Pellets of Sika Deer (*Cervus nippon*) Mammal Study. 42: 239–246. doi: 10.3106/041.042.0406
- Haslam M, Hernandez-Aguilar R, Adriana, Proffitt T, Arroyo A, Falótico T, Frigaszy D, Gumert M, Harris JWK, Huffman MA, Kalan AK, Malaivijitnond S, Matsuzawa T, McGrew W, Ottoni EB, Pascual-Garrido A, Piel A, Pruett J, Schuppli C, Stewart F, Tan A, Visalberghi E, Luncz LV. (2017) Primate archaeology evolves. Nature Ecology & Evolution. 1: 1431–1437. doi: 10.1038/s41559-017-0286-4
- Hayashi M, Matsuzawa T. (2017) Mother-infant interactions in captive and wild chimpanzees. Infant Behavior and Development. 48 Part A: 20–29. doi: 10.1016/j.infbeh.2016.11.008
- Hayashi M, Kawakami F, Roslan R, Hapiszudin NM, Dharmalingam S. (2018) Behavioral studies and veterinary management of orangutans at Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia. Primates. 59: 135–144. doi: 10.1007/s10329-018-0650-2
- Imura T, Kawakami F, Shirai N, Tomonaga M. (2017) Perception of the average size of multiple objects in chimpanzees (*Pan troglodytes*). Proceedings of the Royal Society Series B. 284: 20170564. doi: 10.1098/rspb.2017.0564
- Koda H, Tuuga A, Goossens B, Murai T, Nathan SKSS, Stark DJ, Ramirez Saldivar DA, Sha JCM, Osman I, Sipangkui R, Seino S, Matsuda I. (2018) Nasalization by *Nasalis larvatus*: larger noses audiovisually advertise conspecifics in proboscis monkeys. Science Advances. 4(2): eaaq0250. doi: 10.1126/sciadv.aag0250
- Kunimatsu Y, Tsuiikawa H, Nakatsukasa M, Shimizu D, Ogihara N, Kikuchi Y, Nakano Y, Takano T, Morimoto N, Ishida H. (2017) A new species of *Mioeoticus* (Lorisiformes, Primates) from the early Middle Miocene of Kenya. Anthropological Science. 125: 59–65. doi: 10.1537/ase.170322
- Martin CF, Biro D, Matsuzawa T. (2017) Chimpanzees spontaneously take turns in a shared serial ordering task. Scientific Reports. 7: 14307. doi: 10.1038/s41598-017-14393-x
- Matsuda I, Bernard H, Tuuga A, Nathan SKSS, Sha JCM, Osman I, Sipangkui R, Seino S, Asano S, Wong A, Kreuzer M, Ramirez Saldivar DA, Clauss M. (2018) Fecal nutrients suggest diets of higher fiber levels in free-ranging than in captive proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*). Frontiers in Veterinary Science 4: 246. doi: 10.3389/fvets.2017.00246
- Matsuda I, Chapman CA, Physilia CYS, Sha JCM, Clauss M. (2017) Primate resting postures: constraints by foregut fermentation? Physiology and Biochemical Zoology. 90: 383–391. doi: 10.1086/691360
- Matsuzawa T. (2017) The 40th anniversary of the Ai Project: the commemorative gift is a silk scarf painted by Ai the chimpanzee. Primates. 58: 261–265. doi: 10.1007/s10329-017-0604-0
- Matsuzawa T. (2017) Monkeys and mountains in Yunnan, China. Primates. 58: 379–383. doi: 10.1007/s10329-017-0613-z
- Matsuzawa T. (2017) Horse cognition and behavior from the perspective of primatology. Primates. 58: 473–477. doi: 10.1007/s10329-017-0632-9
- Matsuzawa T. (2018) Parabolic flight: experiencing zero gravity to envisage the future of human evolution. Primates. 59: 1–3. doi: 10.1007/s10329-017-0639-2
- Matsuzawa T. (2018) Chimpanzee Velu: the wild chimpanzee who passed away at the estimated age of 58. Primates. 59: 107–111. doi: 10.1007/s10329-018-0654-y
- Mendonça RS, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Bernard H, Matsuzawa T. (2017) Development and behavior of wild infant-juvenile East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley. Primates. 58: 211–224. doi: 10.1007/s10329-016-0567-6
- Mizuno K, Sharma N, Idani G, Sukumar R. (2017) Collective behaviour of wild Asian elephants in risky situations: how do social groups cross roads? Behaviour. 154: 1215–1237. doi: 10.1163/1568539X-00003465

- Moore J, Black J, Hernandez-Aguilar RA, Idani G, Piel A, Stewart F. (2017) Chimpanzee vertebrate consumption: Savanna and forest chimpanzees compared. *Journal of Human Evolution*. 112: 30-40. doi: 10.1016/j.jhevol.2017.09.004
- Moriya-Ito K, Hayakawa T, Suzuki H, Hagino-Yamagishi K, Nikaido M. (2018) Evolution of vomeronasal receptor (V1R) genes in the common marmoset (*Callithrix jacchus*). *Gene*. 642: 343-353. doi: 10.1016/j.gene.2017.11.048
- Nze-Nkogue C, Horie M, Fujita S, Inoue E, Akomo-Okoue EF, Ozawa M, Yamato O, Ngomanda A, Yamagiwa J, Tsukiyama-Kohara K. (2017) Identification and molecular characterization of novel primate bocaparvoviruses from wild western lowland gorillas of Moukalaba-Doudou National Park, Gabon. *Infection, Genetics and Evolution*. 53: 30-37. doi: 10.1016/j.meegid.2017.05.004
- Ringhofer M, Inoue S, Mendonça RS, Pereira C, Matsuzawa T, Hirata S, Yamamoto S. (2017) Comparison of the social systems of primates and feral horses: data from a newly established horse research site on Serra D'Arga, northern Portugal. *Primates*. 58: 479-484. doi: 10.1007/s10329-017-0614-y
- Ruslin F, Azmi MA, Matsuda I, Amir R, Md-Zain BM. (2017) Monkey school : training phases for coconut-picking macaques (*Macaca nemestrina*). *Malaysian Nature Journal*. 69: 301-306.
- Sakai T, Mikami A, Suzuki J, Miyabe-Nishiwaki T, Matsui M, Tomonaga M, Hamada Y, Matsuzawa T, Okano H, Oishi K (2017) Developmental trajectory of the corpus callosum from infancy to the juvenile stage: Comparative MRI between chimpanzees and humans. *PLoS ONE*. 12(6): e0179624. doi: 10.1371/journal.pone.0179624
- Saito M, Idani G. (2018) Giraffe mother-calf relationships in the miombo woodland of Katavi National Park, Tanzania. *Mammal Study*. 43: 11-17. doi: 10.3106/ms2017-0050
- Tatsumoto S, Go Y, Fukuta K, Noguchi H, Hayakawa T, Tomonaga M, Hirai H, Matsuzawa T, Agata K, Fujiyama A. (2017) Direct estimation of de novo mutation rates in a chimpanzee parent-offspring trio by ultra-deep whole genome sequencing. *Scientific Reports*. 7: 13561. doi: 10.1038/s41598-017-13919-7
- Wilson DA, Tomonaga M. (2018) Visual discrimination of primate species based on faces in chimpanzees. *Primates*. online first. doi: 10.1007/s10329-018-0649-8
- Yamanashi Y, Nogami E, Teramoto M, Morimura N, Hirata S. (2017) Adult-adult social play in captive chimpanzees: is it indicative of positive animal welfare? *Applied Animal Behaviour Science*. 199: 75-83. doi: 10.1016/j.applanim.2017.10.006
- Yamanashi Y, Teramoto M, Morimura N, Nogami E, Hirata S. (2017) Social relationship and hair cortisol level in captive male chimpanzees (*Pan troglodytes*). *Primates*. 59: 145-152. doi: 10.1007/s10329-017-0641-8
- (2) 書籍
- 赤見理恵. (2018) 自然への窓としての動物園. 稲村哲也, 近藤智嗣 (編著). 博物館情報・メディア論 (放送大学教材). pp. 189-192.
- 五神真, 山極寿一. (2017) 五神真・東大総長、山極寿一・京大総長とおおいに語る. In: 五神真 (著) 変革を駆動する大学. 東京大学出版会. pp. 173-187.
- 伊谷原一. (2017) なつ教授の霊長類学入門 5 「教えて！伊谷先生！」「ボノボ博士になろう！」編. エトヴァス・ノイエス. (電子書籍)
- 伊谷原一. (2017) なつ教授の霊長類学入門 6 「続・教えて！伊谷先生！」「人間とは何か」編. エトヴァス・ノイエス. (電子書籍)
- 伊谷原一, 三宅美穂. (2017) Bonobo book / ボノボっ句 for Kids なつ教授の霊長類学入門. エトヴァス・ノイエス. (電子書籍)
- 松沢哲郎. (2017) 心の進化をさぐる—はじめての霊長類学. NHK シリーズ こころをよむ. NHK 出版.
- 太瀬希郷. (監・著). (2017) 世界のかわいいけ も の！パイインターナショナル. 112 pp.
- 尾池和夫. (2017) 瓢鮎図. 角川俳句叢書日本の俳人 100. 角川文化振興財団. 204pp.
- 友永雅己. (2017) 大型類人猿の言語 (ヒト以外の動物での言語獲得②). 岩立志津夫, 小椋たみ子 (編) よくわかる言語発達 (改訂新版). pp. 90-91.
- 山極壽一. (2017) なつ教授の霊長類学入門 4 山極教授の特別講義「サルと歩いた日本 ゴリラと歩いたアフリカ」. エトヴァス・ノイエス. (電子書籍)
- 山極壽一. (2017) 「おもろいこと」が世界を変える. In: 構想の庭. (ライフデザインブックス新書 6). ジャパンライフデザインシステムズ. pp. 153-173.
- 山極壽一. (2017) 共感力暴発 宗教が止めよ. In: 中外日報社 (編). 時代を生きる宗教を語る. 中外日報社. pp. 121-130.
- Yamagiwa J. (2018) Evolution of community and humanity from primatological viewpoints. In: Yamashita S, Yagi T, Hill S (eds). *The Kyoto Manifesto for Global Economics : The Platform of Community, Humanity, and Spirituality*. Springer Nature. pp. 329-357.
- 山極壽一. (2018) 霊長類の共通祖先から受け継いだヒトのレジリエンス. In: 奈良由美子, 稲村哲也 (編). レジリエンスの諸相—人類史的視点からの挑戦—. 放送大学教育振興会. pp. 36-55.
- 山極壽一. (2018) 味方をつくらない. In: 14 歳の世渡りシリーズ 世界を平和にするためのささやかな提案. 河出書房新社. pp. 118-124.
- 山極壽一. (2018) これからの人類—身体感覚を取り戻し、データから脱出せよ. In: 菅付雅信 (編). これからの教養—激変する世界を生き抜くための知の 11 講. ディスカヴァー・トゥエンティワン. pp. 350-379.
- 山極壽一. (2018) 探検大学の源流. In: 田中和子 (編). 探検家ヘディンと京都大学. 京都大学学術出版会. pp. 155-157.
- 山極壽一, 本郷峻. (2017) 人類の社会性の進化 [上]: 「社会」の学としての霊長類学. iCardbook. 詩想舎.
- 山極壽一, 本郷峻. (2017) 人類の社会性の進化 [下]: 共感社会と家族の過去、現在、未来. iCardbook. 詩想舎.
- 山極壽一, 鎌田浩毅. (2018) ゴリラと学ぶ—家族の起源と人類の未来. ミネルヴァ書房. 340 pp.

山極壽一, 尾本恵市. (2017) 日本の人類学. 筑摩書房. 286 pp.
 山極壽一, 関野吉晴. (2018) 人類は何を失いつつあるのか. 東海教育研究所. 274 pp.

(3) 霊長類和名リスト

霊長類を 447 種とした和名リストの作成
 公開日: 2018 年 3 月 30 日
 URL: <http://www.j-monkey.jp/publication/specieslist/JMC-PrimateSpeciesList-Mar2018.pdf>
 作成: 日本モンキーセンター霊長類和名編纂
 ワーキンググループ (新宅勇太、綿貫宏史朗、高野智、早川卓志、赤見理恵)

(4) 連載・記事 (モンキー掲載分を除く)

① 尾池和夫 瓜生通信 (京都造形芸術大学)

「瓜生山歳時記」
 #8 都をどり in 春秋座 2017 年 4 月 12 日
 #9 常磐木落葉を載せた大階段 5 月 9 日
 #10 梅雨茸と瓜生山の斜面 6 月 14 日
 #11 紅花の咲く東北芸術工科大学 7 月 12 日
 #12 原爆忌と芸術平和学 8 月 16 日
 #13 秋の灯と「日輪の翼」京都公演 9 月 12 日
 #14 秋祭と栗田神社の大燈呂 10 月 18 日
 #15 甘藷と瓜生山の農場 11 月 8 日
 #16 瓜生山に散る紅葉 12 月 11 日
 #17 東北芸術工科大学の寒紅染め 2018 年 1 月 24 日
 #18 瓜生山学園の卒業制作展 2 月 27 日
 #19 ものの芽にあふれる瓜生山学園の春 3 月 27 日

② 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「京都の地球科学」

(276) 熊本での講演会 (二) 2017 年 4 月号
 (277) 都をどり in 春秋座 5 月号
 (278) 祇園甲部歌舞練場の庭 6 月号
 (279) 西安への旅 (一) 7 月号
 (280) 西安への旅 (二) 8 月号
 (281) 西安への旅 (三) 9 月号
 (282) 西安への旅 (四) 10 月号
 (283) 西安への旅 (五) 11 月号
 (284) 西安への旅 (六) 12 月号
 (285) 西安への旅 (七) 2018 年 1 月号
 (286) 下仁田ジオパーク (一) 2 月号
 (287) 下仁田ジオパーク (二) 3 月号

③ 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「瓢鮎抄」

(一〇〇) 2017 年 4 月号
 (一〇一) 5 月号
 (一〇二) 6 月号
 (一〇三) 7 月号
 (一〇四) 8 月号
 (一〇五) 9 月号
 (一〇六) 10 月号
 (一〇七) 11 月号
 (一〇八) 12 月号
 (一〇九) 2018 年 1 月号
 (一一〇) 2 月号
 (一一一) 3 月号

④ 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「季語つれづれ番外」
 (一九) 【斑猫】道をしへ 2017 年 6 月号
 (二〇) 【罌粟の花】芥子の花 白芥子 ポピー 芥子畑 7 月号
 (二一) 【金魚】和金 琉金 蘭鉢 出目金 金魚田 8 月号
 (二二) 【野分】野分後 夕野分 野分雲 野分晴 【二百十日】厄日 二百二十日 9 月号
 (二三) 【鳥兜】鳥頭 10 月号
 (二四) 【銀杏ぎんなん】銀杏の実 11 月号
 (二五) 【八手の花】 12 月号
 (二六) 【寒紅】丑紅 2018 年 2 月号
 (二七) 【観潮】渦潮見 渦見船 観潮船 渦潮 3 月号

⑤ 松沢哲郎 愛媛新聞 「道標 ふるさと伝言」

「スコットランドの山」 2017 年 4 月 23 日
 「雲南の山とキンシコウ」 5 月 28 日
 「ポルトガルの野生馬」 7 月 2 日
 「アイ・プロジェクト 40 年」 8 月 6 日
 「西安の兵馬俑に思う」 9 月 10 日
 「白神山地のニホンザル」 10 月 15 日
 「そして月に行く」 11 月 19 日
 「ブータンの国民総幸福」 12 月 24 日

⑥ 山極壽一 京都新聞夕刊 「ヒトときどきゴリラ」

「言葉より目と目で通じ合う」 2017 年 4 月 12 日
 「下のしつけは人間への修練」 5 月 10 日
 「「同じ釜の飯」は人間だけの絆」 6 月 14 日
 「皆で育てる人間の赤ちゃん」 7 月 12 日
 「仲間に認められる自由」 8 月 9 日
 「ハミングで楽しい気分満喫」 9 月 13 日
 「背中で語る 社会がつくった「男」」 11 月 8 日
 「無性に歩き周りたくなる理由」 12 月 13 日
 「ともに生きる幸福を取り戻そう」 2018 年 1 月 10 日

⑦ 岩波書店『科学』

連載「ちびっこチンパンジーと仲間たち」

林美里, 熊崎清則, 松沢哲郎, 友永雅己. (2017) プチの最期 —チンパンジーの脳死—. (第 187 回). 科学. 87: 640-641.

友永雅己. (2017) 霊長類研究所 50 周年 —過去, 現在, そして未来 (第 188 回). 科学. 87: 722-723.

平田聡, リングホーファー萌奈美, 井上漱太, レナータ・メンドンサ, カルロス・ペレイラ, 松沢哲郎, 山本真也. (2017) 野生ウマの社会: 霊長類との比較から. (第 189 回). 科学. 87: 826-827.

森村成樹. (2017) ドローンを活用して“チンパンジーの森”を復元する (第 190 回). 科学. 87: 912-913.

伊村知子, 友永雅己. (2017) チンパンジーは, 平均の大きさがわかるか? (第 191 回). 科学. 87: 1002-1003.

松沢哲郎, クリス・マーチン, ドラ・ビロ. (2017) チンパンジーが協力して課題解決: 2 人で数字を順番に答える (第 192 回). 科学. 87: 1114-1115.

松沢哲郎. (2018) ジェーン・グドールのコスモス賞
2017 受賞 (第 193 回). 科学. 88: 36-37.

郷康広, 藤山秋佐夫, 阿形清和, 松沢哲郎. (2018) チン
パンジー親子トリオのゲノム解析 (第 194 回). 科
学. 88: 122-123.

- ⑧ 木村直人 中日新聞「愛ラブ自然」
「希少種 双子の成長順調 (ワタボウシパンシェ)」
2017 年 4 月 19 日
「餌やりは今でも手探り (クロミミマーモセット)」
6 月 21 日
「群れで成長 3 歳の夏 (チンパンジー)」
9 月 6 日
「20 分間 鳴き声の大合唱 (フクロテナガザル)」
11 月 29 日
「「ワン」と鳴くイヌヒヒ (アヌビスヒヒ)」
2018 年 1 月 31 日

- ⑨ 犬山市 広報犬山 「モンキーレポート」
第 1 回「サルを知ることとはヒトを知ること」
2017 年 4 月 15 日号 伊谷原一
第 2 回「ワオキツネザル、うまれたよ！」
2017 年 5 月 15 日号 田中ちぐさ
第 3 回「学校と連携した授業づくり」
2017 年 6 月 15 日号 高野智
第 4 回「チンパンジーの仲間たち」
2017 年 7 月 15 日号 廣澤麻里
第 5 回「見上げてごらん、木の上のサルを」
2017 年 8 月 15 日号 早川卓志
第 6 回「ヒトの誕生、サルの誕生」
2017 年 9 月 15 日号 赤見理恵
第 7 回「どうぶつ園のじゅうい」
2017 年 10 月 15 日号 木村直人
第 8 回「動物たちだって季節を感じたい
～こんなに変わった霊長類たちの食生活～」
2017 年 11 月 15 日号 安倍由里香
第 9 回「戊年間近！モンキーセンターのイヌ？紹介」
2017 年 12 月 15 日号 荒木謙太
第 10 回「アフリカ・コンゴの森のボノボ」
2018 年 1 月 15 日号 新宅勇太
第 11 回「守ろう、希少な動物たち」
2018 年 2 月 15 日号 綿貫宏史朗
第 12 回「『今日のモップくん』 ～個性たっぷり
動物たちの魅力～」
2018 年 3 月 15 日号 根本慧

⑩ その他新聞記事

尾池和夫. (2017) 地元で愛される大学に. 京都造形芸
大 小山新副学長会見. 京都新聞: 2017 年 4 月 5 日.
尾池和夫. (2017) 天眼「花山天文台の太陽光スペク
トル」. 京都新聞: 2017 年 4 月 14 日.
尾池和夫. (2017) 花山天文台に市民の支えを「考える
会」設立講演会. 京都新聞: 2017 年 4 月 15 日.
尾池和夫. (2017) 花山天文台、活用の夢語ろう京都大
で「将来を考える会」設立記念講演／京都府. 朝日
新聞: 2017 年 4 月 16 日.
尾池和夫. (2017) [季のうた] 苗売に花の香を聞き求
めけり 尾池和夫. 愛媛新聞: 2017 年 5 月 20 日.

尾池和夫. (2017) イベント／京都府. 朝日新聞:
2017 年 6 月 1 日.
尾池和夫. (2017) [時を重ねる] 俳句 科学と似た自然
観察 京都造形芸術大学長 尾池和夫さん. 読売新聞:
2017 年 6 月 4 日.
尾池和夫. (2017) 生活空間に「書」を 杭迫さん呼び
掛け熊本市で講演. 熊本日日新聞: 2017 年 6 月 13
日.
尾池和夫. (2017) 一緒にやろうよ京都花山天文台の将
来を考える会 (京都市山科区) 観望会や天文講話開
く. 京都新聞: 2017 年 7 月 4 日.
尾池和夫. (2017) 京都はぐくみネット発足 700 人、
子育て環境整備誓う. 京都新聞: 2017 年 7 月 11 日.
尾池和夫. (2017) 【誘惑する京都】山上直子「愛逢月」
京都大花山天文台. 産経新聞: 2017 年 7 月 31 日.
尾池和夫. (2017) ニュースフォルダー／「慰安婦記
念日」法制化へ／韓国国会委員会で可決／カナダで
39.5 億年前の生物痕跡、東大准教授ら発見／世
界唯一禁止／女性運転サウジ許可へ. 宮崎日日新聞:
2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 関西サイエンス・フォーラム、地震
予知研究の解説. 日刊工業新聞: 2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 阿蘇ジオパーク“黄信号”事前審
査で認定継続「条件付き」ズーム. 熊本日日新聞:
2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 「十勝岳」認定見送り／日本ジオパ
ーク「国引き」は保留. 長崎新聞: 2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 阿蘇ジオパーク条件付きで継続. 西
日本新聞: 2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 島根「国引き」認定保留 日本ジオ
パーク山陰海岸 連携に注文. 中国新聞: 2017 年 9
月 28 日.
尾池和夫. (2017) 新規 2 地域認定せず日本ジオパ
ーク. 岩手日報. 2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 日本ジオパーク山陰海岸は継続 新
規 2 地域、認定せず. 京都新聞: 2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 日本ジオパーク委員会: 熊本・阿蘇
保全運営、改善要求へ柱状節理破壊で. 毎日新聞:
2017 年 9 月 28 日.
尾池和夫. (2017) 能と京舞楽しむ催し二条城で 13、
15 日. 京都新聞: 2017 年 10 月 7 日.
尾池和夫. (2017) 伝統芸能の魅力 二条城から発信＝
京都. 読売新聞: 2017 年 10 月 8 日.
尾池和夫. (2017) 天眼「現在の現象を現場で詠む」.
京都新聞: 2017 年 11 月 19 日.
尾池和夫. (2017) 能楽・京舞の魅力、東アジアに
13 日と 15 日、二条城二の丸御殿で公演／京都府.
尾池和夫. (2017) 季語刻々: 断層の南端はここ返り花.
毎日新聞: 2017 年 11 月 21 日.
尾池和夫. (2017) 大学と軍事研究 関わり方を討議
26 日、京大でシンポ＝京都. 読売新聞: 2017 年
11 月 23 日.
尾池和夫. (2017) 大学の軍事研究 考える あす、京大
でシンポ. 京都新聞: 2017 年 11 月 25 日.
尾池和夫. (2017) 京大立て看板、景観損ねる？「広告
物」市が条例違反指摘【大阪】. 朝日新聞: 2017 年
11 月 26 日.
尾池和夫. (2017) (声) 京大立て看板、健康的な発信
【大阪】. 朝日新聞: 2017 年 12 月 12 日.

- 尾池和夫. (2017) 俳句：私が選んだ今年の秀句 大峯あきら／高野ムツオ／西村和子／片山由美子. 毎日新聞：2017年12月18日.
- 尾池和夫. (2017) 被災前に復興計画を徳島市で専門家招きシンポ. 徳島新聞：2017年12月21日.
- 尾池和夫. (2017) 西予ジオパーク再認定 日本委員会 景観条例など評価. 愛媛新聞：2017年12月23日.
- 尾池和夫. (2017) 三陸 条件付き再認定 日本ジオパーク審査「エリア統括不十分」19年再審査へ改善計画. 岩手日報：2017年12月23日.
- 尾池和夫. (2017) 平時から災害復興の準備 徳島でシンポ県と徳大共催 130人学ぶ＝徳島. 読売新聞：2017年12月23日.
- 尾池和夫. (2017) まちかど 29日 洛西. 京都新聞：2017年12月29日.
- 尾池和夫. (2017) まちかど 29日 市民. 京都新聞：2017年12月29日.
- 尾池和夫. (2018) 「季のうた」元朝を一周したる地球かな 尾池和夫. 愛媛新聞：2018年1月1日.
- 尾池和夫. (2018) 染みる年始の茶礼 裏千家・藪内家・小川流煎茶 京で初茶会. 京都新聞：2018年1月8日.
- 尾池和夫. (2018) 昨日読んだ文庫. 毎日新聞：2018年1月28日.
- 尾池和夫. (2018) 天眼「辞書に載った『ジオパーク』」. 京都新聞：2018年2月4日.
- 尾池和夫. (2018) ジオサイトで吟行句会 下仁田. 上毛新聞：2018年2月7日.
- 尾池和夫. (2018) 『常夜灯』 辞書に載った「ジオパーク」. 高知新聞：2018年2月19日.
- 尾池和夫. (2018) 県公立大学法人 理事長に尾池氏. 静岡新聞：2018年3月17日.
- 尾池和夫. (2018) 県公立大学法人理事長 尾池和夫氏が就任へ 現京都造形芸大大学長＝静岡. 読売新聞：2018年3月17日.
- 尾池和夫. (2018) 県公立大学法人理事長に尾池氏. 東京新聞：2018年3月18日.
- 尾池和夫. (2018) 東北芸工大の学位授与式・卒業式 大きな世界へ巣立つ. 山形新聞：2018年3月22日.
- 山極壽一. (2017) 崩壊する「家族」と向き合う. グローバルウォッチ「若者と社会」. 聖教新聞：2017年7月15日.
- 山極壽一. (2017) 科学に胸襟を開いて. 比叡山宗教サミット30年「祈りと対話」. 京都新聞（夕刊）：2017年7月25日.
- 山極壽一. (2017) ゴリラの友. 日本経済新聞：2017年8月4日.
- 山極壽一. (2017) 科学季評「細菌との共生―健康を保つ仲間として」. 朝日新聞：2017年8月19日.
- 山極壽一. (2017) ソフィア京都新聞文化会議「木島櫻谷 表情豊かな動物画」. 京都新聞：2017年11月3日.
- 山極壽一. (2017) 科学季評「AIによる情報通信革命 安心な人の輪 広がるか」. 朝日新聞：2017年11月11日.
- 山極壽一. (2018) 人間社会の起源から協同の価値と希望を探る. 日本労協新聞. 2018年1月5日.
- 山極壽一. (2018) 人間社会の起源から協同の価値と希望を探る②. 日本労協新聞. 2018年1月15日.
- 山極壽一. (2018) 人間社会の起源から協同の価値と希望を探る③. 日本労協新聞. 2018年1月25日.
- 山極壽一. (2018) 科学季評「住まいのかたち―一人や自然とのつながりを」. 朝日新聞2018年2月10日.
- 山極壽一. (2018) 大学で学ぶということ. 読売中高生新聞. 2018年2月23日.
- (5) そのほか執筆
- 林美里. (2017) チンパンジー研究者、母になる一ヒトの生後三歳六カ月から四歳までの発達. 発達. 150: 100-107.
- 林美里. (2017) 霊長類における愛着研究. 精神療法. 43: 66-68.
- 林美里. (2017) チンパンジー研究者、母になる一ヒトの生後四歳から四歳六カ月までの発達. 発達. 152: 93-100.
- Kim K, Choe J, Jeong G, Kim D, Tomonaga M. (2018) Chimpanzees but not orangutans display aversive reactions toward their partner receiving a superior reward. bioRxiv. 274803. doi:10.1101/274803
- 久能祐子, 山極壽一. (2017) 自分ならできる. 京都大学基金 News Letter. 5: 2-7.
- 松井大, 友永雅己. (2017) この人をたずねて：友永雅己氏. 心理学ワールド. 79: 34-35.
- 松沢哲郎. (2017) その道のプロに聞く わたしのしごと道第2回（インターネット記事）. おしごとくはくぶつかん情報館. <https://www.oshihaku.jp/series/00004/002>
- 松沢哲郎. (2017) てがきびと第5回 人生の俯瞰図を描く人（インターネット記事）. コクヨ. <http://www.kokuyo.co.jp/creative/tegakibito/matsuzawatetsurou/>
- 尾池和夫. (2017) 篝火と焚火と人類と. 京都薪能. 6月.
- 尾池和夫. (2017) 杭迫柏樹の世界展に寄せて. 書家 杭迫柏樹の世界.
- 尾池和夫. (2017) 記憶に残る宝の一句. 俳句α. 6-7月号.
- 尾池和夫. (2017) みちのくの地酒辛口春の雪. 俳句四季. 7月号.
- 尾池和夫. (2017) 科学と技術と芸術と. 電気評論. 7月10日.
- 尾池和夫. (2017) 季語を詠む「水澄む」. 俳句四季. 9月号.
- 尾池和夫. (2017) 熊本地震の仕組みと背景. 11月19日. 20日.
- 尾池和夫. (2017) 地震を詠む. 俳句無限、活性化への31章. 2017年11月23日.
- 尾池和夫. (2017) 「日本列島の巨大地震」より引用. 私たちはなぜ科学するのか―高校生のための基礎教養第2集. 2017年12月18日.
- 尾池和夫. (2018) 俳句と暮らす×地球. NHK 俳句. 2月号.
- 尾池和夫. (2018) 『氷室』創刊二十五周年記念祝賀会・四季吟詠. 俳句四季. 2月号.
- 尾池和夫. (2018) 秋澄む. WEP 俳句通信. 100号.
- 尾池和夫. (2018) 充実した読後感. 俳句文学館. 2018年3月5日.
- 大淵希郷. (2017) 質問「ゴリラは、どうしてむねをドンドンたたくのですか？」への回答. 日本学童はいく. 2017年7月号: 39.
- 大淵希郷. (2017) 生物多様性の教育普及に科学コミュニケーションの有用性を模索して. 京都大学環境白書 2017: 51.

大淵希郷. (2017) 秋こそ遭遇しやすい？ヤマカガシとの付き合い方～ヤマカガシは本当に「危険生物」なのか？～. JB Press.

Tomonaga M. (2018) Inverted face with upright body: Evidence for face inversion effect in Japanese macaques (*Macaca fuscata*) under the preferential looking procedure. bioRxiv. 266676. doi: 10.1101/266676

Tomonaga M. (2018) Familiarity and face-inversion effect in Japanese macaques (*Macaca fuscata*) during the preferential looking task. bioRxiv. 267716. doi: 10.1101/267716

山極壽一. (2017) 老いの美しさの秘密を探る. ひと・健康・未来. 12: 12-15.

山極壽一. (2017) 対話に基づいた自由な精神を創る. 言の葉協会 CONCEPT BOOK. 2017 春号: 18-20.

山極壽一. (2017) 最先端の学術分野が日本の外交政策を担う. 2018 大学ランキング, 特集「最先端研究に挑む. 朝日新聞社出版. pp. 42-43.

山極壽一. (2017) ゴリラは戦わない. MURYOJI. 105: 4-6.

山極壽一. (2017) ゴリラに学んだ地域づくり. RRM「地域資源マネジメント学の構築にむけて—平成 28 年度兵庫県立大学特色化戦略推進事業報告書—. pp. 117-131.

山極壽一. (2017) 私の三冊. 図書. 2017 臨時増刊 岩波文庫創刊 90 周年記念.

山極壽一. (2017) ゴリラの子育て 人の子育て. CHIO 通信. 1: 2-3.

山極壽一. (2017) 生物多様性を支える京都御苑. 京都御苑 NEWS. 131: 1-2.

山極壽一. (2017) 人はみんなで楽しく食べられる. ゴリラの子育て 人の子育て②. CHIO 通信. 2: 2-3.

山極壽一. (2017) 細菌ハンターたちが世界を変える. 公研. 647: 16-17.

山極壽一. (2017) 戦争の起源. 緊急寄稿歌人・著名人に問う「なぜ戦争はなくならないのか. 角川「短歌. 2017 年 8 月号別冊付録: p. 47.

山極壽一. (2017) 葉っぱのトイレ. 暮らしの手帳. 89: p. 123.

山極壽一. (2017) 戦いの本質とは何か. 現代文 B. 教育出版. pp. 301-312.

山極壽一. (2017) 「メンバーの期待にどう応えるのか」理想のリーダー. ゴリラに学ぶ. 経済界. 10 月号: 36-38.

山極壽一. (2017) 「ゴリラやサルの研究から見えてくる身体を同調させる場所づくり. 北大路プロジェクト関連企画「京都のちから. 新建築. 9 月号: 23-25.

山極壽一. (2017) 経済から社会をとりもどす. 青淵. 22: 9-10.

山極壽一. (2017) 筆者のものの見方と向き合う. 国語教育相談室中学校. 84: 4-7.

山極壽一. (2017) あとがき. In: 山中伸弥 (監), 上廣倫理研究部門 (編). 科学知と人文知の接点. 弘文堂. pp. 357-363.

山極壽一. (2017) サル化する人間社会. ファイナンス. 53 (6): 69-75.

山極壽一. (2017) なぜ人間の赤ちゃんは泣くのか—ゴリラから見た人間の子どもたちの成長と子育ての秘密—. 子供虐待とネグレクト. 19 (2): 130-140.

山極壽一. (2017) 京都御苑ずきのご近所さん. 平成 29 年度京都御苑ずきのご近所さん. pp. 69-74.

山極壽一. (2017) 大学はジャングル. トヨタ財団広報誌 JOINT. 25: 2-3.

山極壽一. (2017) 森林動物として不確かなことを不確かなままに. ちゃぶ台. 3: 159-173.

山極壽一. (2017) 類人猿とヒトから考える都市. 建築雑誌. 132 (1704): 6-9.

山極壽一. (2017) 自然と文化の間にあるジェンダー. 学術の動向. 22(11): 18-23.

山極壽一. (2017) 野生の思考と未来の人材育成. 公研. 651: 52-89.

山極壽一. (2017) 私たちは、“そのように”できている. etRouge. 15: 16-17.

山極壽一. (2017) 解説. In: ダニエル・E・リーバーマン (著), 塩原通緒 (訳). 人体 600 万年史. ハヤカワ・ノンフィクション文庫. pp. 319-325.

山極壽一. (2017) みんな、ゴリラから教わった第 33 回「みんなの時間. ちゃぐりん. 55 (1): 74-75.

山極壽一. (2017) My Hero「ゴリラのベートーベン. なごみ. 2018 年 1 月号: 58-63.

山極壽一. (2017) りかゴコロを子どもたちに. この本読んで. 2017 冬 65 号: 73-75.

山極壽一. (2018) ゴリラに学ぶ人間の本質. くにたち公民館だより. 695: 1-2.

山極壽一. (2018) 二重生活のすすめ. 公研. 653: 16-17.

山極壽一. (2018) 共感社会から共生社会へ. 臨床と研究. 95 (1): 1-2.

山極壽一. (2018) IT 時代の高等教育. 教育展望. 2018. 1・2: 2-3.

山極壽一. (2018) ゴリラの子育て 人の子育て最終回「負けずぎらいなゴリラが教えてくれること. Chio 通信 4: 2-3.

山極壽一. (2018) 人類の進歩を促す「不安」について. Crisis 5.0 — 2050 年の社会課題の探索 (日立製作所日立未来課題探索共同研究部門). pp. 4-5.

山極壽一. (2018) 社会の中で京都大学の存在感を高めるために. 第 21 回京都大学全学シンポジウム報告書「社会とつながる京都大学の教育. pp. 56-69.

山極壽一. (2018) 「おもしろい」発想で拓く研究と高等教育の未来. 環境会議. 2018 春: 18-26.

山極壽一. (2018) 書評: 赤坂憲雄著『性食考. 中央公論 2018. 4 月号: 254-255.

山極壽一. (2018) 発刊に寄せて. 学術会議叢書 24『<いのち>はいかに語りうるか?』. pp.2-5.

山極壽一, 千葉雅也. (2017) 勉強にはやっぱり「哲学」が必要だ. 文芸春秋. 9 月特別号: 298-306.

Yu L, Tomonaga M. (2018) Effect of visual cues in addition to moderate auditory cues on temporal coordination: A comparative study in humans and chimpanzees. bioRxiv. 290379. doi:10.1101/290379

(6) 作品ほか

①「氷室」創刊二十五周年記念風呂敷
制作: 尾池和夫, 小野塚佳代
宮井株式会社
制作日: 2017 年 11 月 6 日

② 系統樹マンダラ〈霊長類編〉

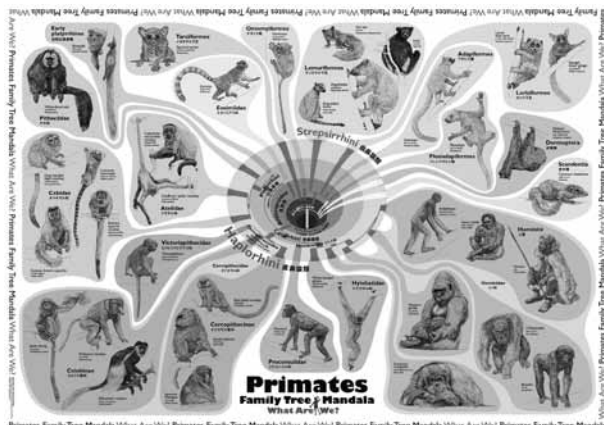
総監修：公益財団法人日本モンキーセンター

解説執筆：早川卓志、高野 智

編集：畠山泰英

発行・発売：株式会社キウイラボ

発売：2017 年 5 月 27 日



(7) 書籍の監修・編集協力

① PHOTO ARK 動物の箱舟. (ジョエル・サートレイ 写真・著, 関谷冬華 訳, 日経ナショナル ジオグラフィック社. 2017 年 8 月 15 日発行)

綿貫宏史朗、大淵希郷 (監修)

② ナショナル ジオグラフィック 別冊 7 100 年後も見た動物園で会える絶滅危惧動物. (日経ナショナル ジオグラフィック社. 2017 年 10 月 16 日発行)

綿貫宏史朗 (監修・執筆)

③ 世界で一番美しいサルの図鑑. (京都大学霊長類研究所 編, エクスナレッジ. 2017 年 11 月 26 日発行)

日本モンキーセンター (協力)

山極壽一、松田一希、早川卓志 (分担執筆)

④ 何度も行きたくなる 動物園&水族館ベストランキング (晋遊舎. 2018 年 3 月 23 日発行)

綿貫宏史朗 (協力)

7. 学会参加

(附属動物園部、学術部のみ、JMC で開催したものを除く)

(1) 子どもと自然学会 第 26 回全国研究大会

日程：平成 29 年 5 月 20 日～21 日

会場：岐阜大学学外研修施設・日本モンキーセンター

高野智、赤見理恵

(2) 13th International Conference of Environmental Enrichment (第 13 回国際エンリッチメント会議)

日程：平成 29 年 5 月 15 日～5 月 19 日

会場：Parque Jaime Duque (コロンビア、ボゴタ)

綿貫宏史朗、藤森唯

(3) 日本展示学会 第 36 回研究大会

日程：平成 29 年 6 月 18 日

会場：名古屋大学野依記念学術交流館

赤見理恵

(4) 第 33 回日本霊長類学会大会

日程：2017 年 7 月 15 日～17 日

会場：コラッセ福島 (福島県福島市)

友永雅己、赤見理恵、新宅勇太、古賀典子、木村直人、廣澤麻里

(5) 第 26 回サル疾病ワークショップ「今、サル類が必要とされる理由と問題点」

日程：2017 年 7 月 1 日

会場：麻布大学 (神奈川県相模原市)

木村直人、早川卓志

(6) 動物福祉を考える @動物園

日程：2017 年 8 月 28 日

会場：京都市動物園 (京都府京都市)

大淵希郷

(7) 第 28 回 日本動物園水族館両生爬虫類会議

日程：2017 年 10 月 3 日～4 日

会場：神戸市立須磨海浜水族園 (兵庫県神戸市)

大淵希郷

(8) アジア動物園教育担当者会議

日程：2017 年 11 月 9 日～12 日

会場：国立屏東大学 (台湾、屏東)

赤見理恵

(9) 第 58 回日本動物園水族館教育研究会大阪大会

日程：2017 年 11 月 25 日～26 日

会場：大阪市立自然史博物館 (大阪府大阪市)

高野智、赤見理恵、藤森唯

(10) 日本爬虫両棲類学会 第 56 回大会

日程：2017 年 11 月 25 日～26 日

会場：熊本大学 (熊本県熊本市)

大淵希郷

(11) 第 5 回 屋久島学ソサイエティ大会

日程：2017 年 12 月 9 日～11 日

会場：屋久島離島開発総合センター (鹿児島県屋久島町)

大淵希郷

(12) The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science

日程：2018 年 3 月 3 日～5 日

会場：京都大学国際科学イノベーション棟

(京都府京都市)

友永雅己、新宅勇太、早川卓志、古賀典子

(13) 第 3 回水族館大学 in 京都『イルカの飼育のこれから』

日程：2018 年 3 月 9 日

会場：京都大学北部総合教育研究棟 (京都府京都市)

友永雅己、綿貫宏史朗

(14) ず～なんよ。動物園大学 8 in ひろしま安佐

日程：2018 年 3 月 21 日

会場：広島市安佐動物園 (広島県広島市)

平口愛子、友永雅己、赤見理恵、新宅勇太、

綿貫宏史朗、鏡味芳宏、根本慧、市原涼輔

8. 学会・研究会での発表 (プリマーテス研究会を除く)

赤見理恵. (2017) 動物園は動物のイメージを変えることができるのか? ～大学生を対象とした行動観察プログラムと自由連想法による評価～. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)

Akami R, Takano T. (2017) Educational effect of focal animal observation program for students. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)

Akami R, Takano T. (2017) Observe animals like a primatologist! -Educational program with focal animal observation-. The 6th Asian Zoo Educator Committee & 33rd Association of Science Education in Taiwan Committee Joint International Conference. (Pingtung, Taiwan)

- 赤見理恵, 根本慧, 綿貫宏史朗, 高野智. (2018) 動物を「好きになる」と「守りたくなる」? ~動物園らしい保全教育の可能性~. 動物園大学 8 in ひろしま安佐. (広島県広島市)
- 赤見理恵, 高野智. (2017) 「サルまね」のイメージと動物園教育. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 赤見理恵, 高野智, 南曜子. (2017) 動物園は動物のイメージを変えることができるのか? ~大学生を対象とした行動観察プログラムと自由連想法による評価~. 第 36 回日本展示学会研究大会. (愛知県名古屋市中)
- 赤見理恵, 高野智, 南曜子. (2017) 行動観察プログラムで学ぶ霊長類の社会性と多様性 ~学習者への事後インタビューより~. 第 58 回日本動物園水族館教育研究会. (大阪府大阪市)
- 荒木謙太, 大島悠輝, 綿貫宏史朗. (2017) 探索行動をする個体数の増加を目的としたヒトの城の部分改修. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 伴和幸, 大淵希郷, 田川哲, 細谷忠嗣, 斎藤礼, 椎原春一. (2017) ヤクシカ ZOO プロジェクト~地域における獣害問題と動物園の動物福祉問題から動物園の新たな社会的価値を探す~. 第 5 回屋久島学ソサイエティ大会. (鹿児島県屋久島町)
- 藤森唯, 赤見理恵. (2017) エンリッチメント体験で伝えられること. 第 58 回日本動物園水族館教育研究会. (大阪府大阪市)
- Fujimori Y, Hirose M, Ichino E. (2017) Benefit of diversity in captive chimpanzees' social group formation. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- 藤森唯, 廣澤麻里, 市野悦子. (2017) 飼育下チンパンジーにおける個体の多様性の意義. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Fujimori Y, Watanuki K. (2017) Introduction of enrichment activities in Japan Monkey Centre. 13th International Conference of Environmental Enrichment. (Bogota, Colombia)
- 古市博之, 高野智, 赤見理恵, 大鹿聖公. (2017) 全市体制で取り組む博学連携のカリキュラム開発 犬山市内の全小中学校と市内にある動物園との連携構築を通して. 日本理科教育学会 第 67 回全国大会. (福岡県宗像市)
- Gao J, Tomonaga M. (2017) The body inversion effect in chimpanzees (*Pan troglodytes*). 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- Gao J, Tomonaga M. (2017) The body inversion effect in chimpanzees (*Pan troglodytes*). 日本心理学会第 81 回大会. (福岡県久留米市)
- Gao J, Tomonaga M. (2017) The body inversion effect in chimpanzees (*Pan troglodytes*). The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- Gao J, Tomonaga M. (2017) The body inversion effect in chimpanzees (*Pan troglodytes*). 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Gao J, Tomonaga M. (2018) The body inversion effect in chimpanzees (*Pan troglodytes*). The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- Hayakawa T. (2017) Microbiome adaptation and flexibility to the captive environments in lesser slow loris. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- 林美里. (2018) 物の操作における行為の文法から見たチンパンジーとヒトの子どもの認知発達. 共創言語進化第 1 回領域全体会議. (愛知県豊橋市)
- 林美里, 竹下秀子. (2017) ヒト乳幼児と大型類人猿 4 種における物の操作と道具使用から見た認知発達. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- Hayashi M, Takeshita H. (2017) Object manipulation and tool use in great apes and humans. The 2nd African Primatological Consortium Conference. (Kinshasa, D.R. Congo)
- Hayashi M, Takeshita H. (2017) Development of combinatory manipulation and tool-use tendencies in great apes and humans. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- Hayashi M, Takeshita H. (2018) Development of combinatory manipulation and tool-use repertoire in great apes and humans. The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- 廣澤麻里, 藤森唯, 市野悦子, 星野智紀, 坂口真悟, 奥村文彦. (2017) 群れ編成時にみられた 飼育下 チンパンジーの自傷行為. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 伊谷原一, 岡安直比, 新宅勇太, 山本真也, 中村美穂, 井田徹治, Lumbuenamo R, Bokika JC. (2017) ボノボ分布南西限界域における生息分布と密猟問題. 日本アフリカ学会第 54 回学術大会. (長野県長野市)
- 伊村知子, 澤山正貴, 白井述, 友永雅己, 西田真也. (2017) ヒト児童における光沢質感の知覚. 日本基礎心理学会第 36 回大会. (大阪府茨木市)
- 伊村知子, 和田有史, 増田知尋, 白井述, 川上文人, 岡嶋克典, 友永雅己. (2017) チンパンジーは特徴の「平均」を知覚できるのか? 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- 石田崇斗, 山田将也, 打越万喜子. (2017) 単独飼育個体の福祉向上を目的とした取り組み ~テナガザルにおける異種ペア 2 事例~. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 糸井川壮太, 早川卓志, 鈴木 - 橋戸南美, 今井啓雄, 平井啓久. (2017) キツネザル類における苦味受容体の遺伝的・機能的多様性. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 兼子明久, 山中淳史, 石上暁代, 前田典彦, 宮部貴子, 林美里, 友永雅己, 鈴木樹理. (2017) 京都大学霊長類研究所におけるチンパンジーの健康診断. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Kawaguchi Y, Tomonaga M. (2017) Reward value of conspecific infants in chimpanzees. 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- Kawaguchi Y, Tomonaga M. (2017) Are chimpanzees attracted by infant? The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)

- Kawaguchi Y, Tomonaga M. (2017) Comparative approach for understanding the recognition of infant. CER-NIE Joint Symposium. (Kyoto, Japan)
- Kawaguchi Y, Tomonaga M. (2017) Are chimpanzees attracted by infant conspecifics? 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Kawaguchi Y, Kano F, Tomonaga M. (2018) Visual attention for adult and infant faces in apes. The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- 川北安奈, 伊谷原一. (2018) キリンの暑さ対策. 動物園大学 8 in ひろしま安佐. (広島県広島市)
- Kawakita A, Bercovitch FB, Idani G. (2017) Feeding behavior and shade usage of giraffe in Katavi National Park, Tanzania. The 6th International Seminar on Biodiversity and Evolution: Wildlife science by New Biologging studies. (Kyoto, Japan)
- Kawakita A, Bercovitch FB, Idani G. (2017) Giraffes as prey for lions. The 6th International Workshop on Tropical Biodiversity Conservation focusing on Large Animal Studies. (Bogor, Indonesia)
- 川島紀子, 赤見理恵, 高野智. (2017) 中学校と動物園・博物館との連携を通して霊長類の進化と環境への適応を思考する理科授業デザイン. 日本理科教育学会第 67 回全国大会. (福岡県宗像市)
- 木村直人, 寺尾由美子, 鏡味芳宏, 東峯万葉, 廣澤麻里, 岡部直樹, 新宅勇太, 伊谷原一. (2017) 動物園飼育下サル類の簡易で安価な体脂肪率測定法. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 木村直人, 寺尾由美子, 鏡味芳宏, 東峯万葉, 廣澤麻里, 岡部直樹, 新宅勇太, 伊谷原一. (2017) 飼育下サル類の栄養評価にボディコンディションスコアと体脂肪率測定を併用する. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Matsuda I., Tuuga A, Nathan S, Stark D, Goossens B, Ramirez D, Abram NK. (2017) Following the trail of the elusive Proboscis monkey in Borneo. The 6th International Seminar on Biodiversity and Evolution - Wildlife Science by New Biologging Studies. (Kyoto, Japan)
- Matsuda I. (2017) Connection between wild and captivity: a case study of endangered Proboscis monkeys. The 6th International Workshop on Tropical Biodiversity Conservation focusing on Large Animal Studies. (Bogor, Indonesia)
- 松田一希, 早川卓志, 澤田晶子, Nathan SKSS, Saldivar DAR, Goossens B, Stark DJ, Tuuga A. (2017) テングザルの前胃内微生物叢の種内変異. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 松田一希. (2018) 霊長類の社会創発現象の解明に向けて: 個体・集団のインタラクションの観察. 脳領域/個体/集団間のインタラクション創発原理の解明と適用 キックオフシンポジウム. (東京都中央区)
- Matsushima K, Yamanashi Y, Okumura F, Hirosawa M., Fujimori Y., Terao Y., Tsuchida S, Ushida K, Hayakawa T. (2017) The gumnivorous diet induces the structural change of gut microbiota in lesser slow loris. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- Matsushima K, Yamanashi Y, Okumura F, Hirosawa M., Fujimori Y., Terao Y., Tsuchida S, Ushida K, Hayakawa T. (2017) Gut microorganism dynamics induced by gumnivorous feeding for lesser slow loris. The 6th International Workshop on Tropical Biodiversity Conservation focusing on Large Animal Studies. (Bogor, Indonesia)
- 桃井保子, 齋藤渉, 兼子明久, 宮部貴子, 友永雅己. (2017) 京都大学霊長類研究所のチンパンジー 11 個体の口腔健康状態について. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 中村政之, 柏木伸幸, 山本知里, 友永雅己. (2017) 鹿児島県湾の鯨類調査におけるドローンの活用について. 第 43 回海獣技術者研究会. (東京都豊島区)
- 根本慧, 赤見理恵, 綿貫宏史朗, 堀込亮意, 大島悠輝. (2017) 南米館屋内展示室「アマゾンジャングル化計画」～緑化の 1 年～. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Nemoto K., Ohshima Y., Horigome R., Yamanashi Y, Watanuki K., Terao Y., Kagami Y., Hirosawa M. (2017) Establishing Slow-Loris Conservation Center and improving living environment of lesser slow loris. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- 新美幸, 早川卓志, 岸田拓士, 阿形清和, 岡本宗裕, 屋久島フィールド・ゲノム実習プロジェクト. (2017) 次世代シーケンサーを用いたヤクザル捕食昆虫の解析と屋久島の昆虫 DNA データベース作成. 第 5 回屋久島学ソサイエティ大会. (鹿児島県屋久島町)
- Ohbuchi M. (2017) Sex recognition and species recognition in the Japanese five-lined skink, *Plestiodon japonicus* (Squamata: Scincidae) by body surface lipids. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- 大淵希郷. (2017) 動物園における科学コミュニケーション活動と動物リテラシーの模索. 第 28 回 日本動物園水族館両生爬虫類会議. (兵庫県神戸市)
- 大淵希郷, 疋田努. (2017) ニホントカゲのケミカルコミュニケーション. 日本爬虫両棲類学会 第 56 回 大会. (熊本県熊本市)
- 岡本公彰, 宮之原真由, 今井奨, 野村義, 齋藤渉, 桃井保子, 兼子明久, 宮部貴子, 友永雅己., 花田信弘. (2017) チンパンジー口腔微生物叢の解析. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 岡本宗裕, 新美幸, 澤田晶子, 野中成晃, 早川卓志. (2017) 屋久島フィールド・ゲノム実習プロジェクト. ヤクシカの寄生虫相—他地域のニホンジカの寄生虫相との比較—(予報). 第 5 回屋久島学ソサイエティ大会. (鹿児島県屋久島町)
- 奥村太基, 星野智紀, 土性亮賀, 安倍由里香, 今井由香. (2017) 日本モンキーセンターにおける飼料の見直しと今後の課題. 第 115 回公益財団法人日本動物園水族館協会 中部ブロック飼育技術者研修会. (愛知県豊橋市)
- 大島悠輝, 根本慧, 堀込亮意, 山梨祐美, 綿貫宏史朗, 寺尾由美子, 鏡味芳宏, 東峯万葉, 廣澤麻里. (2017) レッサーローリス飼育環境改善～スローロリス保全センターの開設～. 第 114 回中部ブロック飼育技術者研修会. (愛知県江南市)

- 齋藤美保, 伊谷原一. (2018) タンザニア・カタヴィ国立公園におけるキリンの子育て時と休息時の環境選択. 第 65 回日本生態学会大会. (北海道札幌市)
- 齋藤美保, 伊谷原一. (2018) 野生キリンの共同授乳はどのような背景で起こる? -授乳行動をヒントに考える-. 動物園大学 8 in ひろしま安佐. (広島県広島市)
- 齋藤渉, 兼子明久, 宮部貴子, 友永雅己, 桃井保子. (2017) 京都大学霊長類研究所のチンパンジー 1 個体に生じた外傷歯に対する歯科処置と術後 6 年の経過. 日本歯科保存学会 2017 年度春季学術大会. (青森県青森市)
- 齋藤渉, 兼子明久, 宮部貴子, 友永雅己, 桃井保子. (2017) 京都大学霊長類研究所のチンパンジー 1 個体に生じた外傷歯に対する歯科処置と術後 6 年の経過. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 櫻庭陽子, 山田信宏, 高橋一郎, 川上文人, 高塩純一, 竹下秀子, 田中正之, 友永雅己, 林美里. (2017) 脳性まひチンパンジーにおける四肢行動形態の変化—姿勢・行動との関連. 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- 櫻庭陽子, 山田信宏, 高橋一郎, 川上文人, 高塩純一, 竹下秀子, 田中正之, 友永雅己, 林美里. (2017) 脳性まひチンパンジー女兒の姿勢と行動—麻痺側後肢の動きに着目して. 日本子ども学会第 14 回大会. (岡山県岡山市)
- 櫻庭陽子, 山田信宏, 高橋一郎, 川上文人, 高塩純一, 竹下秀子, 友永雅己, 林美里. (2017) 脳性まひチンパンジー女兒の行動分析の試み. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 櫻井夏子, 友永雅己. (2017) ハンドウイルカにおけるエコロケーションによる数の認識. 第 43 回海獣技術者研究会. (東京都豊島区)
- 澤田晶子, Clark I, 早川卓志. (2017) ジェントルキツネザル 3 種の腸内細菌叢. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 新宅勇太, 山本真也, 伊谷原一. (2018) コンゴ民主共和国・Mbali 地域のボノボの森. 動物園大学 8 in ひろしま安佐. (広島県広島市)
- 鈴木・橋戸南美, 早川卓志, 辻大和, Purba LHPS, Nira S, Wodayati KA, Suryobroto B, 今井啓雄. (2017) 旧世界ザルの苦味受容体遺伝子の適応的進化. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 高野智, 古市博之, 高木一樹, 赤見理恵. (2017) 生体と標本をあわせて学ぶ霊長類の多様性 ~小学 4 年「人の体のつくりと運動」における実践~. 第 58 回日本動物園水族館教育研究会. (大阪府大阪市)
- 竹下秀子, 山田信宏, 高塩純一, 高橋一郎, 櫻庭陽子, 川上文人, 福田佳子, 金崎衣津子, 本田裕介, 多々良成紀, 林美里, 田中正之, 友永雅己. (2017) 脳性まひチンパンジーの生後年間の発達と発達支援のとりくみ. 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- Takiyama H, Hattori Y, Tomonaga M. (2017). Effect of distractor timing on localizing auditory source in chimpanzees (*Pan troglodytes*). 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- 瀧山拓哉, 服部裕子, 友永雅己. (2017) 妨害刺激の再生タイミングがチンパンジー (*Pan troglodytes*) の音源定位能力に与える影響. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 瀧山拓哉, 服部裕子, 友永雅己. (2017) 妨害刺激とターゲット刺激の提示時間差がチンパンジーの音源定位能力に与える影響. 京都大学心の先端研究ユニット「こころの若手研究者交流大会」. (京都府京都市)
- Tanaka C, Sakaguchi S, Hayakawa T, Matsuda I. (2017) Nocturnal behavior of captive lemurs. The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)
- 田中ちぐさ, 坂口真悟, 早川卓志, 松田一希. (2017) キツネザルの夜間行動. 第 65 回動物園技術者研究会. (京都府京都市)
- 田中ちぐさ, 坂口真悟, 小泉有希, 中久木愛. (2017) キツネザル異種同居の試み. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- Toge A, Hayakawa T, Okamoto M, Hashimoto C, Yumoto Y. (2018) Discrimination of forest guenons' dietary insect and niche overlap using DNA metabarcoding of feces. The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- 友永雅己. (2018) ふるまいから探るチンパンジーのこころ. 第 1 回犬山認知行動研究会議. (愛知県犬山市)
- 友永雅己, 熊崎清則, Camus F, Nicod S, Pereira C, Sauvage PC, Gonthier C, 原口大貴, 松沢哲郎. (2017) Clever Hans 2017: ウマにおける数の相対的大小判断の規定要因. 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)
- 友永雅己, 熊崎清則, Camus F, Nicod S, Pereira C, Sauvage PC, Gonthier C, 原口大貴, 松沢哲郎. (2017) Clever Hans 2017. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 友永雅己, Pereira C, 熊崎清則, 原口大貴, 櫻井夏子, Wilkinson A, Gonthier C, 松沢哲郎. (2017) Sense of Number: 数の大小判断の種間比較. 第 33 回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)
- 友永雅己, 櫻井夏子. (2017) ハンドウイルカによるエコロケーションを用いた「数」の認知. 第 1 回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 打越万喜子. (2017) テナガザルの福祉を向上させるための取り組み. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 打越万喜子, 山田将也, 石田崇斗, 綿貫宏史朗. (2017) 飼育下テナガザルの社会的環境変化が歌行動におよぼす影響. 第 33 回日本霊長類学会. (福島県福島市)
- 山田将也, 石田崇斗. (2017) 日本モンキーセンターのヤクニホンザル群で観察された枝使い行動について. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)
- 山本知里, 柏木伸幸, 大塚美加, 友永雅己. (2018) ハンドウイルカの視覚に関する実験と展示・解説活動の試み. 動物園大学 8 in ひろしま安佐. (広島県広島市)
- 山本知里, 柏木伸幸, 大塚美加, 西村香織, 酒井麻衣, 友永雅己. (2017) 協力課題におけるハンドウイルカのパートナーの認識. 行動 2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)

山本知里, 柏木伸幸, 大塚美加, 二階堂梨沙, 西村香織, 酒井麻衣, 友永雅己. (2017) ハンドウイルカの社会的知性に関する認知研究. 第1回犬山鯨類鰐脚類行動認知生態研究会. (愛知県犬山市)

山本知里, 二階堂梨沙, 柏木伸幸, 大塚美加, 友永雅己. (2017) ハンドウイルカのコードにおけるトリックの模倣と発達. 2017年度勇魚会シンポジウム. (東京都港区)

山本知里, 二階堂梨沙, 柏木伸幸, 大塚美加, 友永雅己. (2017) ハンドウイルカのコードにおける模倣学習. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

山本知里, 二階堂梨沙, 柏木伸幸, 大塚美加, 友永雅己. (2018) ハンドウイルカのコードにおけるトリックの模倣と発達. 心の先端研究ユニット研究交流会. (京都府京都市)

Yamamoto S, Shintaku Y, Idani G. (2018) Bonobos in forest-savanna mosaic environment: development and perspectives of our newly launched wild bonobo research site. The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)

矢野航, 清水大輔, 寺尾由美子, 岡部直樹, 早川卓志. (2017) レッサーズローロリス (*Nycticebus pygmaeus*) 個体内で異所的に適応する細菌叢. 第33回日本霊長類学会大会. (福島県福島市)

横山実玖歩, 友永雅己. (2017) チンパンジーにおけるギャップ効果: 定位反応課題による検討. 行動2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)

横山実玖歩, 友永雅己. (2017) チンパンジーにおけるギャップ効果: 定位反応課題による検討. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

Yu L, Tomonaga M. (2017) A comparative approach to drumming behavior in chimpanzees. The 6th Conference of the Asia-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music. (Kyoto, Japan)

Watanuki K. (2017) Mixed-primate enclosures: four cases at Japan Monkey Centre. 13th International Conference of Environmental Enrichment. (Bogota, Colombia)

綿貫宏史朗. (2017) キンシャサの動物園は保全や福祉の夢を見るか? 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

綿貫宏史朗. (2018) 公立小規模動物園の意義と未来. 2018年第1回動物園研究会. (東京都千代田区)

綿貫宏史朗. (2018) 霊長渡来考(時代区分編). 動物園大学8 in ひろしま安佐. (広島県広島市)

Wilson DA, Tomonaga M. (2017) Exploring attentional bias in chimpanzees using the dot probe task. 行動2017: 日本動物行動学関連学会・研究会合同大会. (東京都目黒区)

Wilson DA, Tomonaga M, Vick SJ. (2017) Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (*Sapajus apella*). 50th Anniversary Meeting of the Primate Society of Great Britain. (London, UK)

Wilson DA, Tomonaga M. (2017) Facial discrimination and attentional bias towards faces in chimpanzees - Final PWS Report. 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Inuyama, Japan)

Wilson DA, Tomonaga M. (2018) Facial discrimination and attentional bias towards faces in chimpanzees. The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)

9. 講演

赤見理恵. (2017) 日本モンキーセンターの教育プログラム. 子どもと自然学会 第26回全国研究大会 シンポジウム「猿類から人類が学ぶこと—子どもと自然—の観点から」. (岐阜県岐阜市)

赤見理恵. (2017) 動物園が自然への窓となるために. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

赤見理恵. (2017) 霊長類に対するイメージとその変化—行動観察プログラムを体験した大学生への自由連想法調査とインタビュー調査から—. 動物観研究会公開ゼミナール2017/ヒトと動物の関係学会第116回月例会. (東京都府中市)

早川卓志. (2017) 大型類人猿情報ネットワーク GAIN を活用した生物学研究. 第26回サル疾病ワークショップ. (神奈川県相模原市)

早川卓志. (2017) 動物園でのキュレーターのミッション—基礎研究から動物福祉まで—. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

林美里. (2017) 大型類人猿の研究からヒトを知る. 東京フォーラム2017「フィールドとラボと社会をつなぐ野生動物研究」(東京都江東区)

林美里. (2017) 母親による育児の支援から考える飼育チンパンジーの未来. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

林美里. (2018) チンパンジーの研究からヒトを知る. 第13回京都大学附置研究所・センターシンポジウム. (岡山県岡山市)

伊谷原一. (2017) SAGA、20年の歩み. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

木村直人. (2017) 今、サル類が必要とされる理由と問題点. 第26回サル疾病ワークショップ. (神奈川県相模原市)

木村直人. (2017) サルを知ることとはヒトを知ること「教えない教育・見習う学習」. 信州ラウンドテーブル2017. (長野県長野市)

絹谷幸二, 山極壽一. (2017) 対談「ゴリラから絵画の起源を考える」. 京都国立近代美術館. (京都府京都市)

Matsuda I. (2017) Proboscis monkeys - the big noses and stomachs of Borneo. Ecology & Evolution Summer School, Sun Yat-sen University. (Guangzhou, China)

松田一希. (2017) コロブス類の消化のはなし—テングザルの反すうなどを例に—. よこはま動物園ズーラシア定期研究会. (神奈川県横浜市)

松田一希. (2017) 謎のテングザルを追ってジャングルへ: フィールド研究の可能性. 福井県立大学海洋生態環境学特別講義. (福井県小浜市)

松田一希. (2017) テングザルの不思議: フィールドからの発見. 岐阜県立関高等学校スーパーグローバルハイスクールセミナー. (岐阜県関市)

松田一希. (2017) 動物園をフィールドの窓に一野外研究との連携例. 第20回SAGAシンポジウム. (愛知県犬山市)

- 松田一希. (2017) テングザル：1 種類のサル研究から世界とつながる. 中部大学創発学術院一周年記念シンポジウム. (愛知県春日井市)
- 松田一希. (2017) テングザルの秘密—不思議な鼻、お腹、群れ社会の謎にせまる. 中部大学市民講座. (愛知県豊明市)
- Matsuzawa T. (2017) Imagination: Human Mind Learned from the Study of Chimpanzees. Kunming Institute of Zoology (Kunming, China)
- Matsuzawa T. (2017) Human mind viewed from the study of chimpanzees. Evolution of the brain. Fondation Ipsen (Paris, France)
- 松沢哲郎. (2017) 互いを思いやる心の進化. 日本モンキーセンター 第 6 回友の会のつどい (愛知県犬山市)
- Matsuzawa T. (2017) 昆明理工大学 (Kunming, China)
- 松沢哲郎. (2017) 「アイプロジェクト」を通して人間特有の想像力や利他性の芽生えを探る—大脳の進化のトレードオフ. かわさき市民アカデミー (神奈川県川崎市)
- 松沢哲郎. (2017) 想像するちから チンパンジーが教えてくれた人間の心. 市立砺波総合病院創立記念講演会 (富山県砺波市)
- Matsuzawa T. (2017) Conférence Lusophonie et biodiversité. Musée de l'Homme. (Paris, France)
- 松沢哲郎. (2017) 「互いに思いやる」心の進化. 第 55 回法然院 夜の森の教室 (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2017) 公開講演 東北大学医学部良陵同窓会 (宮城県仙台市)
- 松沢哲郎. (2017) 互いを思いやる心の進化. 核融合科学研究所市民学術講演会. (岐阜県多治見市)
- Matsuzawa T. (2017) 想像的力量. Shanghai Natural History Museum. (Shanghai, China)
- Matsuzawa T. (2017) Primatology to Wildlife science: The fieldwork promotes the conservation and enrichment of wild endangered animals. Guangzhou Zoo. (Guangzhou, China)
- 松沢哲郎. (2017) 公開講演 チンパンジー研究からヒューマニズムを考える. ハイデガー・フォーラム 第十二回大会. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2017) チンパンジーの描画. 日本描画テスト・描画療学会第 27 回大会. (愛知県名古屋市中区)
- 松沢哲郎. (2017) 言語の進化を考える. 新学術領域研究「共創的コミュニケーションのための言語進化」領域立ち上げ討論会・公募研究説明会記念講演. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2017) 公開講演 知の探検：ぼくがチンパンジーになったわけ. 学生のためのキャリア発見シンポジウム ～先人たちの研究人生解体新書～. (京都府京都市)
- Matsuzawa T. (2017) 想像的力量：人間性の進化を考える. 第 32 届中日工程技術研討會人文科技組—身處地球環境危機的時代再省生與死. (Taipei, Taiwan)
- Matsuzawa T. (2017) L'origine della mente nel confronto fra esseri umani e scimpanz? Associazione Festival della Scienza. At Palazzo Ducale. (Genoa, Italy)
- Matsuzawa T. (2017) Human mind viewed from the study of primate evolution (人間の心を霊長類の進化から考える). 台湾大学心理学科. (Taipei, Taiwan)
- 松沢哲郎. (2017) 公開講演. ジェーン・グドール氏 2017 年コスモス国際賞受賞記念講演会. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2017) 想像する力：チンパンジーの親子が教えてくれたもの. 2017 年度たかつかさ保育園子育て講演会. (京都府京都市)
- Matsuzawa T. (2017) La Primatologie japonaise et l'expérience lusophone. Université de la Sorbonne. (Paris, France)
- Matsuzawa T. (2017) Human evolution viewed from the study of chimpanzees (l'évolution humaine vue de l'étude des chimpanzés). University of Conakry. (Conakry, Guinea)
- 松沢哲郎. (2017) 公開講座 心の進化を探る. 中部学院大学. (岐阜県各務原市)
- Matsuzawa T. (2017) Nocturne MONKEYS + lecture by Tetsuro Matsuzawa. Museum of Natural Sciences. (Brussels, Belgium)
- 松沢哲郎. (2017) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 芸術と科学のハーモニー特別講演会. (愛知県武豊町)
- 松沢哲郎. (2017) パラボリックフライトから人間の進化の未来を考える. 第 11 回宇宙ユニットシンポジウム「人類は宇宙人になれるか？—宇宙教育を通じた挑戦—」. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2017) 心の進化を探る：チンパンジーにみるチームとリーダーシップ (Looking for the evolutionary origins of human mind: Team and leadership in chimpanzees). 第 48 回日本心臓血管外科学会学術総会特別講演. (三重県津市)
- 根本慧. (2018) 宮島に棲むニホンザル～モンキーセンターとのかかわりとは？～. 動物園大学 8 in ひろしま 安佐. (広島県広島市)
- 尾池和夫. (2017) 日本学術会議第 23 期 2 年目の活動状況に関する評価. 第 173 回日本学術会議総会. (東京都港区)
- 尾池和夫. (2017) 地震を知って震災に備える. 防災士研修講座. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2017) 熊本地震その後. 熊本日日新聞社創立 75 周年 熊本県書道連盟主催講演会. (熊本県熊本市)
- 尾池和夫. (2017) 地震を知って震災に備える. 京都 SKY シニア大学. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2017) 日本列島の地震分布を見る. 海洋研究開発機構講演. (東京都千代田区)
- 尾池和夫. (2017) 急性心筋梗塞からの生還. 日本心血管インターベンション治療学会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2017) 日本列島の自然—地震と噴火と津波の国—. 第 14 回 豊かな成熟した日本を考える会. (東京都台東区)
- 尾池和夫. (2017) こころの未来から地球の未来へ. こころの未来研究センター 10 周年特別講演. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2017) 日本列島の自然と変動帯の文化. 日本科学者会議京都支部講演会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2017) 地球の基本的な知識を概観. 京都造形芸術大学講義「自然と芸術」. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2017) 大規模地震の予測と減災に向けて. 関西サイエンスフォーラム講演会. (大阪府大阪市)

尾池和夫. (2017) 持続可能な地域づくりー西南日本の大地に暮らすー. アルパック 50 周年記念シンポジウム. (京都府京都市)

尾池和夫. (2017) 宇宙の始まりから地球の未来まで. 京都造形芸術大学大学院修士課程「芸術文化原論 9」. (京都府京都市)

尾池和夫. (2017) 「自然と芸術」の講義内容から. 自由と平和のための京大有志の会. (京都府京都市)

Oike K. (2017) Nature of the Japanese archipelago and Culture of the Deformation Belt. International Symposium on Utilization of Field Sites in Research and Education. (京都府京都市)

尾池和夫. (2017) 季語の生まれた国. 京都造形芸術大学通信教育部東京懇親会. (京都府京都市)

尾池和夫. (2017) 地震を知って震災に備える. 防災士研修. (奈良県吉野町)

尾池和夫. (2017) 南海トラフの巨大地震とイノベーション. 事前復興シンポジウム 巨大災害を迎え撃つ地域イノベーションの創出. (徳島県徳島市)

尾池和夫. (2018) 日本列島の自然. 福知山高等学校講演会および座談会. (京都府福知山市)

尾池和夫. (2018) 南海トラフの巨大地震と京都. オムロン文化フォーラム. (京都府京都市)

尾池和夫, 田中勝, 齋藤亜矢. (2018) 地球科学への招待. 京都造形芸術大学通信教育部. (京都府京都市)

茂山千三郎, 山極壽一. (2017) 対談「ゴリラ楽と愛の起源」. ゴリラ楽 in KYOTOGRAPHIE. (京都府京都市)

新宅勇太. (2017) 分布域南西端 Mbali 地域のボノボ ～その保全にむけた活動～. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)

蓼沼宏一, 山極壽一. (2017) 希望の社会をつくる”知“と”学び“. 「文教都市くにたち」市制施行 50 周年記念シンポジウム. (東京都国立市)

友永雅己. (2017). SAGA から学んだこと. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)

友永雅己. (2017) イルカは世界をどう見ているか？ー陸海空の心の世界ー. 平成 29 年度名古屋港水族館共同研究講演会. (愛知県名古屋市)

友永雅己. (2018) イルカ認知研究と大型類人猿の先例から. 第三回水族館大学『イルカの飼育のこれから』. (京都府京都市)

綿貫宏史朗. (2017) 情報がつなぐ類人猿. 第 20 回 SAGA シンポジウム. (愛知県犬山市)

山極壽一. (2017) 野生の窓としての動物園ーゴリラを例にして. 野生動物学のすすめ. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) ゴリラにとって愛とは何か. ゴリラ楽 in KYOTOGRAPHIE. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) ゴリラの子育て、ヒトの子育て. 知恩院学術講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) サル化する人間社会. 弘前大学研究イノベーション推進機構学術講演会. (青森県弘前市)

山極壽一. (2017) ゴリラの所作とコミュニケーション. 三ノ会. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) 人類進化論ーサル化する現代社会. 2017 年度京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム. (東京都千代田区)

山極壽一. (2017) 好奇心と野生の心. 関西スクエア賞受賞記念講演会「ゴリラから考える」. (大阪府大阪市)

山極壽一. (2017) ゴリラと歩いたアフリカ. 日本学術会議公開講演会「アフリカ研究 50 年ー日本の国際貢献ー」. (長崎県長崎市)

山極壽一. (2017) 未分化の欲望ー銭湯と恋する生命. 京都銭湯芸術祭講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) パネルディスカッション「未来を担う子どもたちのために今できることは何か」. 京都府教育委員会シンポジウム. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) 人間社会の進化と京都のコミュニケーション. 京都アカデミアウィーク 2017. (東京都千代田区)

山極壽一. (2017) 人間社会の起源から協同の価値と希望を探る. いま「協同」が創る 2017 全国集会記念講演. (滋賀県大津市)

山極壽一. (2017) パネリスト「面白いを探究するーいのちをさぐるー」. 第 21 回京都大学東京フォーラム. (東京都千代田区)

山極壽一. (2017) インセストタブーをめぐる問い. 第 60 回教育哲学会大会「研究討議」. (大阪府吹田市)

山極壽一. (2017) AI にはできない人間の幸せーゴリラから見たコミュニケーションの進化と人間社会の未来. けいはんな情報通信フェア 2017. (京都府精華町)

Yamagiwa J. (2017) Japanese parimatology on the great apes. 2017 年コスモス国際賞受賞記念講演会. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) 京都大学のガバナンス改革と今後の戦略. 私学リーダーズセミナー. (京都府京都市)

山極壽一. (2018) 食の進化と共生. 学士会講演. (東京都千代田区)

山極壽一. (2018) 2030 年のコミュニティとは. 朝日新聞 DIALOG 連続セッション「U25 が考える 2030 年に求められる人材とは?」. (東京都中央区)

山極壽一. (2018) 京都大学の探検と創造の精神. 明治 150 年ー京都府の文化・産業再興リレー講座ー. (京都府京都市)

山極壽一, 池坊専好, 村田吉弘, 松坂浩史. (2018) 日本人のこころー京都の四季と生活文化. 京都文化力プロジェクト第 2 回推進フォーラム. (京都府京都市)

山極壽一, 山海嘉之. (2017) ビジネス書大賞『サピエンス全史』トークセッション「人類の歴史と未来」. (東京都港区)

山極壽一, 茂山千三郎, 杉本節子, 佐々木丞平. (2017) 対談「京都の文化力」. 京都文化力プロジェクト推進フォーラム (京都府京都市)

10. 連携研究の受入

2017001

申請者: 黒田敏教 (愛知文教大学)

対応者: 早川卓志

題目: デグー (*Octodon degus*) を対象とした実験的行動分析

本研究では KIDSZOO にて雄のデグー (名前「マカロニ」) を対象に見本合わせを行った。飼育箱と実験箱はトンネルでつながっており、デグーは自由に行き来することができる。実験開始時間になると飼育箱内で超音波が鳴り、デグーに知らせる仕組みになっている。

実験箱内では左右に 1 つずつレバーが設置され、毎試行どちらか一方のレバー上部にライトが点灯する。点灯している側のレバーを押すと「正解」とみなされ、

おやつ（ペレット）が出てくる。反対側のレバーを押すと「不正解」とみなされ、おやつは出てこないまま次の試行に移る。毎日50試行を行い、正解率が上昇すると「学習が起きた」と判断する。

一時期デグーの体調が悪化し実験を中断していたが、現在は回復し、実験を再開した。今後はデグーには聴こえるが人（来園者）には聴こえない周波数の音を使い、音をきちんと区別できるか（正しい側のレバーを押すか）どうかを検討する実験の展示を計画している。

2017002

申請者：小池田聡・鷺津欣也・結城健介
（天野エンザイム株式会社）

対応者：早川卓志

細目：霊長類からの微生物分離と酵素供給源としての可能性評価に関する研究

日本モンキーセンターが飼育する葉食性コロブス類、アジア原産3種（ハヌマンランゲール、シルバールトン、フランソワルトン）、アフリカ原産2種（アビシニアコロブス、アンゴラコロブス）の糞便から各種乳酸菌用培地（MRS、BL、TOS、GAM培地）を用いて嫌気条件・37℃で菌を分離した。また参考条件として同時に、一般的な細菌用培地（SCD培地）を用いて好気条件・37℃で菌を分離した。最終的にコロブス類5種9頭から得られた12サンプルから分離した腸内細菌70株を酵素探索対象として保存した。これらを用いて液体培養を実施し、その培養上清中の新規酵素を探索した。これまでに2種の酵素を探索し、今のところ両酵素ともに高い活性を示す微生物株は見出せていないが、引き続き新規酵素の探索を継続中である。

また本連携研究の成果は平成30年1月27、28日に開催された第62回プリマーテス研究会において発表した。

2017003

申請者：山梨裕美（京都市動物園）・
Josue Alejandro-Pastrana（京都大学）

対応者：綿貫宏史朗

題目：飼育下単独性霊長類における仲間の存在が福祉に及ぼす影響～スローロリスを対象として～

本研究は同種他個体の存在がレッサースローロリスの行動やストレス状態に与える影響をあきらかにすることを目的としている。今年度はスローロリス保全センターにバックヤードで暮らしていたロリスの移動がすべて完了し、オス同士、メス同士（2個体または4個体）の同居をおこなった。さらに同居の影響を検討するために、メス同士の同居時の社会行動の調査と、ホルモン測定用の糞採取をおこなった。結果、同居時に巣箱の共有や毛づくろいなどの社会交渉が高頻度で見られた。昨年度おこなったオス同士の同居時とは異なり、メスにおいては2個体での同居時も4個体での同居時も、目立った闘争は見られなかった。観察時間中、1m以内の距離にいる時間割合が大きかった。スローロリスは野生では非血縁の同性同士では排他的なホームレンジを築くと言われているが、レッサースローロリスはオスもメスも環境に合わせて柔軟な社会性を発揮することがあきらかとなった。

2017004

申請者：澤野啓一（神奈川医科大学）

対応者：新宅勇太

題目：眼窩骨壁及び頭蓋底神経血管孔の比較解剖学的研究

Pongo pygmaeus、*Mandrillus sphinx*、*Mandrillus leucophaeus*、*Papio*（主に *Papio anubis*）に関して、CT撮影を行って、その画像に基いて、眼窩骨壁及び頭蓋底神経血管孔について計測、比較検討による比較解剖学的研究を行った。表記の部分は、何れも幾重にも凹凸が有る為、CT像が大いに役立った。計測観察結果は、筆者が既に手持ちの *Homo sapiens sapiens*、*Pan troglodytes*、*Gorilla gorilla*、*Hylobates lar* に関するCTデータと比較して、古典的比較解剖学的検討及び幾何学的形態計測に基づく相対的歪み度の比較検討を行った。最も顕著な結果は、左右の Foramen ovale と左右の F. jugulare を結ぶ四辺形（Quadrangulus-ovalojugularis）と F. magnum の4点、計8点の座標に基いて相対的歪み度を算出して比較すると、ヒトと「類人猿 + Cercopithecoidea」とに非常に明確に区分されることであった。この研究結果は、第71回日本人類学会大会及び第123回日本解剖学会総会において発表した。

2017005

申請者：林美里（京都大学）・川上文人（京都大学）・
平栗明実（京都大学）・友永雅己（京都大学）・
櫻庭陽子（京都市動物園）・Chloe Gonseth
（京都大学）・村松明穂（京都大学）

対応者：綿貫宏史朗

題目：飼育下チンパンジーにおける子どもの発達
および母子関係について

観察を開始した2014年7月時点で野外運動場を使用していたチンパンジー3個体（マモル、マルコ、ツトム）を対象に、ビデオカメラを用いた観察を1時間、週に2回行い、社会的な行動、特に笑顔を中心に分析した。

乳児だったマモルが生後3歳となった2017年7月まで、毎週の撮影を継続した。元の3個体による群れ構成では、マモルの社会的な遊びや表情の頻度に顕著な増加はみられなかった。2016年度からチンパンジーの群れ構成を変更し、非血縁個体を含む群れづくりが進んだ。観察対象外の時間ではあったが、新たな群れ構成においてマモルの行動には明らかな変化が生じ、非血縁以外の個体に対する挨拶や遊びを含む社会的な行動が多くみられた。このような変化を可能としたのは、年齢による発達のみならず、それまでに結ばれた母親との強い関係であったと考えられる。母子関係を安全基地とし、マモルの対他者関係は今後さらなる広がりをもてることが期待される。

2017006

申請者：浅見真生（京都大学）

対応者：新宅勇太

題目：更新世マカク属の進化史の解明 - 幾何学的形態測定による遊離歯化石の種同定

マカク属の種間では歯牙の形態が似通っており、化石歯の種同定は難しい。そこでJMC所蔵のマカク標本の下顎第三大臼歯について形態解析を行い、種間の形

態差の探索を行った。

sinica 種群、及び *silenus* 種群を中心に約咬頭の配置や高さや歯冠部のアウトラインについて表面形状の解析を行った結果、これら 2 種群と *fascicularis* 種群とを判別可能な形態的特徴が明らかになった。一方、同一種群内の種を判別する形態的特徴については今後も検討が必要であり、より詳細な解析を現在実行中である。

今後は資料数確保のため、対象歯種が未萌出な標本について CT での撮影を検討している。

2017007

申請者：Halmi Insani (京都大学)

対応者：新宅勇太

題目：Inference on dispersal, evolution and adaptation of insular Southeast Asian non-human primates during Quaternary

The observed collection of JMC that is used in my study involve the dental casting of 14 third lower molars of Southeast Asian adult macaques species, employed with rubber-silicone. The resin mold of the dental specimens are scanned under 3D scanner in Primate Research Institute. The outer shape of occlusal part is compared among the macaques species inhabit mainland and island of Southeast Asia. The result contributes to the allometric models for prediction of extinction of *Macaca nemestrina* in Java Island. The outcome is presented in a joint conference between Primate Research Institute and Kyoto University Museum on September, 2017 and it will be orally presented in International Primatology Society Conference, Nairobi, Kenya 2018.

2017008

申請者：伊藤毅 (京都大学)

対応者：新宅勇太・早川卓志

題目：ニホンザルにおける形態の地理的多様性とその進化的意義

本研究は、集団遺伝学的アプローチにより、ニホンザルの形態の地理的多様化プロセスを明らかにすることを目的とする。平成 29 年度は、ヤクニホンザルの骨格標本と遺伝試料の利用可能性について、対応キュレーターとの打ち合わせを行った。平成 30 年度は、実際にこれらの試資料を用いた実験と解析を行っていく予定である。

2017009

申請者：中野良彦 (大阪大学)

対応者：高野智

題目：原猿類における骨盤構造の比較研究

原猿類数種の骨盤構造に関して、寛骨と仙骨の空間的配置を比較し、その力の伝達方向を検討した。具体的には、股関節－仙腸関節の延長線と仙骨のなす角度を計測した。直接計測できない場合には、写真撮影を行い、その画像から求めた。

日本モンキーセンターにおいては、ワオキツネザル、ショウガラゴ、スローロリスについて各 5 個体の骨格標本を利用した。他の資料も含めた分析の結果、原猿類では類人猿と異なり、計測値は体重と負の相関を示

すことが示された。

この結果については第 71 回日本人類学会大会(2017 年 11 月、東京)で発表した。

(2017010 欠番)

2017011

申請者：西川真理 (京都大学)

対応者：早川卓志

題目：ボリビアリスザルにおける色覚型の判定

本研究では、ヒトを含む霊長類に特有の 3 色型色覚の適応的意義を検証する事前調査のために、リスザルの島で飼育されているボリビアリスザルの個体に色覚多型があるかを調べた。オトナメス 8 個体、オトナオス 6 個体からピーナッツの殻を用いて口腔細胞を非侵襲的に採取し、DNA を抽出した。これらのサンプルを用いて各個体の M/L オプシン遺伝子の塩基配列を調べた。現在、調査対象個体の色覚型の判定作業をおこなっているが、オトナメスでは 3 色型色覚と 2 色型色覚の個体は 4 個体ずついるという予備的な結果を得ている。今後、色覚型判定のための追加実験を継続することで各個体の色覚型を決定する予定である。

2017012

申請者：平松千尋 (九州大学)・山下友子 (芝浦工業大学)・

中島祥好 (九州大学)・友永雅己 (京都大学)

対応者：綿貫宏史朗

題目：霊長類における音声コミュニケーションの進化および発達過程の研究

霊長類音声の共通性および相違、発達段階での変化を明らかにすることを目的とし、霊長類音声の録音と分析を行った。チンパンジー、ヤクニホンザル、リスザル、マーモセット、ワオキツネザルを主な対象とし、複数個体から音声を録音した。汎用性が高い音声分析方法を用いることで、種間や発達過程の比較を進めている。これまでの連携研究で録音した霊長類音声と、ヒトの発達段階の音声を合わせて分析した結果では、系統や発達段階を反映すると考えられる音響的特徴の違いが示されつつある。特に、チンパンジーの音声は、ヒト幼児の音声と音響的特徴が近い可能性を示す分析結果を得ており、さらにデータ収集と分析を進めることで種間の連続性や発達過程での変化を明確にしてい

く予定である。

2017013

申請者：西米美子 (京都大学)・今井啓雄 (京都大学)・

Kanthi Widayati (ボゴール農科大学)

対応者：早川卓志

題目：コロブスにおける甘味感覚に関する研究

これまでに行った分子実験により、アジア産のコロブス亜科の甘味受容体の感受性が低いことが示唆された。このことから、アジア産コロブス亜科は甘味に対する感受性が低いことが推察された。これについて検討するため、アジア館で飼育されているシルバールトン 2 個体とハヌマンラングール 1 個体を対象に、スクロース、及びマルトース溶液に寒天を加えて作成したゼリーを呈示する行動観察を行った。結果、どの個体も糖類を含んだゼリーに対して嗜好性を示さないという結果が得られた。これは、これらのコロブスにお

る糖類に対する甘味感受性が低いためであると考えられる。甘味は食物中に含まれる糖類を検出する上で重要な味質だが、コロブス亜科は葉食性が強く、果実などの単糖類を多く含む食物の摂取機会が少ない。そのため、アジア産コロブスにとって単糖類は重要性が低く、甘味感受性が低下したものと考えられる。

2017014

申請者：糸井川壮大（京都大学）・今井啓雄（京都大学）

対応者：早川卓志

題目：キツネザル類における苦味感覚の種間比較

日本モンキーセンターで飼養されているクロキツネザル1頭を対象に、植物由来の苦味物質2種類を提示し、クロキツネザルの持つ苦味感覚を定性的行動試験によって評価した。同時に、同個体やエリマキキツネザル、ブラウンキツネザルの糞からDNAを抽出し、苦味受容体遺伝子の分離と培養細胞をもちいた機能解析をおこなった。本調査は2017年11月～12月にマダガスカル館にて実施した。その結果、苦味物質に対する忌避反応に、もちいた2種類の苦味物質の間で違いがあり、これは苦味受容体の機能解析の結果を反映するものであった。クロキツネザルの苦味受容体の機能が採食行動に直接的に影響を与えていることが示唆された。本連携研究の結果について、現在英文雑誌へ投稿準備中である。

2017015

申請者：河村正二（東京大学）

対応者：早川卓志

題目：新世界ザルにおける化学感覚受容体遺伝子群の網羅的解析

新世界ザル類は色覚が3色型、2色型、1色型と種間や種内で多様であることから、食性や色覚と関連付けて、味覚受容体（TAS1RsとTAS2Rs）や嗅覚受容体（ORs）の多様性や種特異性の適応進化を研究するのに極めて適している。そこでターゲットキャプチャー法により、サキ亜科を除く新世界ザル類のすべての亜科（ティティ亜科、クモザル亜科、ホエザル亜科、マーモセット亜科、オマキザル亜科、ヨザル亜科）からそれぞれ1種以上についてTAS1Rs、TAS2Rs、OR遺伝子領域のみを濃縮し、次世代シーケンサーでそれらの配列の網羅的な解析を進めている。本年度はこれらの機能遺伝子数及び偽遺伝子数に大きな違いはないが、遺伝子重複と機能欠損によって系統間でレパートリーが多様であることを明らかにしつつある。来年度はこの結果を受けてJMCとの連携研究により多くの霊長類について解析を広げる。

2017016

申請者：加賀谷美幸（広島大学）

対応者：新宅勇太

題目：霊長類の運動適応と胸郭形状

胸郭形態や前肢帯配置に関して、伏位型霊長類の形質はマカクがモデルとなることが多いが、これまで予備的に観察したCT像では、オマキザルやクモザルら新世界ザルは、マカクやヒヒら旧世界ザルよりも肋骨の尾側への傾きが強く、胸鎖関節が相対的に尾側に位置して頸部のスペースが大きく、肩関節の可動範囲拡大に有利と思われる特徴がみられた。中型霊長類の胸

郭形態の観察例を増やし、樹上性傾向との関連を調べるため、日本モンキーセンター所蔵の冷凍標本を京都大学霊長類研究所にてCT撮影した。

保存上の目的のため前屈した冷凍姿勢のまま撮影した標本も多く、比較は難しいが、コロブス、テングザルの肋骨の傾きはニホンザルやヒヒなど、より地上性傾向の強い旧世界ザルのものとあまり変わらないように見受けられた。また、新世界ザルであってもサキは旧世界ザルと似た特徴がみられたが、1標本のみであるため、今後、観察標本数を増やすことが必要である。

2017017

申請者：武真祈子（京都大学）

対応者：新宅勇太

題目：捕獲不要かつ自動で行える小型霊長類の体重測定法の確立

体重およびその経時変化は、動物の生態や健康状態を推察するための最も基本的かつ重要な情報である。本研究では、デジタル体重計の目盛りを、自動撮影カメラで録画した動画から読み取るという手法で、捕獲せずに野生霊長類の体重測定を行うことを最終目的とし、その予備実験として、モンキーセンターのボリビアリスザル、シロガオサキ、アカテタマリンを対象に試行を行った。

結果、ボリビアリスザルとアカテタマリンについては問題なく体重を測ることができた。シロガオサキについては、体サイズの大きさと警戒心の強い性格から今回の実験期間内にデータをとることはできなかったが、体重計の天板サイズを大きくするなどの改良を施し、もう少し時間をかけて慣らすことによって上手くいくと考えられる。

今回の連携研究によって本体重測定法が機能することを確認することができた。今後、実際の野外調査でも使用する予定である。

過年度受入分

申請者：林美里（京都大学）・André Gonçalves
（コインブラ大学）

対応者：赤見理恵

題目：ヤクニホンザルにおける死児の運搬行動

日本モンキーセンターのモンキーバレイにくらすヤクニホンザルでおきた、2例の母親による死児の運搬について行動観察をおこなった。2017年4月24日に死亡した4日齢の子どもの母親401ウミヤシ♀（6950）、および6月17日に死亡した4日齢の子どもの母親341コピ♀（6995）が死児を運搬する行動を見せた。1例目では2日間、2例目では2日間、母親が死児を運搬していた。2例目では、母親コピが自身の子ども（512）と同じく6月17日に死亡した406ウンラン（6962）の子ども（513、2日齢）についても、運搬行動をおこなっていた。17日の15:50頃には、まず自身の子ども（512）を手放し、19日朝にウンランの子ども（513）を放置していた。死児の運搬行動については、チンパンジーやニホンザルなどで報告されているが、ヤクニホンザルではまだ報告がなされていない。一方、モンキーバレイでは過去にも同様の事例がおこっており、他個体が死児を近くから観察する様子も確認した。次年度からは、所内研究に

切り替え、より広範な種を対象として過去の事例も含めてデータを収集する。

申請者：酒井朋子（慶應義塾大学）・畑純一（理化学研究所）・太田裕貴（東京慈恵会医科大学）・小川優樹（東京慈恵会医科大学）

対応者：新宅勇太

題目：拡散スペクトラム MRI を用いた霊長類の神経回路構造の比較研究

昨年度に引き続き、慈恵医科大学の高磁場 MRI 装置を用いて、霊長類脳標本の T2 強調画像と拡散強調画像を撮像した。それと同時に、The Johns Hopkins University の森・大石研究室の技術的指導を仰ぎながら、これまで撮像した霊長類 12 種（ピグミーマモセット、ヨザル、シロガオオマキザル、カニクイザル、ニホンザル、ボンネットマカク、トクモンキー、サイクスモンキー、アカオザル、シュミッドグエノン、ブラッサグエノン、テナガザル）の脳画像を集約し、データベース・システム“The Japan Monkey Centre Primates Brain Imaging Repository for comparative neuroscience”を開発した（Sakai et al., 投稿中）。この論文が受理され次第、本データベースに関する Web サイトが日本モンキーセンターより公開される予定である。

11. 連携研究に伴う標本の貸し出し

(1) 2017004

申請者：澤野啓一（神奈川医科大学）

題目：眼窩骨壁及び頭蓋底神経血管孔の比較解剖学的研究

貸出：アヌビスヒヒなど頭蓋骨標本 10 点

2017 年 6 月 7 日～

(2) 2017016

申請者：浅見真生（京都大学）

題目：更新世マカク属の進化史の解明 - 幾何学的形態測定による遊離歯化石の種同定

貸出：ベニガオザルなど頭蓋骨標本 11 点

2017 年 7 月 2 日～7 月 6 日

タイワンザルなど頭蓋骨標本 12 点

2017 年 7 月 6 日～7 月 11 日

ブタオザルなど頭蓋骨標本 10 点

2017 年 7 月 11 日～7 月 20 日

(2) 2017006

申請者：加賀谷美幸（広島大学）

題目：霊長類の運動適応と胸郭形状

貸出：冷凍標本 10 点

2018 年 2 月 9 日

12. 研究活動ミーティングの開催

第 4 回：2017 年 7 月 28 日

内容：研究進捗報告

コア発表

矢野航（朝日大学）

「レッサースローロリス個体内において

部位間で異所的に適応する細菌叢」

山田将也（日本モンキーセンター）

「モンキーパレイで見られるヤクニホンザルの

イモ洗い・道具使用行動」

第 5 回：2017 年 9 月 15 日

内容：研究進捗報告

科研費申請ワークショップ

研究倫理に関する講習

13. セミナーの開催

(1) 職員向け「霊長類基礎セミナー」

2017 年度

第 1 回：2017 年 5 月 16 日

内容：日本モンキーセンター史

高野智

第 2 回：2017 年 5 月 23 日

内容：霊長類概論

高野智

第 3 回：2017 年 6 月 13 日

内容：動物系統分類学 ver.2017

新宅勇太

第 4 回：2017 年 7 月 2 日

内容：データ収集法

早川卓志

第 5 回：2017 年 7 月 17 日

内容：展示学概論

綿貫宏史朗

第 6 回：2017 年 8 月 28 日

内容：動物園教育概論

赤見理恵

第 7 回：2017 年 9 月 11 日

内容：骨学実習①「骨パズル」

高野智

第 8 回：2017 年 9 月 25 日

内容：骨学実習②「系統分類と運動適応」

高野智

14. 生息地・施設研修

(1) 幸島 (京都大学野生動物研究センター幸島観察所)

第 13 班 2017 年 7 月 4 日～7 月 7 日 根本慧、小泉有希、舟橋昂



今回は陸続きの幸島を目の当たりにした。 α のケイが幸島と本土を行き来する痕跡も見られた。また、今回初めてドローン調査をおこない幸島のサルの反応と幸島全体の姿を見ることができた。(根本)



今年は、16 年ぶりに宮崎本土と幸島が陸続きとなり、徒歩で幸島に上陸した。この陸地、我々ヒトだけではなくサルも使用しているようで、幸島のニホンザル α オスの行き来している痕跡があった。他にも利用している動物はいるのだろうか。(小泉)



サルのムギ洗い行動のような文化的な行動を実際に観察し、そしてこれらの行動が「文化」として群れに残っているということを知ることができた。また、ウマとサルでドローンに対する反応が全く違うことに非常に面白く感じられた。今後の業務においても、1 つ 1 つの何気ない行動や、新しいものに対する野生動物の反応を記録し伝えていくことが、非常に大切であるということを実感することができる研修となった。(舟橋)

第 14 班 2017 年 7 月 18 日～7 月 21 日 鏡味芳宏、中久木愛、土性亮賀、三宅菜穂美



一時的に本土側と幸島が陸続きになっていた。歩いて渡ってきた当時のアルファオスの行動を調査するために、センサーカメラを海岸線の林に設置して撮影を試みた。姿を撮影することはできなかったが、カメラの使い方を学び、野生動物の行動を予想して試行錯誤することが良い経験となった。(鏡味)



研修に訪れた頃、幸島は本土と陸続きになっていた。夕方海岸で植物観察をしていると、当時の α オスであったケイが幸島から本土へ渡る姿を確認することができた。本土で現在どのような生活を送っているのか気になるところである。(中久木)



幸島研修時は本土と幸島が陸つづきになっており、歩いて幸島に渡ることができた。αオスのケイが監視員のいなくなったことを確認しながら本土へ渡ってくる姿や子どものニホンザルの潜水の様子などを観察でき、とても良い経験になった。(土性)



自然の環境でくらすサルや様々な生き物、幸島の植生を実際に観察しとても貴重な経験となりました。木のツタで遊ぶサル、岩の上で毛繕いをするサル、その近くに生息するシーボルトミミズも近くで観察できました。実際に自分で見たこと、学んだことは自信を持ってお客様にも伝えることができますので、モンキーセンターの場で活かしていきたいです。(三宅)

第15班 2018年2月25日～2月28日 岡部直樹、堀込亮意、舟橋昂、阿野隆平、市原涼輔



初めて幸島研修に参加し、自然環境でのサルの行動を観察する貴重な機会を頂いた。また採取した糞便検査から寄生虫卵も実際に確認できた。寄生状況には季節や順位序列による変動があるとの事なので、今回の研修で得られた経験、知識を飼育動物の健康管理に役立てたい。(岡部)



ドローン調査では、空から観察することで生息地の見えかたが全く違うものになると改めて感じられた。特に、空から見た九州本土と幸島との間の海峡は、どのように砂が堆積していたのか、そしてこれからどのように堆積していきそうかを非常にイメージしやすいものであった。また、ニホンザルのドローンに対する反応は様々であり、今後の調査や研修で、幸島のサルがどのような反応を示していくのか、非常に興味深いものとなった。(堀込)



行動調査、顕微鏡調査、植生調査、そしてドローン調査と、さまざまな手法での野生へのアプローチを学ぶことができた。特に今回は、幸島研修での2回目のドローン調査であり、1回目と比べて、メスとコドモのドローンへの慣れが感じられ非常に感動した。また、植生調査では、飼育下と異なり野生下では食べないものが多いことに驚いた。今回の研修で感じたことを基に、より良い環境を飼育下へ還元できるよう努力していきたい。(舟橋)



本研修では、幸島のニホンザルがどのようにして生きているのかを学ぶことができました。どんなのところに観察しようという迷いが出る間もなく、目の前の環境・動物たちにくぎ付けとなりました。動物園の動物たちとは違う目線で見ることができ、貴重な体験をさせていただきました。(阿野)



初めて野生のニホンザルを観察し幸島の自然に触れることができ大変感動した。山に入りトレッキングを始めると幸島のニホンザルの生息環境や植生を見ることができた。何もかもが初めてのことで大変よい経験ができた。(市原)

(2) 屋久島（京都大学野生動物研究センター屋久島観察ステーション）

第8班 2017年9月19日～9月22日 鏡味芳宏、根本慧、大島悠輝、小泉有希



屋久島高所にくらすサルの観察を目的として、宮之浦岳を登頂した。サルを観察することができし、花之江河にてシカにも出会えた。我々の気配に気づくとすぐに森へ入ってしまったが、霧がかかった湿原にボツリとたたずむ姿はとても神秘的で、野生動物と突然遭遇する喜びと屋久島の雄大さを改めて感じる事ができた。(鏡味)



今回の屋久島生息地研修では標高差でのヤクニホンザルの違いを見るため宮之浦岳登山をおこなった。ヤクザサの群生地にてヤクニホンザルに遭遇し観察をおこなうことができた。(根本)



屋久島研修史上初となる宮之浦岳登山に挑みました。屋久島らしい苔むした森からスタートし、低木地帯を抜け森林限界になり、辺り一面がヤクザサの群生地という様々な屋久島の環境を体感することができました。また標高約1700mの高地でヤクニホンザルの群に出会うこともできました。屋久島の雄大な自然に親しむことができた4日間でした。(大島)



標高の高い山々が島内にあるため、亜熱帯性から亜寒帯性植物まで、さまざまな植物相を見ることができた。また、ヤクシカやヤクニホンザルという日本本土とは異なる動物相、一方でシマヘビやニホントカゲなど本土との共通種も観察され、屋久島独特の雄大な自然を体感できた。(小泉)



森の中を自由に動き回るヤクニホンザルとヤクシカを観察できたことと、同行のスタッフの生き物や自然への深い思いと動物に関わる仕事への真剣な姿勢を知ることができたことが大きな収穫でした。(平口)



動物園で動物を見る。野生で見る。何が違うのだろう。教育活動を担当する立場から、考えながら屋久島に渡った。写真は推定5才のオス、タラ。下唇や指の欠損から容易に識別できた。名前を知ると愛着もわく。いつか別の群れに移籍した彼と会うことができたうれしい。(赤見)



はじめて訪れた屋久島では、海と山に囲まれた環境、ヤクニホンザルとヤクシカの共存、ヤクニホンザルの群れと群れの距離感、屋久杉の雄大さなど、てんこ盛りの自然を実感することができた。屋久島の姿に感動しながら、多くのことを経験できる貴重な体験となった。(田中)



今回は事前に西部林道にいるヤクニホンザルの群れの情報を元に群れの特定と観察をおこなった。顔の傷や指などの欠損をしている個体見つけ群れを特定するのは非常に大変であったが、とても良い経験ができた。(根本)



以前の研修報告を基にヤクシカとヤクニホンザルの関係性に特に注目して研修を行った。ヤクシカの近くにヤクニホンザルが確実にいるということは無かったが、観察できたヤクニホンザルの群れの近くには確実にヤクシカがおり、サルの落とした葉を食べている姿を観察することができた。このような生息地での他の動物との関係性や群の見えかたの違いは、面白いだけでなく自然を知る上でも非常に重要であると感じられた。(舟橋)

(3) 京都大学野生動物研究センター熊本サルクチュアリ

第 15 班 2017 年 6 月 27 日～6 月 29 日 山田将也、中久木愛、土性亮賀



構造が工夫された施設、医療器具などの整った設備、すべての放飼場に施された空間エンリッチメントなど、お手本にすべきポイントをあらためて見学することができた。研修を通し、JMC のサルたちのために何をしてあげるべきか、自分に何が足りないのか、などを再認識することができた。(山田)



研修ではチンパンジー・ボノボが幸せに暮らせるよう日替わりでプレゼントを贈るなど工夫がされていた。この研修で学んだ考え方や想いから担当であるキツネザルの幸せを考え、行動できることがあるのではないかと考えるきっかけとなったとても充実した研修であった。(中久木)



熊本サルクチュアリでは、エンリッチメント活動をさせていただきました。活動を通して菜食時間をのぼすためやチンパンジー、ボノボに楽しんでもらうための工夫が感じられ、良い経験になりました。JMC でもそういった活動により一層取り組んでいきたいと感じました。(土性)

第 16 班 2017 年 8 月 29 日～8 月 31 日 荒木謙太、小泉有希、舟橋昂



前回 KS を訪れたのは 2 月と、緑が少ない時期でしたが、今回は青々とした葉がたくさんありました。それらを季節や葉の成長時期などに合わせて有効に活用することで、限りある自然の資源との共生していく術を学ばせて頂きました。(荒木)



チンパンジーやボノボが幸せに暮らせるように、エンリッチメントに力を入れている点が印象的だった。実家の仕送りから考案された『宅配便(様々なフィーダーが詰まった箱)』など、人間の生活内にヒントが散らばっているという新しい視点を得ることができた。(小泉)



熊本サンクチュアリの食べ物は、購入した果物だけでなく、栽培した果実や枝葉、そして葛やイネ科の雑草類などの近場で採取できるさまざまなものを工夫した方法で与えており、みんなを飽きさせない工夫がなされていた。採取植物では、毒の有無など注意しなければならない点も多いが、犬山においても、周囲の恵まれた自然環境を活かし、さまざまな給餌方法を試して、担当動物の食事を飽きさせないように目指していきたい。(舟橋)

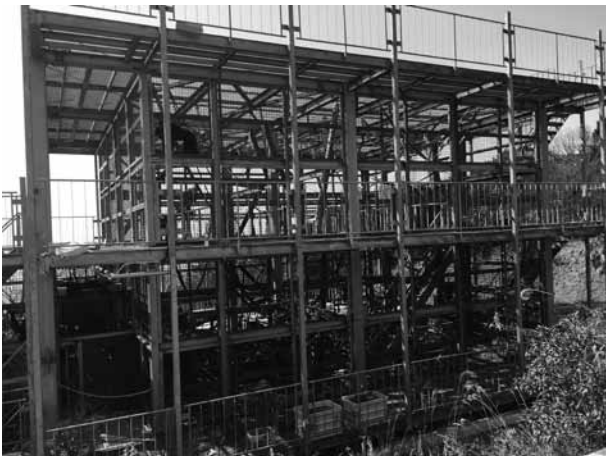
第 17 班 2018 年 3 月 13 日～3 月 15 日 平口愛子、綿貫宏史朗、阿野隆平、市原涼輔



初めて KS のボノボに会い、初めて飼育の仕事を経験しました。エンリッチメントのための様々な工夫がされていることを知り、実際にフィーダーづくりや、ベッド用の笹の採集など、貴重な経験をすることができました。(平口)



近くの三角西港に生息する野生スナメリ（小型イルカ）の調査に初めて同行した。ドローンを用いて上空から海域全体のスナメリのようすを見ることができ、新しい野生動物研究の拡がりを実感した。(綿貫)



檻があり、ヒトがいて動物がいる。環境は動物園と変わらないはずなのに新しい感覚になれたのは、熊本サンクチュアリが持っている福祉に対する考え方が、自分にはまだ足りないからだと分かりました。とても勉強になりました。(阿野)



初めてボノボを見ることができ感動した。チンパンジーよりも小柄で穏やかな印象だった。エンリッチメントを体験したり消防ホースの取り付け、チンパンジーのタッチパネル実験を拝見するなど大変貴重な体験ができた。(市原)

(4) コロンビア

2017 年 5 月 14 日～ 5 月 26 日 綿貫宏史朗、藤森唯



首都ボゴタで開催された第 13 回国際エンリッチメント会議への参加に続き、日本からのメンバー 6 名でサン＝マルティン郊外での研修をおこなった。アンデスの麓、アマゾンの上流域にあたる熱帯の森で、新世界ザルや多様な動物を観察した。写真はオオアマオマキザルの親子、かつてフサオマキザルの 1 亜種とされていた。(綿貫)



オオアリクイとの出会いが強く印象に残った。近隣に生息しているとは聞いていたが、本当にその姿を見られるとは思っていなかった。森から草原に出たところで 1 頭が我々の前を横切り、さらにもう 1 頭がそれに続いた。(綿貫)



放牧地と接した林（写真右）に霊長類たちがすんでいた。放牧地の手前にはヤシのプランテーションもあり、霊長類たちのくらしと人の生活は、離して考えることはできないのだと感じた。(藤森)



フィールドで最初に出会ったカザリティティ。全部で 4 種の霊長類とオオアリクイに出会ったが、それ以上の鳥類や昆虫も見ることができた。日本とは大きく異なる生物相に触れることで、両者の多様性を考えることができた。(藤森)

(5) タンザニア

第 5 班 2017 年 9 月 13 日～ 9 月 22 日 木村直人、江藤彩子



ゴンベ・ストリーム国立公園では、至近距離でチンパンジーをじっくり観察することができた。枝を折り、口で葉をしごいて道具を作り、シロアリを釣って食するワカモノの姿や、のんびりと子どもをあやすオトナメスの母親の表情に感動した。(木村)



ルアハ国立公園では、乾季で水を求めて集まるサバンナの動物たちにたくさん出会えた。屍肉をついばむハゲワシや、バッファローを仕留めて休息するライオンの群れに野生で生きる動物の生き様の一端を見た気がした。(木村)



ゴンベではチンパンジーはもちろん、アカオザルやブルーモンキーなどの霊長類たちを樹上で姿かたちがハッキリ見えなくても、発見できただけで感動した。乾季のルアハでは、わずかな水場でカバが身を寄せ、ゾウが大樹の下で涼み、動物たちの生きるための工夫を見られた。研修中、動物たちはもちろん、その土地の文化にも触れることができ、服装の色使い、絵画は派手で目立つものが多く、デザインを描く者として参考になるものばかりだった。(江藤)

(6) インドネシア・インド

2018年2月5日～2月17日

綿貫宏史朗

2018年2月9日～2月17日

根本慧（インドのみ）



スローロリス保全センターの活動の下地とすべく、野生ロリス類の観察ツアーを実施した。インドネシア・ジャワ島では、近絶滅種（CR）であるジャワスローロリスの保全研究フィールドを訪ね、その活動の一部を垣間見た。写真は針葉樹の樹皮をかじり、樹液を採食するようす。(綿貫)



インド・バンガロールでの目当てはハイイロスレンダーロリスだったが、それ以外にも多くの霊長類や野生動物を見る機会を得た。ボンネットモンキーは数多く生息し、ヒトの居住環境にも多く現われる身近な野生動物の一つだ。(綿貫)



マドゥマライ国立公園で遭遇したベンガルトラ。サファリツアーに参加し運良く見る事ができた。他にもナマケグマやカンムリラングールやボンネットモンキーなど多くの動物を観察することができた。(根本)



今回の生息地研修の最大の目的であるハイイロスレンダーロリス。インド科学大学の構内に生息している。夜の暗闇の中スレンダーロリスのホイッスル音を頼りに搜索をした。動きが早く思っていたより小柄なのが印象的だ。(根本)

(2) 保全活動

1. コンゴ民主共和国 Mbali 地域におけるボノボ保全

(1) 現地調査・打ち合わせの実施

2017 年 4 月 13 日～4 月 14 日	岡安直比
2017 年 5 月 8 日～5 月 12 日	岡安直比
2017 年 8 月 14 日～9 月 6 日	岡安直比
2017 年 8 月 22 日～9 月 10 日	伊谷原一
2018 年 2 月 5 日～2 月 22 日	伊谷原一

(2) 三井物産環境基金活動助成

案件名：コンゴ民主共和国の稀少大型類人猿ボノボ

保全のための感染症モニタリングと普及啓発活動

申請代表者：木村直人

期間：2015 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日

金額：総額 13,998,000 円

現地調査：2017 年 5 月 8 日～5 月 12 日	岡安直比
2017 年 8 月 22 日～9 月 10 日	綿貫宏史朗
2017 年 9 月 5 日～9 月 28 日	新宅勇太
2018 年 2 月 5 日～2 月 22 日	新宅勇太



ボノボの子ども（2017 年 9 月 17 日、新宅勇太撮影）

2. カメルーン ロベケ国立公園における生物多様性保全

(1) WWF カメルーンとの Project Agreement の締結

期間：2017 年 12 月～2018 年 6 月

(2) 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)

案件名：地域住民の在来知と生態学的手法の協働と
共創による革新的な森林資源マネジメントの
確立と実装

申請代表者：安岡宏和（京都大学）

研究参加者：岡安直比

(3) 現地調査・打ち合わせの実施

2017 年 3 月 26 日～4 月 12 日	岡安直比
2017 年 8 月 1 日～8 月 2 日	岡安直比
2017 年 9 月 8 日～9 月 19 日	岡安直比

3. ブータン マナス多国間保護区構想

(1) WWF ブータンとの Project Agreement の締結

期間：2018 年 1 月～2018 年 12 月

(2) 現地調査の実施

2017 年 4 月 19 日～5 月 2 日 岡安直比

4. コンゴ民主共和国 カフジビエ国立公園における チンパンジーおよびゴリラの保全

期間：2017 年 6 月～2018 年 3 月

5. ギニア共和国 野生チンパンジー保全のための 「緑の回廊」への支援事業

期間：2017 年 4 月～

6. ガボン共和国 ムカラバ-ドウドゥ国立公園における ニシローランドゴリラ保全

期間：2017 年 8 月～2018 年 3 月

7. スローロリス保全センターの運営

(1) 特別限定見学ツアーの実施

キュレーターズガイド

2017 年 4 月 9 日、5 月 3 日、6 月 17 日

第 20 回 SAGA シンポジウムエクスカーショ

2017 年 11 月 5 日

(2) 飼育個体の福祉向上・飼育環境改善

バックヤード飼育全個体を保全センターへ移動完了

2017 年 10 月 16 日

(3) 連携研究等による研究の推進



第 20 回 SAGA シンポジウムエクスカーショ

(3) 環境教育並びに社会普及活動

1. 特別展・特集展示の開催

- (1) 特別展「ZOO シミュレーション
～あなたが選ぶ動物園の未来～」
会期：2017年3月18日～9月25日
場所：ビクターセンター内 特別展示室
- (2) 特別展「100種勢ぞろい モンキーセンターの秘蔵コレクション」
会期：2017年10月14日～2018年2月26日
場所：ビクターセンター内 特別展示室
- (3) 特別展「PrimArt 霊長類アート展」
会期：2018年3月24日～開催中
場所：ビクターセンター内 特別展示室
共催：京都造形芸術大学文明哲学研究所
協力：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会
- (4) 民俗資料展示「見ざる・聞かざる・言わざる」世界の三猿
会期：2017年2月11日～開催中
場所：ビクターセンター内 企画展示室
- (5) 生息地研修パネル展
会期：2017年2月11日～開催中
場所：ビクターセンター内
- (6) パネル展示 霊長類のくらす日本と世界のユネスコ・エコパーク
会期：2017年3月25日～開催中
場所：ビクターセンター内 企画展示室・園内各所
協力：木下こづえ（京都大学野生動物研究センター）
- (7) 民俗資料展示「日本モンキーセンター所蔵 民俗資料 猿二郎コレクション」
会期：2017年10月13日～開催中
(2018年3月30日展示替えを実施)
場所：木之下城伝承館 堀部邸
協力：特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク
京大モンキーキャンパス 資料サークル



特別展「ZOO シミュレーション」

2. 2017年度京大モンキーキャンパスの開講

主催：公益財団法人日本モンキーセンター
共催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
後援：愛知県、岐阜県、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会
受講費：12,000円（全6回分、友の会年会費は別途）
受講者数：99名

プログラム：

- 第1回 2017年6月12日
講師：松田一希（中部大学・(公財)日本モンキーセンター）
「霊長類の新常識：個性的なテングザルを追って」
- 第2回 2017年7月9日
講師：土井隆雄（京都大学宇宙総合学研究院 ユニット・宇宙飛行士）
「日本の有人宇宙活動」
- 第3回 2017年8月13日
講師：林美里（京都大学霊長類研究所・(公財)日本モンキーセンター）
「チンパンジーとヒトの心の発達と親子関係」
- 第4回 2017年9月10日
講師：海部陽介（国立科学博物館人類研究史グループ）
「日本人はどこから来たのか？～航海者だった祖先たち～」
- 第5回 2017年10月8日
講師：平田聡（京都大学野生動物研究センター）
「類人猿の心と行動」
- 第6回 2017年11月12日
講師：三砂ちづる（津田塾大学国際関係学科）
「ヒトにとって出産とはどういう経験か」



第2回（講師：土井隆雄）

3. 京大モンキーキャンパス研修ツアーの実施

①ボルネオ研修ツアー

日程：2017年11月18日～11月23日
参加者：11名
引率：赤見理恵、石田崇斗
現地指導：湯本貴和（京都大学霊長類研究所）
松田一希（中部大学、JMC アドバイザー）



ボートからさまざまな動物を観察し、テングザル調査地や NGO の活動も見学した。12 年前の訪問時に比べロッジが増え、植林地に森が育ち、女性たちが活躍していた。人々の熱意で森も村も変わっていくのだと実感した。(赤見)



サバ州キナバタンガン川流域ではテングザルをはじめ、ボルネオオランウータンやボルネオゾウなど希少な野生動物に出会うことができました。私が JMC で担当しているミューテナガザルも見つけることができ、とても貴重な経験ができました。また、多くの野生動物に出会えただけでなく、現地が抱えている環境問題などについても学ぶ機会をいただきました。(石田)

②幸島研修ツアー

日程：2017 年 12 月 8 日～ 12 月 10 日

参加者：6 名

引率：赤見理恵

現地指導：鈴木崇文（京都大学野生動物研究センター）



京大モンキーキャンパス受講者有志とともに幸島を訪れた。群れの様子、生息環境、そして研究の歴史。私たちスタッフが研修で学んだり感じたことを、受講者とも分かち合うことができた。(赤見)



資料サークルの活動のようす

4. 京大モンキーキャンパスサークル活動の実施

京大モンキーキャンパス受講者をメンバーとして活動募集型サークル

①資料サークル（担当キュレーター：高野、新宅、綿貫）

活動日：京大モンキーキャンパス開講日の午後

内容：民俗資料および写真記録の整理

②行動観察サークル（担当キュレーター：赤見、早川）

活動日：京大モンキーキャンパス開講日の午後、および不定期に活動

内容：アビシニアコロブス班・ヤクシマザル班の 2 班に分かれ、行動を観察

成果はプリマーテス研究会等で発表

自主活動型サークル

①エンリッチメントサークル

（担当キュレーター：綿貫、赤見）

活動日：京大モンキーキャンパス開講日の午後

内容：ニシゴリラを対象に環境エンリッチメントを実施し行動を観察。また、一般来園者向けのガイドを実施。成果はプリマーテス研究会等で発表

②記録サークル（担当キュレーター：赤見）

活動日：京大モンキーキャンパス開講日

内容：モンキーキャンパス各講義の内容を記録、記録はウェブページ上で公開

③畑サークル（担当キュレーター：高野）

活動日：不定期

内容：園内各所に畑を作り、さまざまな物を栽培。作物は園内の霊長類に給餌

④視察サークル（担当キュレーター：綿貫）

活動日：不定期（2017 年度は視察実施なし）

内容：モンキーキャンパス受講生を募って、他の動物園等への視察旅行を開催

5. 京大モンキー日曜サロンの開催

主催：公益財団法人日本モンキーセンター

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

京都大学霊長類研究所

後援：犬山市、犬山市教育委員会

提供：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院



第 41 回 (講師：クレア・ワトソン)

- 第 34 回 2017 年 4 月 16 日
講師：武真祈子（京都大学霊長類研究所）
「都市のはざまで生きる：ブラジル・アマゾン
で出会ったサルたちの暮らし」
- 第 35 回 2017 年 4 月 30 日
講師：石塚真太郎（京都大学霊長類研究所）
「パパは誰？：DNA から探るボノボの社会」
- 第 36 回 2017 年 5 月 14 日
講師：サユリ・タケシタ
（京都大学霊長類研究所）
「なぜニホンザルは温泉に入るのか？」
- 第 37 回 2017 年 5 月 28 日
講師：西栄美子（京都大学霊長類研究所）
「ニホンザルは葉っぱが甘い？
- ニホンザルと甘みについて -」
- 第 38 回 2017 年 6 月 25 日
講師：友永雅己（京都大学霊長類研究所・
（公財）日本モンキーセンター）
「センス・オブ・ナンバ：動物たちは数を
どう理解しているか」
- 第 39 回 2017 年 7 月 25 日
講師：川本芳（京都大学霊長類研究所）
「ブータンに見る人と動物の関係」
- 第 40 回 2017 年 8 月 27 日
講師：今村公紀（京都大学霊長類研究所）
「- 霊長類版・『iPS 細胞』を使ってできること」
- 第 41 回 2017 年 9 月 24 日
講師：クレア・ワトソン（京都大学霊長類研究所）
通訳協力：川口ゆり（京都大学霊長類研究所）
「ニホンザルの文化」
- 第 42 回 2017 年 10 月 22 日
講師：ガオ・ジエ（京都大学霊長類研究所）
通訳協力：瀧山拓哉（京都大学霊長類研究所）
「チンパンジーのじゃんけん学習～人間の子ど
もの比較」
- 第 43 回 2017 年 11 月 26 日
講師：井上漱太（京都大学野生動物研究センター）
「空からみた野生ウマ：ドローンを使った
フィールドワーク」
- 第 44 回 2018 年 3 月 26 日
講師：峠明杜（京都大学霊長類研究所）
「虫を食うサルも好き好き？：環境 DNA で
探るサルの昆虫食」

6. アニマルフォトコンテストの開催

- (1) 第 12 回モンキーセンターアニマルフォトコンテスト
優秀作品展の開催

期間：2016 年 12 月 3 日～2017 年 11 月 1 日

場所：ビジターセンター内 企画展示室

- (2) 第 13 回モンキーセンターアニマルフォトコンテストの開催

後援：文部科学省、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、
犬山市、犬山市教育委員会、（公社）愛知県獣医師会、
（公社）岐阜県獣医師会、（公社）名古屋市獣医師会、
朝日新聞社、全日本写真連盟中部本部

協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社、
サンディスク株式会社

部門：一般部門、学生部門、組み写真部門

募集期間：2017 年 6 月 1 日～9 月 30 日

応募点数：950 点（応募者数 483 名）

入選点数：36 点（特別賞 17 点、入選 19 点）

表彰式：2017 年 12 月 2 日

場所：ビジターセンターホール

参加者：受賞者およびその家族等、35 名

- (3) 第 13 回モンキーセンターアニマルフォトコンテスト
優秀作品展の開催

期間：2017 年 12 月 2 日～ 開催中

場所：ビジターセンター内 企画展示室

7. 写生大会の開催

- (1) 第 61 回中部ブロック動物園水族館協会写生コンクール参加

日本モンキーセンター写生大会 優秀作品展の開催

期間：2016 年 7 月 23 日～2017 年 7 月 22 日

場所：アフリカセンター内室内観覧通路

- (2) 第 62 回日本モンキーセンター写生大会の開催

後援：文部科学省、愛知県、愛知県教育委員会、

岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会、

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・

リーディング大学院、京都造形芸術大学

募集期間：2017 年 4 月 1 日～6 月 4 日

応募点数：223 点

入選点数：45 点（特別賞 12 点、特選 13 点、入選 20 点）

表彰式：2017 年 7 月 23 日

場所：ビジターセンターホール

参加者：受賞者およびその家族、114 名



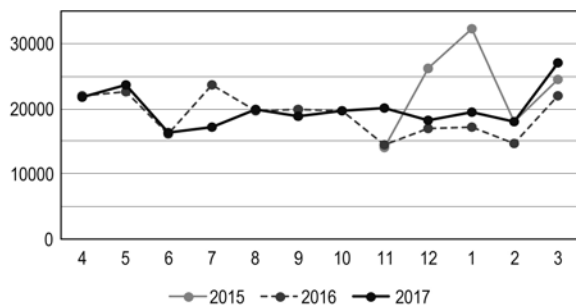
受賞者集合写真

- (3) 第62回日本モンキーセンター写生大会
優秀作品展の開催
期間：2017年7月23日～ 開催中
場所：アフリカセンター内室内観覧通路

7. ホームページの充実

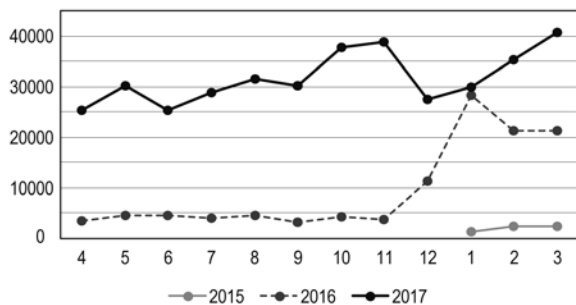
- (1) 日本語サイト <http://www.j-monkey.jp/>
Webサイトの更新件数：327件
(サポーター専用ページを除く)
主な更新：トップページ写真、ニュース、獣医室等

日本語サイトトップページ 月別ヒット数



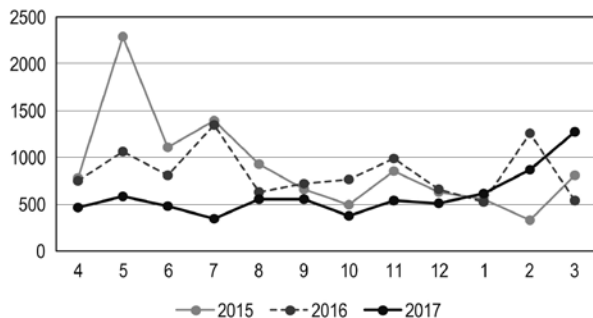
- (2) ブログ「飼育の部屋」
<http://www.j-monkey.jp/jmckepper/>
2018年度投稿数 1,892件

飼育の部屋 月別表示数



- (3) 外国語サイト
(英) <https://www.japanmonkeycentre.org/index.html>
(葡) <https://www.japanmonkeycentre.org/pt/>
(仏) <https://www.japanmonkeycentre.org/fr/>
(中) <https://www.japanmonkeycentre.org/cn/>

外国語サイト 月別アクセス数



8. メールマガジン「新JMC通信」の発行

2017年4月号(2017年4月20日配信)

コラム：帰ってきました！

辻内祐美

2017年5月号(2017年5月18日配信)

コラム：GW(ゴールデンワーカー)の一日

安倍由里香

2017年6月号(2017年6月22日配信)

コラム：地球の裏側でニホンザルを思う！？

藤森唯

2017年7月号(2017年7月20日配信)

コラム：幸島のサルを見つめて

舟橋昂

2017年8月号(2017年8月17日配信)

コラム：キツネザル王国訪問記

田中ちぐさ

2017年9月号(2017年9月21日配信)

コラム：発見してもらおう・気が付いてもらうことの
大切さ

大島悠輝

2017年10月号(2017年10月19日配信)

コラム：学術誌『プリマーテス』の60年

松沢哲郎

2017年11月号(2017年11月16日配信)

コラム：SAGA20を開催しました

友永雅己

2017年12月号(2017年12月21日配信)

コラム：野生のタイワンザル

赤見理恵

2018年1月号(2018年1月18日配信)

コラム：積み重ねる歴史 ～モンキーセンターの標本
コレクション～

新宅勇太

2018年2月号(2018年2月22日配信)

コラム：リスザルの島で自然にくらす仲間たち

堀込亮意

2018年3月号(2018年3月22日配信)

コラム：飼育員の仕事～同じ日は1日としてないから～
鏡味芳宏

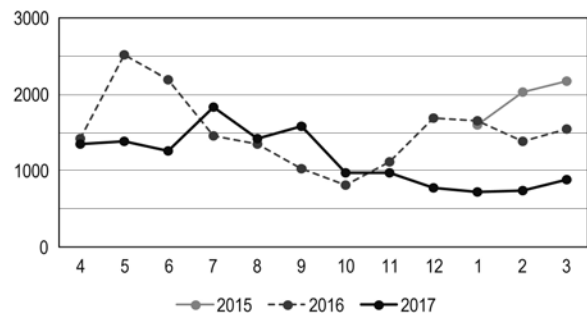
9. Facebookを通じた情報発信

<https://www.facebook.com/japanmonkeycentre/>

投稿数：150件

フォロワー数：2,426(2018年3月31日時点)

Facebook 月別平均リーチ数



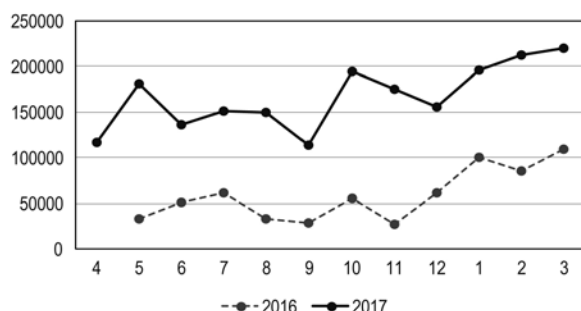
10. Twitter を通じた情報発信

https://twitter.com/j_monkeycentre

投稿数：2,249 件

フォロワー数：845（2018 年 3 月 31 日時点）

Twitter 月別インプレッション数



11. YouTube 公式チャンネルからの配信

(動画・スライドショー)

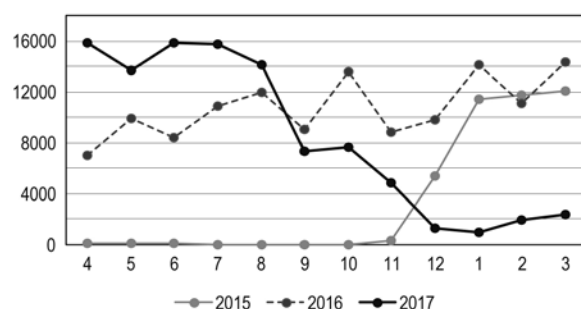
2017 年度新規配信：33 件

動物園イベント「甲子猿」「VS 飼育員」

モンキーセンター CM 関連動画の配信など

協力：中村美穂（京都大学野生動物研究センター）

Youtube 月別視聴回数



12. マスメディアへの情報提供

(1) プレスリリース

『VS (ブイエス) 飼育員』～ 4/19 は飼育の日！飼育員のお仕事に挑戦！～ 2017 年 4 月 11 日配信
サルたちのベビーラッシュ！！

2017 年 4 月 24 日配信

暑い夏、動物たちにヒンヤリしたプレゼント！

『カチコチフルーツ』 2017 年 6 月 23 日配信

第 1 回日本モンキーセンター飼育施設対抗なんでも

アピール選手権大会 通称「甲子猿」

2017 年 7 月 12 日配信

今夏ラストチャンス！『自由研究おたすけ隊』

2017 年 8 月 25 日配信

『モンチャレ！』

2017 年 9 月 21 日配信

動物慰霊祭を執りおこないます

2017 年 10 月 13 日配信

「特別展 100 種勢ぞろい モンキーセンターの秘蔵

コレクション」オープン！

2017 年 10 月 16 日配信

世界キツネザルフェスティバル 2017 in JMC

2017 年 10 月 16 日配信

アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い

第 20 回シンポジウム（通称 SAGA20）をモンキー

センターで開催します！ 2017 年 10 月 27 日配信

大型類人猿の脱出を想定した対策訓練を実施します

2017 年 11 月 25 日配信

日本モンキーセンターの戌年企画！「イヌなのにサル？

サルなのにイヌ？」

2017 年 12 月 5 日配信

冬の風物詩「たき火にあたるサル」今年も 12 月 22 日

(冬至) より開催！

モンキーバレイの櫓（やぐら）もリニューアル！

2017 年 12 月 11 日配信

日本モンキーセンターの年末年始のイベントのご案内

2017 年 12 月 21 日配信

料金改定のお知らせ

2018 年 3 月 19 日配信

特別展「PrimArt 霊長類アート展」オープン！

2018 年 3 月 22 日配信

(2) 新聞記事掲載 41 件

(3) テレビ 20 件

(4) ラジオ 2 件

(5) 雑誌等掲載 28 件

(6) Web サイト 13 件、

およびイベント情報配信サイトへの情報提供 2 件

※確認できたものののみ

(7) 番組制作協力

① 放送大学「博物館情報・メディア論」

赤見理恵、新宅勇太、伊谷原一、林美里

13. 学習利用

(1) 団体入園者数 253 件・15,009 名

(カッコ内は教育プログラムの利用があった団体数、

のべ 178 件・12,366 名)

幼稚園・保育園 66 (49) 件 7,367 (3,185) 名

小学校 69 (68) 件 5,735 (5,660) 名

中学校 16 (12) 件 1,094 (1,065) 名

高等学校 9 (9) 件 534 (534) 名

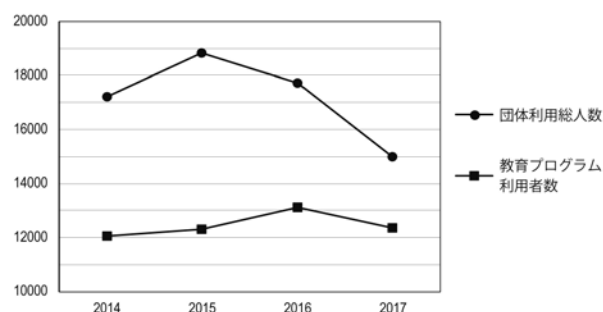
大学・専門学校 29 (24) 件 1,194 (1,014) 名

特別支援・養護学校 7 (6) 件 452 (422) 名

福祉・介護施設 18 (0) 件 693 (0) 名

一般・その他 38 (19) 件 828 (486) 名

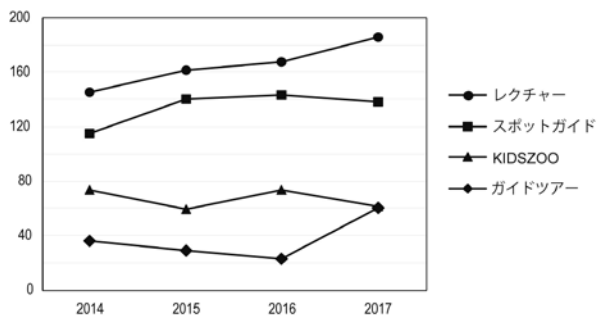
団体利用者数



(2) 教育プログラム利用状況

レクチャー:	186 件
スポットガイド団体利用:	138 件
KIDSZOO 団体利用:	61 件
紙芝居:	9 件
キュレーター等によるガイドツアー:	60 件
バックヤード見学:	10 件
標本を用いた博学実習:	14 件
ロコモーション観察ワークシート:	8 件
行動観察実習:	6 件
その他	2 件

教育プログラム利用件数



(3) 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 (PWS) 高大連携プロジェクトへの協力

① 愛知県立明和高等学校

日程: 2017 年 4 月 21 日

対象: 1 年生生徒 320 名

内容: 同時ショートガイド 17 本

(キュレーター、獣医師、飼育員の他、
PWS 履修生で実施)

(4) 犬山市と連携した授業づくり

① 犬山市理科授業づくり推進委員会「連携授業の手引き」作製協力

② 小学校全校児童 1 日モンキーデー

犬山北小学校 522 名 2017 年 5 月 10 日

③ 小学校 4 年生 モンキーワーク

理科「わたしたちの体と運動」に関連したプログラム

犬山南小学校 98 名 2017 年 6 月 16 日

犬山西小学校 92 名 2017 年 6 月 16 日

城東小学校 157 名 2017 年 6 月 21 日

楽田小学校 157 名 2017 年 6 月 21 日

羽黒小学校 98 名 2017 年 6 月 23 日

東小学校 75 名 2017 年 6 月 23 日

池野小学校 18 名 2017 年 6 月 26 日

今井小学校・栗栖小学校 (3, 4 年生) 19 名

2017 年 6 月 29 日

④ 中学校 モンキーワーク

理科第 2 分野「動物の生活と生物の変遷」と関連したプログラム

東部中学校 1 年生 116 名 2017 年 5 月 30 日

南部中学校 2 年生 176 名 2017 年 8 月 1 日

犬山中学校 2 年生 229 名 2017 年 8 月 21 日

城東中学校 2 年生 208 名 2017 年 9 月 15 日



東部中学校モンキーワーク

14. 教員研修会の誘致

(1) 尾張科学教育研究会研修会

日程: 2017 年 6 月 24 日

参加者: 愛知県内の小中学校教員 60 名

内容: レクチャー、ガイドツアー、博学連携事例紹介、
バックヤード見学

講師: 高野智

(2) 西春日井地区理科研究サークル

日程: 2017 年 11 月 18 日

参加者: 11 名

内容: レクチャー、骨パズル、博学連携事例紹介、
バックヤード見学

講師: 高野智

15. 教育普及活動の充実につながる各種ツールの開発

(1) 学校団体向け利用の手引き

(2) ワークシートの開発

(3) 霊長類ガイドブックの改訂

(4) 標本等を活用した教材開発

16. アウトリーチ活動

(1) 教育活動の実践における職員の講師派遣

① 金城学院大学

日程: 2017 年 5 月 11 日

対象: 現代子ども学科 1 年生 110 名

内容: 人間科学基礎演習「行動観察実習の事前指導」

赤見理恵

② 犬山市立犬山西小学校

日程: 2017 年 6 月 20 日

対象: 6 年生 105 名

内容: 理科授業「霊長類の消化管と食べ物の関係」

高野智

③ 犬山市立城東中学校

日程: 2017 年 6 月 22 日

対象: 1 年生 172 名

内容: 理科「花のつくりとはたらき」の種子散布の
発展学習

赤見理恵

④ 名古屋コミュニケーションアート専門学校

日程: 2017 年 6 月 24 日

対象: 動物園・動物飼育専攻 2 年生 88 名

内容: 講演「やるか、やらないかは自分次第」

石田崇斗

- ⑤ 犬山市立南部中学校
日程：2017 年 6 月 27 日・28 日
対象：2 年生 183 名
内容：理科授業「草食動物と肉食動物 そしてサル」
高野智
- ⑥ 犬山市立犬山北小学校
日程：2017 年 7 月 4 日
対象：6 年生 80 名
内容：理科授業「霊長類の消化管と食べ物の関係」
高野智
- ⑦ 帝京科学大学
日程：2017 年 8 月 8 日・9 日
場所：帝京科学大学上野原キャンパス（山梨県上野原市）
対象：学芸員課程履修学生 30 名
内容：博物館実習集中講義
「生態系と科学コミュニケーション」
大淵希郷
- ⑧ 犬山市立犬山西小学校
日程：2017 年 9 月 6 日
対象：5 年生 102 名
内容：理科授業「ヒトの誕生」の発展学習
赤見理恵
- ⑨ 犬山市立楽田小学校
日程：2017 年 9 月 11 日
対象：5 年生 119 名
内容：理科授業「ヒトの誕生」の発展学習
赤見理恵
- ⑩ 犬山市立東小学校
日程：2017 年 9 月 20 日
対象：5 年生 57 名
内容：理科授業「ヒトの誕生」の発展学習
赤見理恵
- ⑪ 犬山市立池野小学校
日程：2017 年 9 月 21 日
対象：5 年生 24 名
内容：理科授業「ヒトの誕生」の発展学習
赤見理恵
- ⑫ 犬山市立犬山北小学校
日程：2017 年 10 月 11 日
対象：2 年生 91 名
内容：国語「どうぶつ園のじゅうい」の発展学習
木村直人、赤見理恵
- ⑬ 犬山市立城東小学校
日程：2017 年 10 月 18 日、20 日
対象：5 年生 142 名
内容：理科授業「ヒトの誕生」の発展学習
赤見理恵
- ⑭ 犬山市立今井小学校
日程：2017 年 10 月 24 日
対象：5 年生・6 年生 13 名
内容：理科授業「ヒトの誕生の発展学習」
赤見理恵
- ⑮ 多治見西高等学校附属中学校
日程：2017 年 10 月 30 日
対象：2 年生 47 名
内容：理科授業「動物学研修」 講演、骨パズル
- ⑯ 犬山市立東部中学校
日程：2017 年 10 月 31 日
対象：2 年生 89 名
内容：理科授業「骨パズル」
高野智
- ⑰ 名古屋市立辻小学校
日程：2017 年 11 月 14 日
対象：4 年生～6 年生 142 名
内容：道徳授業「生命の進化から命の尊さを学ぶ」
高野智
- ⑱ 岐阜県立岐阜農林高等学校
日程：2017 年 12 月 14 日
対象：動物科学科 1、2 年生 80 名
内容：講演「モンキーセンター飼育員の仕事」
坂口真悟
- ⑲ 中部学院大学教育学部
日程：2018 年 1 月 18 日
対象：子ども教育学科 1 年生 約 50 名
内容：比較認知発達論「霊長類から学ぶたくさんのこと～日本モンキーセンターの教育・研究活動」
赤見理恵
- ⑳ 岐阜県立関高等学校
日程：2018 年 2 月 8 日
対象：1 年生 約 280 名
内容：講演「職業別ガイダンス 動物園の飼育員」
田中ちぐさ
- ㉑ 名古屋コミュニケーションアート専門学校
日程：2018 年 2 月 15 日
対象：エココミュニケーション科 1 年 242 名
内容：就職出陣式講演
対象：動物園・動物飼育専攻 1 年 88 名
内容：特別講演「やるか、やらないかは自分次第」
石田崇斗
- ㉒ 犬山市立東小学校
日程：2018 年 2 月 21 日
対象：1 年生 59 名
内容：国語授業「どうぶつのあかちゃん」の発展学習
赤見理恵
- ㉓ 犬山市立犬山北小学校
日程：2018 年 3 月 5 日
対象：1 年生 76 名
内容：国語授業「どうぶつのあかちゃん」の発展学習
赤見理恵
- (2) 職員の派遣
- ① 京都市動物園「野生動物学のすすめ」出展
日程：2017 年 4 月 16 日～4 月 17 日
場所：京都市動物園（京都府京都市）
内容：JMC 紹介パネル展示、標本等を用いたガイド、オリジナルグッズ販売
山極壽一、伊谷原一、綿貫宏史朗、大淵希郷
- ② 上野の森親子フェスタでの講演と中継
日程：2017 年 5 月 5 日
場所：東京都美術館講堂（東京都台東区）
内容：講演「サルを知ることとはヒトを知ること！
熱帯雨林の陽性・ボノボの生活」
園内からの中継
伊谷原一

- ③ 五郎丸老人懇談会
 日程：2017 年 6 月 28 日
 場所：五郎丸老人憩の家（愛知県犬山市）
 内容：日本モンキーセンターの紹介 江藤彩子
- ④ 体験型環境イベント「エコ博」出展
 日程：2017 年 7 月 2 日
 場所：アクアウォーク大垣（岐阜県大垣市）
 内容：JMC 紹介パネル展示、動物ふれあい、
 講演「人間もサル？サルから学ぶ人間の不思議」
 赤見理恵、大淵希郷
- ⑤ 熱田神宮緑陰教室
 日程：2017 年 7 月 31 日
 場所：熱田神宮（愛知県名古屋市）
 内容：講演「サルのおはなし」 赤見理恵
- ⑥ 丸の内キッズジャンボリー
 日程：2017 年 8 月 15 日～ 17 日
 場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）
 内容：PWS と共同で「世界一周！どうぶつ調査隊！」
 出展、JMC 紹介パネルの展示、グッズ販売など
 大淵希郷、江藤彩子、安倍由里香、小泉有希



丸の内キッズジャンボリー

- ⑦ 日本科学未来館 サイエнтиスト・クエスト
 日程：2017 年 8 月 18 日
 場所：日本科学未来館（東京都江東区）
 内容：対話イベント
 「いままでいなかった！？野生動物学の科学
 コミュニケーター！～野生との共存と動物
 リテラシーの確立を目指して」 大淵希郷
- ⑧ 第 4 回宇部と地球の環境を考えるフォーラム
 日程：2017 年 8 月 20 日
 場所：ときわ公園内ときわレストハウス（山口県宇部市）
 内容：講演「動物たちの能力と野生での暮らし」（赤見）
 ワークショップ
 「サルリンピック！～どうぶつたちに挑戦～」
 赤見理恵、大淵希郷、田中ちぐさ
- ⑨ サルの系統樹マンダラ動物園
 会期：2017 年 9 月 1 日～9 月 30 日
 場所：ジュンク堂 池袋本店
 内容：系統樹マンダラ原画展への協力、
 JMC 紹介パネル展示など
 備考：8 月 31 日設営（高野智）

- ⑩ PWS 東京フォーラム 2017
 日程：2017 年 10 月 1 日
 場所：日本科学未来館（東京都江東区）
 内容：ブース出展
 講演「野生動物研究と”あなた”をつなぐ動物園」
 （赤見）
 赤見理恵、大淵希郷、綿貫宏史朗
- ⑪ ボルネオトラストジャパン講演会
 日程：2017 年 10 月 5 日
 場所：サラヤ本町ビル（大阪府大阪市）
 内容：講演「科学コミュニケーター、野生動物に会いに
 行く ～動物リテラシーの確立を目指して～」
 大淵希郷
- ⑫ なごや生物多様性センターまつり・生物多様性ユース
 ひろば
 日程：2017 年 10 月 28 日
 場所：なごや生物多様性センター（愛知県名古屋市）
 内容：ブース出展「キュレーターのいる動物園
 ～日本モンキーセンターのとりくみ」
 大淵希郷
- ⑬ 第 11 回さとかん環境職業説明会
 日程：2017 年 11 月 19 日
 場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス（大阪府堺市）
 内容：動物園や大学の仕事の説明会 大淵希郷
- ⑭ 岳都・松本 山岳フォーラム 2017
 日程：2017 年 11 月 25 日、26 日
 場所：まつもと市民芸術館（長野県松本市）
 内容：PWS と共同で「フィールドワークの教室 2017」
 出展 新宅勇太
- ⑮ 第 65 回動物園技術者研究会開催記念イベント
 日程：2017 年 12 月 17 日
 場所：京都市動物園（京都府京都市）
 内容：講演「動物園における科学コミュニケーション
 の活用」 大淵希郷
- ⑯ 夜の図書館カフェ DE トーク
 日程：2017 年 12 月 17 日
 場所：京都市動物園（京都府京都市）
 内容：講演「科学コミュニケーター奮闘記
 ～様々な野生動物をもとめて西へ東へ～」
 大淵希郷
- (3) シンポジウム等の共催
- ① 中部学院大学 公開講座「比較認知発達論」
 2017 年度第 1 回：2017 年 7 月 6 日
 「互いを思いやる心の進化」 松沢哲郎
 2017 年度第 2 回：2018 年 1 月 25 日
 「心の進化を探る」 松沢哲郎
- (4) 地元、近隣の学校訪問（誘致・広報活動）
 犬山市を中心に、出前授業等の機会も利用して誘致の
 呼びかけ
- (5) 社会貢献
- ① あいちサイエンスフェスティバル 実行委員 高野智
- ② 愛知県尾張北部地域生態系ネットワーク協議会
 副会長 高野智
- ③ 日本動物園水族館教育研究会 運営委員 赤見理恵

- ④ 愛知県未来を生き抜く人材育成事業地域推進会議
外部委員 赤見理恵
- ⑤ NPO 法人市民 ZOO ネットワーク 理事
綿貫宏史朗
- ⑥ 日本哺乳類学会 標本・分類群名検討委員会委員
新宅勇太
- ⑦ (公社) 日本動物園水族館協会
総務委員会倫理福祉部員 木村直人
- ⑧ (公社) 日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
フクロテナガザル種別計画管理者、
テナガザル類およびフランソワルトン専門技術員
綿貫宏史朗
- ⑨ (公社) 日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
クロシロエリマキキツネザル種別計画管理者、
クロキツネザル個体群管理者および
ロリス・マーモセット類専門技術員 鏡味芳宏
- ⑩ (公社) 日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
チンパンジーおよびマンドリル専門技術員
廣澤麻里

17. 他の博物館等への展示協力

- (1) 名古屋市科学館 平成 29 年度企画展
「さわってビックリ！みてフシギ？ 人間の皮膚」
期間：2017 年 9 月 14 日～9 月 25 日
内容：P-S-0020 など剥製 3 点、毛皮標本 3 点、
写真および映像資料の貸し出し
- (2) 日本科学未来館企画展
「MOVE 生きものになれる展 ー動く図鑑の世界に
とびこもう！ー」
期間：2017 年 11 月 29 日～2018 年 4 月 8 日
山極壽一（総監修）、大淵希郷（監修）

- (3) 福岡市科学館（2017 年 10 月 1 日開館）
内容：展示監修・運営アドバイス協力 大淵希郷

18. キュレーターによるレクチャー、ガイドツアーの実施

- (1) 春季キュレーターズガイド・トーク
「テナガザルの森を歩く」
2017 年 4 月 1 日、4 月 22 日、4 月 29 日 早川卓志
「もっと知りたい動物のからだ」
2017 年 4 月 8 日、4 月 23 日、5 月 7 日 大淵希郷
「スローロリスの、のんびりできない話」
2017 年 4 月 9 日、5 月 3 日、6 月 17 日 綿貫宏史朗
「マダガスカル&南米ツアー」
2017 年 4 月 15 日、5 月 21 日、6 月 24 日 赤見理恵
「骨で見るサルの成長、発達、老化」
2017 年 5 月 4 日 高野智
「サルの子ども、ヒトの子ども」
2017 年 5 月 5 日 赤見理恵
「アフリカ・コンゴの森の動物たち」
2017 年 5 月 6 日、5 月 13 日、5 月 20 日、5 月 27 日 新宅勇太
「サルの毛皮にさわってみよう！」
2017 年 6 月 3 日、6 月 10 日 新宅勇太
「標本庫を探検してみよう」
2017 年 6 月 4 日 高野智
「タイで大きなトカゲを追う日々
～「ダーウィンが来た！」出演こぼれ話～」
2017 年 6 月 18 日 大淵希郷

- (2) 夏季キュレーターズトーク
「サルの毛皮にさわってみよう！」
2017 年 7 月 1 日 新宅勇太
「標本庫を探検してみよう」
2017 年 7 月 2 日 高野智
「プリマモビールをつくろう！」
2017 年 7 月 8 日、8 月 6 日、8 月 11 日、8 月 12 日 赤見理恵
「夏だ！夏休みだ！生き物採集だ！？ ～夏休み自由
研究ガイド～」
2017 年 7 月 15 日、7 月 30 日、8 月 26 日 大淵希郷
「地球の裏側！南米・コロンビアの動物たち」
2017 年 7 月 16 日、8 月 14 日、8 月 15 日 綿貫宏史朗
「霊長類マンダラの世界へようこそ！」
2017 年 7 月 17 日、7 月 22 日、7 月 29 日 早川卓志
「アフリカ・コンゴの森の動物たち」
2017 年 8 月 5 日、8 月 19 日 新宅勇太
「骨からさぐるサルのひみつ：顔・しっぽ編」
2017 年 8 月 20 日 高野智

- (3) 秋季キュレーターズガイド・トーク
「実りの秋 ～グルメなサルの食生活～」
2017 年 9 月 2 日、9 月 3 日、9 月 16 日、9 月 23 日、
10 月 14 日 赤見理恵
「発見の秋 ～スマホ顕微鏡で見る世界～」
2017 年 9 月 9 日、10 月 9 日 大淵希郷
「スポーツの秋 ～骨から見る運動能力のひみつ～」
2017 年 9 月 17 日（テーマ「ぶら下がる」）、
9 月 18 日（テーマ「走る」）、
10 月 7 日（テーマ「ジャンプする」）、
11 月 19 日（テーマ「つかむ」） 高野智
「読書の秋 ～日本でのサル飼育の歴史～」
2017 年 11 月 3 日 綿貫宏史朗
「芸術の秋 ～猿二郎コレクションのサル色紙～」
2017 年 11 月 11 日、11 月 23 日 新宅勇太
「食欲の秋 ～サルがいざなう秋の味覚」
2017 年 11 月 18 日 早川卓志

- (4) ミュージアムトーク
第 1 回「大規模ゲノム解析が明らかにするヒトの進化、
サルの進化」
2017 年 12 月 17 日 早川卓志
第 2 回「動物園は自然への窓 ～サルに会える海外旅行
のススメ～」
2017 年 12 月 24 日 赤見理恵
第 3 回「化石から知る類人猿の進化」
2018 年 1 月 7 日 高野智
第 4 回「アフリカ・コンゴ民主共和国のボノボの森」
2018 年 1 月 21 日 新宅勇太
第 5 回「チンパンジー研究こぼれ話（その 1）」
2018 年 2 月 4 日 友永雅己
第 6 回「書物から知る、日本への霊長類の渡来考」
2018 年 2 月 18 日 綿貫宏史朗
第 7 回「動物園は博物館？ 博物館学のススメ」
2017 年 3 月 11 日 高野智



ミュージアムトーク第3回

19. 動物園イベント

(1) 通年イベント

- ① 飼育員と一緒におやつを作ろう
土曜・日曜・祝日に有料にて開催
不定期に誕生会など特別バージョンを開催
- ② スポットガイド 毎日数回開催
- ③ ニシローランドゴリラ・タロウさんのお食事タイム
アフリカセンターにて毎日夕方開催
- ④ ペーパークラフト Wao キャップ (常時受付)
- ⑤ 創立 60 周年記念 60 種クイズラリー
6 コースで園内の 60 種の霊長類をめぐる
(2017 年 10 月 16 日まで開催)
- ⑥ 飼育員と森の中のチンパンジーを観察しよう！
日程：2016 年 10 月～2017 年 9 月の第 3 土曜日、
全 12 回
内容：双眼鏡を使ったチンパンジーの観察
- ⑦ トウクトウギボンガイドツアー
日程：2017 年 4 月～7 月、9 月、11 月、
2018 年 3 月の土日 (除外日あり)
内容：トウクトウに乗りながらの飼育員による
テナガザルガイドツアー
- ⑧ KIDSZOO ミニレクチャー
日程：2017 年 12 月 2 日～2018 年 3 月 31 日の
土日祝 (一部除外日あり)

(2) ガイドリレー

園内数か所で特定テーマにもとづいて連続したスポット
ガイドを開催

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| ① 昭和の日ガイドリレー | 2017 年 4 月 29 日 |
| ② ゴールデンガイドリレー | 2017 年 5 月 3 日 |
| ③ みどりの日ガイドリレー | 2017 年 5 月 4 日 |
| ④ こどもの日ガイドリレー | 2017 年 5 月 5 日、5 月 6 日、5 月 7 日 |
| ⑤ 海の日ガイドリレー | 2017 年 7 月 17 日 |
| ⑥ 山の日ガイドリレー | 2017 年 8 月 11 日 |
| ⑦ 敬老の日ガイドリレー | 2017 年 9 月 18 日 |
| ⑧ 体育の日ガイドリレー | 2017 年 10 月 9 日 |
| ⑨ 文化の日ガイドリレー | 2017 年 11 月 3 日 |
| ⑩ 飼育員のお仕事見学ツアー | 2017 年 11 月 23 日 |
| ⑪ バレンタインガイドリレー | 2018 年 2 月 12 日 |
| ⑫ 野生生物の日ガイドリレー | 2018 年 3 月 3 日 |

(3) 冬の風物詩 たき火にあたるサル

期間：2017 年 12 月 22 日～2018 年 2 月 25 日の
土・日・祝、および 1 月 1 日～1 月 8 日の毎日
時間：11:30～14:00
ほかほかお伊モタイム
時間：たき火にあたるサルの開催日 14:00～

(4) 年末年始イベント

- ① もういくつ寝るとお正月！チンパンジーのベッドを
つくろう！
日程：2017 年 12 月 30 日
内容：消防ホースを使ったチンパンジーのための
ベッドづくり
- ② サルおせち
飼育員作成の「サルおせち」を与えてガイド
1 月 1 日 ヒヒの城
1 月 2 日 Wao ランド
1 月 3 日 アフリカセンター (チンパンジー)
1 月 4 日 南米館
1 月 5 日 アフリカ館
1 月 6 日 ビッグループ (フクロテナガザル)
1 月 7 日 リスザルの島
1 月 8 日 アフリカセンター (ニシローランドゴリラ)

③ イヌなのにサル？サルなのにイヌ？

- ～日本モンキーセンターの戌年企画！
- ・アヌビスヒヒと一緒に写真を撮ろう
期間：2017 年 11 月 25 日～2018 年 2 月 26 日
場所：ヒヒの城
 - ・野生のアヌビスヒヒ写真展
期間：2017 年 12 月 1 日～2018 年 2 月 26 日
場所：ヒヒの城
 - ・祝・戌年！フルーツまき
期間：2018 年 1 月 1 日～1 月 4 日
場所：ヒヒの城
 - ・このヒヒ見つけ！（個体識別イベント）
期間：2018 年 1 月 5 日～1 月 8 日
場所：ケヤキの森
 - ・飼育員と一緒におやつをつくろう！戌年特別
バージョン
期間：2018 年 1 月 14 日、1 月 21 日、1 月 28 日
 - ・特別展『イヌのひみつ』
期間：2017 年 11 月 25 日～2018 年 2 月 26 日
場所：KIDSZOO



このヒヒ見つけ！

- ④ サルみくじ
- ⑤ 縁起物「奇跡のミカン」の配布
日時：2018年1月1日～1月3日
場所：ビジターセンター前
10:00より各日先着20個を配布
- ⑥ モンキーセンターからのお年玉♪
末尾「36」「8936」の年賀葉書持参者にプレゼント

(5) 特定日開催

- ① 公益財団法人化記念 無料開放日
2017年4月1日
- ② VS 飼育員 ～4月19日は飼育の日！飼育員のお仕事に挑戦！～
日時：2017年4月15日・16日
内容：飼育員の仕事にちなんだ4種目で来園者と飼育員が対決



VS 飼育員

- ③ JMC プレミアムフライデー
日時：2017年6月30日、7月14日～8月25日の毎金曜日
内容：入園料100円キャッシュバック
レストラン楽園 ビアガーデン企画
モンキープレミアムガイドツアーの開催
(6月30日、7月28日、8月25日のみ)
- ④ 第1回日本モンキーセンター飼育施設対抗なんでもアピール選手権大会 通称「甲子猿」
日時：2017年7月15日、7月16日、7月23日、7月29日(1回戦)
8月5日、8月6日(2回戦)
8月12日(決勝戦)
8月13日(公約実施)
内容：園内飼育施設を8チームに分け、各担当動物の魅力を動画や写真でアピール。参加者投票によりトーナメント方式で優勝チームを決定し、事前に決定した公約を実施。



甲子猿

- ⑤ 自由研究お助け隊
Part1「キミだけの図鑑を作成せよ！」
日程：2017年8月19日、8月20日
Part2「マンドリルの食事を楽しませよ！」
日程：2017年8月26日
Part3「チンパンジーの食事を楽しませよ！」
日程：2017年8月27日
- ⑥ カヌー体験会
日程：2017年7月1日、7月2日、8月5日、8月6日、9月2日、9月3日、10月7日、10月8日、11月3日
内容：リスザルの島周囲の池でカヌーからサルを観察
- ⑦ モンチャレ！
日時：2017年9月30日、10月1日
内容：大声、バランス、賢さ、嗅覚の4種の競技で霊長類の能力に挑戦
- ⑧ 動物慰霊祭
日時：2017年10月17日
- ⑨ 世界キツネザルフェスティバル 2017 in JMC
・講演会「マダガスカルばなし」
日程：2017年10月21日
講師：市野進一郎、田中ちぐさ
・飼育員と一緒におやつをつくろう！キツネザルフェスティバルバージョン
日程：2017年10月21日、10月22日、10月28日
・しましま集まれ！
日程：2017年10月29日
内容：しましまの服装で集合写真の撮影
・なぞとキツネザル
日程：2017年10月29日～11月5日
内容：園内での飼育員作成の謎ときラリー
・マダガスカル写真展
日程：2017年10月21日～11月3日
場所：ビジターセンター内 企画展示室
- ⑩ KIDSZOO『○×クイズ』
日程：2017年12月24日、2018年1月28日、2月25日



キツネザルフェスティバル
マダガスカルばなし（講師：市野進一郎）

(6) 募集型イベント

- ① ワイルドサマーキャンプ (参加費 12,000 円)
主催: (公財) 日本モンキーセンター
共催: 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院
後援: 犬山市教育委員会
日程: 第1回 2017年7月25日~7月26日
第2回 2017年8月22日~8月23日
参加者: 小学校4年生~中学校3年生
各回とも24名
内容: レクチャー・ガイドツアー・飼育体験・
園内でのテント泊・継鹿尾山登山・
エンリッチメントワークショップなど



園内でのカメラトラップ調査と継鹿尾山登山

- ② ユニー&モンキーセンター モンキーサマースクール
ユニー株式会社との共催
日程: 2017年8月2日~8月3日 1泊2日
参加者: 小学校4年生~6年生 24名
内容: レクチャー・ガイドツアー・飼育体験・
エンリッチメントワークショップ・
石器作り体験など

20. イベントの受入

(1) 第14回犬山踊芸祭

日程: 2017年6月3日
場所: ギボンハウス前
主催: 犬山踊芸祭実行委員会

(4) 図書及び学術誌の刊行

1. 英文学術雑誌「PRIMATES」の発行

PRIMATES 編集委員会 (2018年3月31日時点)

編集長

松沢哲郎 (京都大学、日本モンキーセンター)

副編集長

James R. Anderson (京都大学)

編集委員

Augustin K. Basabose

(Centre de Recherche en Sciences Naturelles, コンゴ民主共和国)

Fred Bercovitch (京都大学)

Júlio César Bicca-Marques

(Pontifical Catholic University of Rio Grande do Sul, ブラジル)

Warren Y. Brockelman (Mahidol University, タイ)

Susana Carvalho (University of Oxford, イギリス)

古市剛史 (京都大学)

Brian Hare (Duke University, アメリカ)

Eckhard W. Heymann (German Primate Center, ドイツ)

平田聡 (京都大学)

Michael A. Huffman (京都大学)

村山美穂 (京都大学)

石田貴文 (東京大学)

Patrícia Izar (University of São Paulo, ブラジル)

河村正二 (東京大学)

Phyllis Lee (University of Stirling, イギリス)

Baoguo Li (Northwest University, 中国)

松田一希 (中部大学、日本モンキーセンター)

William C. McGrew (University of St Andrews, イギリス)

John C. Mitani (University of Michigan, アメリカ)

中川尚史 (京都大学)

中道正之 (大阪大学)

中村美知夫 (京都大学)

中村紳一郎 (滋賀医科大学)

中務真人 (京都大学)

西村剛 (京都大学)

岡本宗裕 (京都大学)

Martha M. Robbins

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

清水慶子 (岡山理科大学)

David S. Sprague (農業・食品産業技術総合研究機構)

Karen B. Strier (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)

Bernard Thierry

(Centre National de la Recherche Scientifique, フランス)

友永雅己 (京都大学、日本モンキーセンター)

Peter S. Ungar (University of Arkansas, アメリカ)

山極壽一 (京都大学、日本モンキーセンター)

アドバイザーボード

Kim A. Bard (University of Portsmouth, イギリス)

Josep Call (University of St. Andrews, イギリス)

Mukesh K. Chalise (Tribhuvan University, ネパール)

Frans B. M. de Waal (Emory University, アメリカ)

Dorothy M. Fragaszy (University of Georgia, アメリカ)

藤田志歩 (鹿児島大学)

林美里 (京都大学, 日本モンキーセンター)
 Gottfried Hohmann
 (Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)
 William D. Hopkins
 (Yerkes Regional Primate Research Center, アメリカ)
 五百部裕 (椙山女学園大学)
 今井啓雄 (京都大学)
 井上英治 (東邦大学)
 Charles Janson (University of Montana, アメリカ)
 Andreas Koenig (Stony Brook University, アメリカ)
 Amanda Korstjens (Bournemouth University, イギリス)
 沓掛展之 (総合研究大学院大学)
 Andrew MacIntosh (京都大学)
 松本晶子 (琉球大学)
 Katharine Milton (University of California, Berkeley, アメリカ)
 室山泰之 (東洋大学)
 John F. Oates (City University of New York, アメリカ)
 小川秀司 (中京大学)
 萩原直道 (慶應義塾大学)
 Elisabetta Palagi (University of Pisa, イタリア)
 Ryne A. Palombit (Rutgers University, アメリカ)
 Mary S. M. Pavelka (University of Calgary, カナダ)
 Andrew J. Plumptre (Wildlife Conservation Society, アメリカ)
 山海直 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
 Crickette Sanz (Washington University in St. Louis, アメリカ)
 Michael Schillaci (University of Toronto, カナダ)
 Gabriele Schino
 (Institute of Cognitive Sciences and Technologies, CNR, イタリア)
 Robert M. Seyfarth (University of Pennsylvania, アメリカ)
 下岡ゆき子 (帝京科学大学)
 Pascale Sicotte (University of Calgary, カナダ)
 Joan Silk (Arizona State University, アメリカ)
 David Glenn Smith (University of California, Davis, アメリカ)
 Charles T. Snowdon (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)
 Joseph M. Soltis (Disney's Animal Kingdom, アメリカ)
 Volker Sommer (University College London, イギリス)
 Craig B. Stanford (University of Southern California, アメリカ)
 杉浦秀紀 (京都大学)
 高井正成 (京都大学)
 竹ノ下佑二 (中部学院大学)
 田中伊知郎 (四日市大学)
 田中正之 (京都市動物園)
 辻大和 (京都大学)
 David Watts (Yale University, アメリカ)
 山越言 (京都大学)
 山本真也 (京都大学)
 Anne Yoder (Duke University, アメリカ)
 湯本貴和 (京都大学)
 Peng Zhang (Sun Yat-sen University, 中国)

CONTENTS

Volume 58 Number 2, April 2017

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: The 40th anniversary of the Ai Project: the commemorative gift is a silk scarf painted by Ai the chimpanzee. pp. 261-265.

News and Perspectives

Satoshi Hirata, Hirohisa Hirai, Etsuko Nogami, Naruki Morimura, Toshifumi Udono: Chimpanzee Down syndrome: a case study of trisomy 22 in a captive chimpanzee. pp. 267-273.

Marie Pelé, Alexandre Bonnefoy, Masaki Shimada, Cédric Sueur: Interspecies sexual behaviour between a male Japanese macaque and female sika deer. pp. 275-278.

Kelly Torralvo, Rafael M. Rabelo, Alfredo Andrade, Robinson Botero-Arias: Tool use by Amazonian capuchin monkeys during predation on caiman nests in a high-productivity forest. pp. 279-283.

Original Article

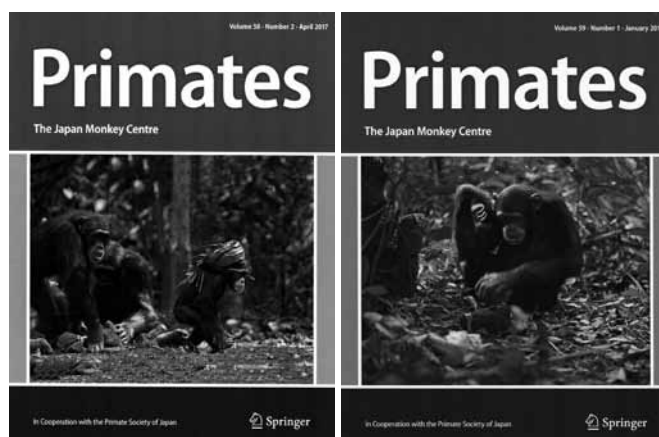
Taufiq Purna Nugraha, Michael Heistermann, Muhammad Agil, Bambang Purwantara, Iman Supriatna, Gholib Gholib, Carel P. van Schaik, Tony Weingrill: Validation of a field-friendly extraction and storage method to monitor fecal steroid metabolites in wild orangutans. pp. 285-294.

Kurnia Ilham, Rizaldi, Jabang Nurdin, Yamato Tsuji: Status of urban populations of the long-tailed macaque (*Macaca fascicularis*) in West Sumatra, Indonesia. pp. 295-305.

Manakorn Sukmak, Worawith Wajjwalku, Julia Ostner, Oliver Schülke: A first report of non-invasive adenovirus detection in wild Assamese macaques in Thailand. pp. 307-313.

Carlo Cinque, Arianna De Marco, Jerome Mairesse, Chiara Giuli, Andrea Sanna, Lorenzo De Marco, Anna Rita Zuena, Paola Casolini, Assia Catalani, Bernard Thierry, Roberto Cozzolino: Relocation stress induces short-term fecal cortisol increase in Tonkean macaques (*Macaca tonkeana*). pp. 315-321.

Minna J. Hsu, Jin-Fu Lin, Govindasamy Agoramoorthy: Social implications of fission in wild Formosan macaques at Mount Longevity, Taiwan. pp. 323-334.



Néstor Allgas, Sam Shanee, Noga Shanee, Josie Chambers, Julio C. Tello-Alvarado, Keefe Keeley, Karina Pinasco: Natural re-establishment of a population of a critically endangered primate in a secondary forest: the San Martín titi monkey (*Plecturocebus oenanthe*) at the Pucuncho Private Conservation Area, Peru. pp. 335-342.

Renato R. Hilário, Leandro Jerusalinsky, Sidnei Santos, Raone Beltrão-Mendes, Stephen F. Ferrari: A primate at risk in Northeast Brazil: local extinctions of Coimbra Filho's titi (*Callicebus coimbrai*). pp. 343-352.

Adrian A. Barnett, João M. Silla, Tadeu de Oliveira, Sarah A. Boyle, Bruna M. Bezerra, Wilson R. Spironello, Eleonore Z. F. Setz, Rafaela F. Soares da Silva, Samara de Albuquerque Teixeira, Lucy M. Todd, Liliam P. Pinto: Run, hide, or fight: anti-predation strategies in endangered red-nosed cuxiú (*Chiropotes albinasus*, Pitheciidae) in southeastern Amazonia. pp. 353-360.

Dara B. Adams, Sean M. Williams: Fatal attack on a Rylands' bald-faced saki monkey (*Pithecia rylandsi*) by a black-and-white hawk-eagle (*Spizaetus melanoleucus*). pp. 361-365.

Rose T. Miller, Jean-Luc Raharison, Mitchell T. Irwin: Competition for dead trees between humans and aye-ayes (*Daubentonia madagascariensis*) in central eastern Madagascar. pp. 367-375.

Erratum

Renata S. Mendonça, Tomoko Kanamori, Noko Kuze, Misato Hayashi, Henry Bernard, Tetsuro Matsuzawa: Erratum to: Development and behavior of wild infant-juvenile East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley. pp. 377.

Volume 58, Number 3, July 2017

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Monkeys and mountains in Yunnan, China. pp. 379-383.

Original Article

Ashley N. Edes: Dehydroepiandrosterone-sulfate (DHEA-S), sex, and age in zoo-housed western lowland gorillas (*Gorilla gorilla gorilla*). pp. 385-392.

Caroline A. Phillips, Richard W. Wrangham, William C. McGrew: Non-dietary analytical features of chimpanzee scats. pp. 393-402.

Luca Morino, Makiko Uchikoshi, Fred Bercovitch, William D. Hopkins, Tetsuro Matsuzawa: Tube task hand preference in captive hylobatids. pp. 403-412.

Yosuke Kurihara, Goro Hanya: Comparison of energy balance between two different-sized groups of Japanese macaques (*Macaca fuscata yakui*). pp. 413-422.

Zhonghao Huang, Peisong Yuan, Henglian Huang, Xiaoping Tang, Weijian Xu, Chengming Huang, Qihai Zhou: Effect of habitat fragmentation on ranging behavior of white-headed langurs in limestone forests in Southwest China. pp. 423-434.

Bang Van Tran, Minh Anh Nguyen, Dat Quoc Nguyen, Quan Bich, Thi Truong, Andie Ang, Herbert H. Covert, Duc Minh Hoang: Current conservation status of Germain's langur (*Trachypithecus germaini*) in Vietnam. pp. 435-440.

Manoel dos Santos-Filho, Christine Steiner São Bernardo, Henry Willian Van der Laan Barbosa, Almério Câmara Gusmão, Leandro Jerusalinsky, Gustavo Rodrigues Canale: A new distribution range of *Ateles chamek* (Humboldt 1812) in an ecotone of three biomes in the Paraguay River Basin. pp. 441-448.

Dara B. Adams, Jennifer A. Rehg, Mrinalini Watsa: Observations of termitarium geophagy by Rylands' bald-faced saki monkeys (*Pithecia rylandsi*) in Madre de Dios, Peru. pp. 449-459.

Naomichi Ogihara, Motoharu Oishi, Ryogo Kanai, Hikaru Shimada, Takahiro Kondo, Kimika Yoshino-Saito, Junichi Ushiba, Hideyuki Okano: Muscle architectural properties in the common marmoset (*Callithrix jacchus*). pp. 461-472.

Volume 58, Number 4, October 2017

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Horse cognition and behavior from the perspective of primatology. pp. 473-477.

News and Perspectives

Monamie Ringhofer, Sota Inoue, Renata S. Mendonça, Carlos Pereira, Tetsuro Matsuzawa, Satoshi Hirata, Shinya Yamamoto: Comparison of the social systems of primates and feral horses: data from a newly established horse research site on Serra D'Arga, northern Portugal. pp. 479-484.

Max Kerney, Jeroen B. Smaers, P. Thomas Schoenemann, Jacob C. Dunn: The coevolution of play and the cortico-cerebellar system in primates. pp. 485-491.

Original Article

Klaree Boose, Frances White: Harassment of adults by immatures in bonobos (*Pan paniscus*): testing the Exploratory Aggression and Rank Improvement hypotheses. pp. 493-504.

Fany Brotcorne, Gwennan Giraud, Noëlle Gunst, Agustín Fuentes, I. Nengah Wandia, Roseline C. Beudels-Jamar, Pascal Poncin, Marie-Claude Huynen, Jean-Baptiste Leca: Intergroup variation in robbing and bartering by long-tailed macaques at Uluwatu Temple (Bali, Indonesia). pp. 505-516.

Zhi-Pang Huang, Matthew B. Scott, Yan-Peng Li, Guo-Peng Ren, Zuo-Fu Xiang, Liang-Wei Cui, Wen Xiao: Black-and-white snub-nosed monkey (*Rhinopithecus bieti*) feeding behavior in a degraded forest fragment: clues to a stressed population. pp. 517-524.

Tao Chen, Jie Gao, Jingzhi Tan, Ruoting Tao, Yanjie Su: Variation in gaze-following between two Asian colobine monkeys. pp. 525-534.

Timothy M. Sefczek, Domenico Randimbiharirina, Brigitte M. Raharivololona, Joseph D. Rabekianja, Edward E. Louis: Comparing the use of live trees and deadwood for larval foraging by aye-ayes (*Daubentonia madagascariensis*) at Kianjavato and Torotorofotsy, Madagascar. pp. 535-546.

Book Review

Eckhard W. Heymann: Mixed-species groups of animals. Behavior, community structure, and conservation, by Eben Goodale, Guy Beauchamp & Graeme Ruxton. pp. 547-548.

Announcement

The *Primates* 2017 Most-Cited Paper Award is conferred upon the following authors: M. A. Schillaci et al. and C. Hvilsom et al. pp. 549.

Acknowledgement pp. 551-552.

Books received pp. 553.

Volume 59, Number 1, January 2018

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Parabolic flight: experiencing zero gravity to envisage the future of human evolution. pp. 1-3.

Tetsuro Matsuzawa: *Primates* Social Impact Award 2017. pp. 5-6.

Original Article

Jie Gao, Yanjie Su, Masaki Tomonaga, Tetsuro Matsuzawa: Learning the rules of the rock–paper–scissors game: chimpanzees versus children. pp. 7-17.

Tomas Persson, Gabriela-Alina Sauciuc, Elainie Alenkær Madsen: Spontaneous cross-species imitation in interactions between chimpanzees and zoo visitors. pp. 19-29.

Mrigakshi Borah, Ashalata Devi, Awadhesh Kumar: Diet and feeding ecology of the western hoolock gibbon (*Hoolock hoolock*) in a tropical forest fragment of Northeast India. pp. 31-44.

Qingyong Ni, Zongli Liang, Meng Xie, Huailiang Xu, Yongfang Yao, Mingwang Zhang, Yan Li, Ying Li, Xuelong Jiang: Microhabitat use of the western black-crested gibbon inhabiting an isolated forest fragment in southern Yunnan, China: implications for conservation of an endangered species. pp. 45-54.

Arianna De Marco, Roberto Cozzolino, Bernard Thierry: Prolonged transport and cannibalism of mummified infant remains by a Tonkean macaque mother. pp. 55-59.

Yasuo Higurashi, Ryosuke Goto, Hiroo Kumakura: Intra-individual variation in hand postures during terrestrial locomotion in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). pp. 61-68.

Fanny Tricône: Assessment of releases of translocated and rehabilitated Yucatán black howler monkeys (*Alouatta pigra*) in Belize to determine factors influencing survivorship. pp. 69-77.

Rebecca L. Smith, Sarah E. Hayes, Paul Smith, Jeremy K. Dickens: Sleeping site preferences in *Sapajus cay* Illiger 1815 (Primates: Cebidae) in a disturbed fragment of the Upper Paraná Atlantic Forest, Rancho Laguna Blanca, Eastern Paraguay. pp. 79-88.

M. H. L. Duarte, M. C. Kaizer, R. J. Young, M. Rodrigues, R. S. Sousa-Lima: Mining noise affects loud call structures and emission patterns of wild black-fronted titi monkeys. pp. 89-97.

Tiago Falótico, Michele P. Verderane, Olívia Mendonça-Furtado, Noemi Spagnoletti, Eduardo B. Ottoni, Elisabetta Visalberghi, Patrícia Izar: Food or threat? Wild capuchin monkeys (*Sapajus libidinosus*) as both predators and prey of snakes. pp. 99-106.

Volume 59, Number 2, March 2018

Including Special Feature on Research and Conservation of Orangutans (*Pongo* sp.) in Malaysia

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Chimpanzee Velu: the wild chimpanzee who passed away at the estimated age of 58. pp. 107-111.

Review Article

Daniel P. Schofield, William C. McGrew, Akiko Takahashi, Satoshi Hirata: Cumulative culture in nonhumans: overlooked findings from Japanese monkeys? pp. 113-122.

News and Perspectives

Benoît Quintard, Marine Giorgiadis, Xavier Feirrer, Brice Lefaux, Christophe Schohn, Karin Lemberger: Evidence for the possible occurrence of Grave's disease in a blue-eyed black lemur (*Eulemur flavifrons*). pp. 123-126.

Special Feature: Original Article

Tomoyuki Tajima, Titol P. Malim, Eiji Inoue: Reproductive success of two male morphs in a free-ranging population of Bornean orangutans. pp. 127-133.

Misato Hayashi, Fumito Kawakami, Rosimah Roslan, Nurhafizie M. Hapiszudin, Sabapathy Dharmalingam: Behavioral studies and veterinary management of orangutans at Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia. pp. 135-144.

Original Article

Yumi Yamanashi, Migaku Teramoto, Naruki Morimura, Etsuko Nogami, Satoshi Hirata: Social relationship and hair cortisol level in captive male chimpanzees (*Pan troglodytes*). pp. 145-152.

Kelil Abu, Addisu Mekonnen, Afework Bekele, Peter J. Fashing: Diet and activity patterns of Arsi geladas in low-elevation disturbed habitat south of the Rift Valley at Indetu, Ethiopia. 153-161.

John Chih Mun Sha, Siew Chin Chua, Ping Ting Chew, Hassan Ibrahim, Hock Keong Lua, Tze Kwan Fung, Peng Zhang: Small-scale variability in a mosaic tropical rainforest influences habitat use of long-tailed macaques. pp. 163-171.

Arijit Pal, Honnavalli N. Kumara, Partha Sarathi Mishra, Avadhoot D. Velankar, Mewa Singh: Extractive foraging and tool-aided behaviors in the wild Nicobar long-tailed macaque (*Macaca fascicularis umbrosus*). pp. 173-183.

Florian Trébouet, Ulrich H. Reichard, Nantasak Pinkaew, Suchinda Malaivijitnond: Extractive foraging of toxic caterpillars in wild northern pig-tailed macaques (*Macaca leonina*). pp. 185-196.

M. Thabang Madisha, Desire L. Dalton, Raymond Jansen, Antoinette Kotze: Genetic assessment of an isolated endemic Samango monkey (*Cercopithecus albogularis labiatus*) population in the Amathole Mountains, Eastern Cape Province, South Africa. pp. 197-207.

2. 和文誌「モンキー 霊長類学からワイルドライフサイエンスへ」の発行

モンキー編集委員会 (2018年3月31日現在)

編集長

伊谷原一 (京都大学、日本モンキーセンター)

副編集長

友永雅己 (京都大学、日本モンキーセンター)

編集委員

赤見理恵 (日本モンキーセンター)

秋山未来 (京都大学)

今井由香 (日本モンキーセンター)

江藤彩子 (日本モンキーセンター)

川上文人 (京都大学)

木村直人 (日本モンキーセンター)

幸島司郎 (京都大学)

齋藤亜矢 (京都造形芸術大学)

左海陽子 (京都大学)

新宅勇太 (京都大学、日本モンキーセンター)

高野智 (日本モンキーセンター)

早川卓志 (京都大学、日本モンキーセンター)

林美里 (京都大学、日本モンキーセンター)

平口愛子 (京都大学)

平田加奈子 (京都大学)

平田聡 (京都大学)

松沢哲郎 (京都大学、日本モンキーセンター)

松田一希 (中部大学、日本モンキーセンター)

山梨裕美 (京都市動物園)

湯本貴和 (京都大学)

綿貫宏史朗 (京都大学、日本モンキーセンター)

協賛

豊田通商株式会社

株式会社三和化学研究所

協力

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

中部大学創発学術院

京都造形芸術大学文明哲学研究所

京都大学霊長類研究所

京都大学野生動物研究センター

中部学院大学

バックナンバーの公開:

<https://www.japanmonkeycentre.org/jmonkey/>

目次

2巻1号 (2017年6月1日発行)

表紙の言葉: 松沢哲郎

表紙裏

巻頭言: 湯本貴和

1

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第2回

探検へのあこがれ: 山極壽一

2-3

連載「氷河から熱帯雨林まで」第1回

氷河に虫を探しにゆく: 幸島司郎

4-5

連載「自然と芸術」第2回

小豆島の猿団子を詠む: 尾池和夫

6-7

連載「大型類人猿探訪」第5回

オランウータンがくらす島: 林美里

8-9



連載「サルに住む森」第5回 森を知ること、サルを知ること： 松田一希	10-11	連載「自然と芸術」第4回 宇宙の深遠を見つめて： 土井隆雄	54-55
連載「ウマ学ことはじめ」第5回 野生ウマの群れの関係： 平田聡	12-13	連載「大型類人猿探訪」第7回 ボノボをたずねて三千里： 林美里	56-57
連載「海外生息地研修」第5回 スマトラの森の響き： 早川卓志	14-15	連載「サルに住む森」第7回 洪水の森で： 松田一希	58-59
連載「環境教育実践」第5回 やんばるの森で生業の痕跡を探る： 滝澤玲子	16-17	連載「ウマ学ことはじめ」第7回 ウマの好奇心： 平田聡	60-61
DNA分析から解き明かすボノボの社会： 石塚真太郎	18-19	連載「海外生息地研修」第7回 コロンビアでの生息地研修： 藤森唯	62-63
日本でくらす類人猿たち： 綿貫宏史朗	20-21	連載「環境教育実践」第7回 SAGAーこれまでの20年、これからの20年： 友永雅己	64-65
ドローンが見守る森・動物・ヒト： 森村成樹	22-23	日本人はどこから来たのか？「3万年前の航海徹底再現 プロジェクト」： 海部陽介	66-67
編集後記： 伊谷原一	裏表紙裏	重度の障害のある野生チンパンジーの子の紹介： 松本卓也	68-69
2巻2号（2017年9月1日発行）		じゃんけんのルールの学習：チンパンジー対子ども： ガオ ジェ（川口ゆり訳）	70-71
表紙の言葉： 松沢哲郎	表紙裏	編集後記： 伊谷原一	裏表紙裏
巻頭言： 友永雅己	25		
連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第3回 挫折から雪山へ： 山極壽一	26-27	2巻4号（2018年3月1日発行）	
連載「氷河から熱帯雨林まで」第2回 イルカの眠りかた： 幸島司郎	28-29	表紙の言葉： 松沢哲郎	表紙裏
連載「自然と芸術」第3回 アイのスカーフ：チンパンジーの描画行動： 松沢哲郎	30-31	巻頭言： 長谷川寿一	73
連載「大型類人猿探訪」第6回 チンパンジーの「死」： 林美里	32-33	連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第5回 梁山泊との出会い： 山極壽一	74-75
連載「サルに住む森」第6回 サルとの根くらべ： 松田一希	34-35	連載「氷河から熱帯雨林まで」第4回 オランウータンとオオカミの顔： 幸島司郎	76-77
連載「ウマ学ことはじめ」第6回 繁殖期と出産期： 平田聡	36-37	連載「自然と芸術」第5回 下北半島の寒立馬： 尾池和夫	78-79
連載「海外生息地研修」第6回 マミラウア自然保護区：野生のウアカリを追って： 武真祈子	38-39	連載「大型類人猿探訪」第8回 親子のなりたち：前編： 林美里	80-81
連載「環境教育実践」第6回 ユネスコエコパークを知っていますか？： 木下こづえ	40-41	連載「サルに住む森」第8回 ゲップの記憶： 松田一希	82-83
タイで出会ったオオトカゲたち： 大淵希郷	42-43	連載「ウマ学ことはじめ」第8回 アルガ山は幽霊山： 平田聡	84-85
国際エンリッチメント会議@コロンビア： 山梨裕美	44-45	連載「海外生息地研修」第8回 ボルネオ生息地研修： 石田崇斗	86-87
「冷血動物」の認知能力 ～日本モンキーセンターでの リクガメ研究～： アンナ ウィルキンソン （瀧山拓哉 訳）	46-47	連載「環境教育実践」第8回 西表島のフィールド実習： 松沢哲郎	88-89
編集後記： 伊谷原一	裏表紙裏	連載「霊長類学70周年」第1回 「ボスザル」にみる幸島の過去・現在・未来： 鈴木崇文	90-91
2巻3号（2017年12月1日発行）		連載「生態学者が往く」第1回 タンザニア・ゴンベへの旅： 湯本貴和	92-93
表紙の言葉： 松沢哲郎	表紙裏	イルカのメスの好奇心： 榊原香鈴美	94-95
巻頭言： 村山美穂	49	編集後記： 伊谷原一	裏表紙裏
連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第4回 一人暮らしの知恵： 山極壽一	50-51	3. 平成28年度財団法人日本モンキーセンター年報の発行 2017年9月10日発行	
連載「氷河から熱帯雨林まで」第3回 白目があるのはヒトだけか？： 幸島司郎	52-53	4. 第62回プリマーテス研究会記録集の発行 2018年3月20日発行	

(5) 標本等の資試料の収集・管理及び展示

1. 骨格・液浸・剥製・毛皮標本

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	4	7	7	1	4	0
<i>Microcebus murinus</i>	ハイイロネズミキツネザル	4	7	7	1	4	0
Lemuridae	キツネザル科	63	63	52	69	9	7
<i>Eulemur fulvus</i>	ブラウンキツネザル	0	0	0	2	0	0
<i>Eulemur macaco</i>	クロキツネザル	7	9	7	8	0	1
<i>Eulemur mongoz</i>	マンガースキツネザル	6	7	4	0	3	2
<i>Lemur catta</i>	ワオキツネザル	33	30	24	32	4	4
<i>Varecia variegata</i>	クロシロエリマキキツネザル	16	17	17	27	2	0
Lemuridae sp.		1	0	0	0	0	0
Galagidae	ガラゴ科	32	40	24	23	7	4
<i>Galago senegalensis</i>	ショウガラゴ	26	28	20	17	4	3
<i>Galagoides demidoff</i>	コビトガラゴ	0	2	0	0	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオガラゴ	5	9	4	6	3	1
Galagidae sp.		1	1	0	0	0	0
Lorisidae	ロリス科	65	76	54	35	9	5
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	7	9	6	1	3	0
<i>Nycticebus bengalensis</i>	ベンガルスローロリス	1	3	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スンダスローロリス	41	32	13	4	3	3
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	10	23	24	28	0	1
<i>Perodicticus potto</i>	ポト	5	9	8	2	3	1
Lorisidae sp.		1	0	0	0	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	2	5	5	2	3	4
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	2	5	5	2	3	4
Cebidae	オマキザル科	854	819	675	485	58	51
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルディモンキー	15	18	13	13	2	3
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	29	37	33	11	3	1
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	137	115	90	65	2	7
<i>Callithrix penicillata</i>	クロミミマーモセット	35	43	42	35	2	4
<i>Calithrix</i> sp.		5	0	0	0	0	0
<i>Mico argentata</i>	シルバーマーモセット	25	27	19	4	3	2
<i>Mico humeralifera</i>	サンタレムマーモセット	9	12	12	17	0	1
<i>Cebuella pygmaea</i>	ビグミーマーモセット	82	87	80	78	7	8
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールデンライオンタマリン	17	16	9	6	7	3
<i>Saguinus bicolor</i>	フタイロタマリン	2	2	2	0	1	0
<i>Saguinus fuscicollis</i>	セマダラタマリン	7	5	1	3	1	0
<i>Saguinus geoffroyi</i>	ジェフロイタマリン	11	11	10	0	1	0
<i>Saguinus imperator</i>	エンペラータマリン	5	6	5	5	2	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	35	36	31	18	3	1
<i>Saguinus leucopus</i>	シロテタマリン	8	9	6	0	3	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	13	15	15	6	2	0
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	30	33	31	23	2	2
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	62	53	47	22	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシタマリン	101	93	80	50	2	4
<i>Saguinus weddelli</i>	ウェッデルタマリン	11	9	9	9	2	2
<i>Saguinus</i> sp.		8	0	0	0	0	0
<i>Sapajus apella</i>	フサオマキザル	17	16	9	20	2	0
<i>Cebus albifrons</i>	シロガオオマキザル	9	8	9	8	1	1
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	10	12	16	9	1	1
<i>Cubus olivaceus</i>	ナキガオオマキザル	1	2	1	5	0	0
<i>Cebus</i> sp.		4	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Saimiri boliviensis</i>	ボリビアリスザル	3	6	6	10	0	1
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	88	77	59	26	3	2
<i>Aotus</i> sp.	ヨザル	72	71	40	42	5	8
<i>Cebidae</i> sp.		3	0	0	0	0	0
Atelidae	クモザル科	88	88	59	44	18	11
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	11	12	12	1	4	0
<i>Alouatta guariba</i>	カッシュクホエザル	1	1	1	0	2	0
<i>Alouatta seniculus</i>	アカホエザル	5	2	2	1	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		6	1	1	0	0	0
<i>Ateles belzebuth</i>	ケナガクモザル	3	9	4	2	2	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	21	30	19	28	4	4
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	12	17	8	0	3	1
<i>Ateles</i> sp.		14	0	0	0	0	0
<i>Lagothrix lagotricha</i>	フンボルトウーリーモンキー	13	17	10	12	3	6
<i>Lagothrix cana</i>	ハイイロウーリーモンキー	1	1	2	0	0	0
<i>Lagothrix</i> sp.		1	0	0	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	36	35	32	16	15	0
<i>Callicebus cupreus</i>	ドウイロティティ	2	1	2	0	2	0
<i>Callicebus donacophilus</i>	ボリビアハイイロティティ	4	4	3	0	2	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	13	13	14	8	2	0
<i>Callicebus torquatus</i>	エリマキティティ	1	1	0	0	0	0
<i>Callicebus</i> sp.		2	1	1	0	1	0
<i>Cacajao calvus rubicundus</i>	アカウアカリ	3	2	1	0	2	0
<i>Chiropotes satanas</i>	クロヒゲサキ	2	0	0	0	0	0
<i>Chiropotes chiropotes</i>	ヒゲサキ	0	1	0	0	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	モンクサキ	5	6	5	0	4	0
<i>Pithecia pithecia</i>	シロガオサキ	4	6	6	8	2	0
Cercopithecidae	オナガザル科	2811	1935	1439	781	92	144
<i>Macaca arctoides</i>	ベニガオザル	10	12	7	5	0	0
<i>Macaca assamensis</i>	アッサムモンキー	5	6	4	1	0	0
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	64	62	50	26	2	2
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	654	286	176	123	1	70
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	689	511	385	186	11	18
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクシマザル	405	309	216	119	3	2
<i>Macaca fuscata</i>	(ニホンザル)	10	1	1	0	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	9	11	5	1	1	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	143	117	108	17	0	0
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	34	33	30	23	1	0
<i>Macaca nigra</i>	クロザル	9	7	7	0	0	0
<i>Macaca ochreata brunescens</i>	ブーツマカク	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	61	56	38	37	2	2
<i>Macaca silenus</i>	シシオザル	12	14	14	8	2	0
<i>Macaca sinica</i>	トクモンキー	10	10	8	12	0	2
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	14	17	14	9	2	2
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	3	3	3	1	0	0
<i>Macaca tonkeana</i>	トンケアンモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		2	1	0	0	3	0
<i>Macaca</i> sp.		94	0	0	0	0	0
<i>Cercocebus atys</i>	スーティーマンガベイ	5	5	3	2	1	1
<i>Cercocebus lunulatus</i>	シロカンムリマンガベイ	7	9	8	5	2	1
<i>Cercocebus agilis</i>	アジルマンガベイ	2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus chrysogaster</i>	ゴールデンマンガベイ	2	4	4	1	0	0
<i>Cercocebus torquatus torquatus</i>	シロエリマンガベイ	4	5	2	1	1	0
<i>Cercocebus hybrid</i>		2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus</i> sp.		3	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Lophocebus albigena</i>	ホオジロマンガベイ	2	2	1	0	2	0
<i>Mandrillus leucophaeus</i>	ドリル	12	12	3	5	3	1
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	16	12	10	14	1	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	56	42	33	58	1	1
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	17	15	6	0	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	5	4	5	16	0	1
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	6	6	6	0	0	0
<i>Papio</i> sp.		14	0	0	0	0	1
<i>Theropithecus gelada</i>	ゲラダヒヒ	5	5	2	2	1	0
<i>Allenopithecus nigroviridis</i>	アレンモンキー	1	1	1	1	1	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	8	10	9	1	2	1
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	10	9	7	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius schmidt</i>	シュミットグエノン	4	3	3	0	1	0
<i>Cercopithecus cephus</i>	クチヒゲグエノン	5	6	4	0	1	0
<i>Cercopithecus diana</i>	ダイアナモンキー	2	3	2	0	1	0
<i>Cercopithecus doggetti</i>	シルバークエノン	2	1	0	0	1	0
<i>Cercopithecus hamlyni</i>	フクロウグエノン	1	3	2	0	2	1
<i>Cercopithecus lhoesti</i>	ロエストグエノン	4	5	5	1	1	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	ブルーモンキー	2	2	1	0	0	1
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	12	13	9	10	1	1
<i>Cercopithecus neglectus</i>	ブラッサグエノン	12	15	12	3	1	2
<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	バッティコファーグエノン	10	11	7	3	1	2
<i>Cercopithecus</i> sp.		3	1	1	0	0	1
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	16	12	9	5	4	1
<i>Chlorocebus cynosuros</i>	マルブラウクモンキー	0	2	2	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポアン	14	14	12	2	4	1
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスモンキー	124	80	66	21	2	5
<i>Cercopithecinae</i> sp.		21	0	0	0	0	0
<i>Colobus angolensis</i>	アンゴラコロブス	15	23	22	5	3	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	11	20	19	4	2	5
<i>Colobus polykomos</i>	キングコロブス	6	1	0	0	0	1
<i>Ptilocolobus badius</i>	ニシアカコロブス	3	3	0	0	3	1
<i>Presbytis melalophos</i>	クロカンムリリーフモンキー	0	1	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンラングール	49	52	37	17	4	11
<i>Trachypithecus cristatus</i>	シルバールトン	23	29	29	27	2	1
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	11	7	7	5	3	1
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	11	10	7	0	1	1
<i>Trachypithecus pileatus</i>	ボウシラングール	6	7	4	2	3	0
<i>Trachypithecus vetulus</i>	カオムラサキラングール	3	3	2	0	1	1
<i>Trachypithecus vetulus vetulus</i>	ニシカオムラサキラングール	1	1	0	0	1	1
<i>Presbytis</i> sp.		4	0	0	0	0	0
<i>Nasalis larvatus</i>	テングザル	6	7	6	2	5	1
<i>Pygathrix nemaeus</i>	アカアシドゥ克蘭グール	1	0	0	0	1	0
<i>Colobinae</i> sp.		1	1	0	0	0	0
<i>Cercopithecidae</i> sp.		20	0	0	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	81	50	39	9	12	17
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	9	8	6	2	2	0
<i>Hylobates klossii</i>	クロステナガザル	2	2	0	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	41	17	14	1	4	2
<i>Hylobates moloch</i>	ワウワウテナガザル	3	4	3	2	1	0
<i>Hylobates pileatus</i>	ボウシテナガザル	4	1	0	0	1	2
<i>Hylobates (moloch + lar)</i>		1	1	1	0	0	0
<i>Hylobates</i> sp.		8	0	0	0	0	13
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	2	2	2	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Nomascus concolor</i>	カンムリテナガザル	3	2	4	0	1	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	8	12	8	4	3	0
Hominidae	ヒト科	27	30	19	10	16	0
<i>Pongo pygmaeus</i>	ボルネオオランウータン	7	6	3	1	3	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	12	19	11	9	5	0
<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	ニシローランドゴリラ	6	3	3	0	6	0
<i>Gorilla beringei beringei</i>	マウンテンゴリラ	2	2	2	0	2	0
Primates 科不明	霊長目 科不明	1	0	0	0	0	0
misc. Primates		1	0	0	0	0	0
Scandentia	ツパイ目	24	21	10	2	5	5
<i>Dendrogale melanura</i>	ミナミホソオツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia glis</i>	コモンツパイ	10	13	8	2	1	5
<i>Tupaia gracilis</i>	ホソツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia minor</i>	ショウツパイ	1	0	0	0	0	0
Tupaia sp.		10	8	2	0	4	0
<i>Ptilocercus lowii</i>	ハネオツパイ	1	0	0	0	0	0
Other mammals	その他の哺乳類	217	2	0	0	0	0
Artiodactyla	偶蹄目	80	0	0	0	0	0
Carnivora	食肉目	67	0	0	0	0	0
Chiroptera	翼手目	1	0	0	0	0	0
Diprodontia	双前歯目	18	0	0	0	0	0
Dermoptera	皮翼目	1	0	0	0	0	0
Lagomorpha	兔形目	4	0	0	0	0	0
Perissodactyla	奇蹄目	4	0	0	0	0	0
Pilosa	有毛目	1	0	0	0	0	0
Rodentia	齧歯目	31	2	0	0	0	0
Soricomorpha	トガリネズミ形目	10	0	0	0	0	0
Others	その他	27	0	0	2	6	0
Aves	鳥類	19	0	0	0	6	0
Reptilia	爬虫類	8	0	0	1	0	0
Actinopterygii	硬骨魚類	0	0	0	1	0	0
霊長類 計		4064	3148	2405	1475	243	239
霊長類以外 計		268	23	10	4	11	5
総計		4332	3171	2415	1479	254	244
2017 年度 収集数		27	28	26	8	0	10

2. 寄生虫標本

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	0	1	0	0
<i>Microcebus murinus</i>	ハイイロネズミキツネザル	0	1	0	0
Galagidae	ガラゴ科	5	3	0	1
<i>Galago senegalensis</i>	ショウガラゴ	2	1	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオガラゴ	3	2	0	1
Lorisidae	ロリス科	9	5	1	1
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スンダスローロリス	6	4	1	1
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	0	1	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	0	1	0	0
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	0	1	0	0
Cebidae	オマキザル科	109	5	1	6
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルディモンキー	0	1	0	0
<i>Mico argentata</i>	シルバーマーモセット	4	0	0	1
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	3	0	0	0
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	45	0	0	1
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	2	0	0	0
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールデンライオンタマリン	0	0	0	2
<i>Saguinus fuscicollis</i>	サドルバックタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	2	0	0	0
<i>Saguinus leucopus</i>	シロテタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	2	0	0	1
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	9	0	0	0
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	20	1	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシタマリン	4	0	0	1
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	0	1	0	0
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	15	2	0	0
<i>Aotus</i> sp.	ヨザル	1	0	0	0
Atelidae	クモザル科	11	3	0	1
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	0	2	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		0	1	0	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	1	0	0	0
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	8	0	0	1
<i>Lagothrix lagotricha</i>	フンボルトウーリーモンキー	2	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	2	2	0	0
<i>Callicebus cupreus</i>	ドウイロティティ	1	0	0	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	0	2	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	モンクサキ	1	0	0	0
Cercopithecidae	オナガザル科	243	14	11	8
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	5	1	0	0
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	51	1	8	3
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	76	7	0	0
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクシマザル	33	2	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	26	1	0	2
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	1	0	0	1
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	1	0	0	0
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	1	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		1	0	0	0
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	1	0	0	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	1	0	0	0

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	6	1	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	1	0	0	0
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	1	0	0	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	1	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	0	1	0	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	ブルーモンキー	1	0	0	0
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	1	0	0	0
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	1	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポアン	2	0	0	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスザル	24	0	1	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	0	0	1	0
<i>Piliocolobus badius</i>	ニシアカコロブス	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンランゲール	2	0	0	2
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	0	0	1	0
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	1	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	8	2	0	0
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	1	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	3	2	0	0
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	1	0	0	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	3	0	0	0
Hominidae	ヒト科	15	0	0	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	15	0	0	0
Scandentia	ツパイ目	4	0	0	0
Tupaiidae sp.		4	0	0	0
Others	その他	1	0	0	1
Aves	鳥類	1	0	0	1
霊長類 計		402	36	13	17
総計		407	36	13	18
2017 年度 収集数		0	0	0	0

3. 複製資料

標本番号	学名	性別・部位等
KNM-CA 380	<i>Micropithecus clarki</i>	下顎骨
KNM-SO 700	<i>Rangwapithecus gordonii</i>	上顎骨
KNM-RU 1850	<i>Dendropithecus macinnesi</i>	上下顎骨
KNM-RU 2087	<i>Proconsul nyanzae</i>	下顎骨
KNM-RU 7290	<i>Proconsul heseloni</i>	頭骨
KNM-SO 396	<i>Proconsul major</i>	下顎骨
KNM-FT 46	<i>Kenyapithecus wickeri</i>	上顎骨片と犬歯
KNM-KP 29281, 29283, 28285B, 28285A	<i>Australopithecus anamensis</i>	上下顎, 脛骨
KNM-WT 40000	<i>Kenyanthropus platyops</i>	頭骨
KNM-WT 17000	<i>Paranthropus aethiopicus</i>	頭骨
KNM-ER 406	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 729	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
KNM-CA 732	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 999	<i>Homo habilis</i>	大腿骨
KNM-ER 1470	<i>Homo rudolfensis</i>	頭骨
KNM-ER 1472	<i>Homo habilis</i>	右大腿骨
KNM-CA 1802	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
KNM-ER 1813	<i>Homo habilis</i>	頭骨
KNM-ER 3733	<i>Homo ergaster</i>	頭骨
KNM-WT 15000	<i>Homo ergaster</i>	全身骨格
KNM-WT 16999	<i>Afropithecus turkanensis</i>	頭骨
OH-2	<i>Australopithecus afarensis</i>	下顎骨
OH-5	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
OH-7	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
OH-8	<i>Homo habilis</i>	足骨
OH-13	<i>Homo habilis</i>	上下顎骨
OH-24	<i>Homo habilis</i>	頭骨
WN-64 (Peninj-160)	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
SK 48	<i>Paranthropus robustus</i>	頭骨
STS 5	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Taung Child	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Peking Man	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Sangiran 17	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Kabwe Skull	<i>Homo heidelbergensis</i>	頭骨
La Ferrassie 1	<i>Homo neanderthalensis</i>	頭骨
LB-1	<i>Homo floresiensis</i>	頭骨
CGM 40237	<i>Aegyptopithecus zeuxis</i>	頭骨
PIN 3381-236	<i>Parapresbytis eohuman</i>	下顎骨
GSP 15000	<i>Sivapithecus indicus</i>	頭骨
<i>A. afarensis</i> 復元頭蓋	<i>Australopithecus afarensis</i>	頭骨
Zos 50	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
Zos 53	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
SH-10	<i>Homo sapiens</i>	男性の頭骨
JMC-Re-1	<i>Homo sapiens</i>	男性の全身骨格
JMC-Re-2	<i>Pan troglodytes</i>	オスの全身骨格
JMC-Re-3	<i>Homo sapiens</i>	アジア人男性の頭骨
JMC-Re-4	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
JMC-Re-5	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
JMC-Re-6	<i>Homo sapiens</i>	女性の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-7	<i>Homo sapiens</i>	子供（5歳）の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-8	<i>Panthera leo</i>	頭骨
JMC-Re-9	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	頭骨
JMC-Re-10	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	右前肢

標本番号	学名	性別・部位等
JMC-Re-11	<i>Tarsius</i> sp.	頭骨
JMC-Re-12	<i>Cynocephalus volans</i>	頭骨
JMC-Re-13	<i>Castor canadensis</i>	頭骨
JMC-Re-14	<i>Phascogaleus cinereus</i>	頭骨
JMC-Re-15	<i>Homo sapiens</i>	胎児頭骨
JMC-Re-16	<i>Pan troglodytes</i>	胎児頭骨
JMC-Re-17	<i>Pan troglodytes</i>	骨盤

2017 年度収集数 0 点

4. 分野別民俗資料点数 (猿二郎コレクション)

分類番号	種別	点数
00		
050	逐次刊行物	16
070	洋書	25
090	和書	9
200		
288.9	旗	1
300		
336.94	暖簾、看板	20
337.32	銀貨	1
337.4	補助貨幣 (銅貨など)	1
348.6	紙幣	2
375.9	タバコ関係	23
380	教科書	7
383.3	風俗、習慣、民俗	24
383.55	アクセサリー、マスコット、根付	118
383.9	髪飾、小間物 (くし、こうがい、かんざし)	3
386	居住、民具	6
386.8	祭礼	2
387.1	信仰、民間信仰と迷信	199
400		
458	岩石	11
470	植物	13
470.8	菌類	7
489.9	霊長類	1
499.88	薬用植物	1
500		
524.86	出入口 (窓、戸)	3
535.2	時計	2
545.28	電灯支持具、照明	4
545.5	灯具 (行燈、提灯、ランプ)	3
573.38	タイル	5
576.4	蠟燭	1
581	金属製品	4
581.1	鋳物製品	32
581.7	刃物類 (スプーン、 フォーク、ナイフ、鉄)	6
583	木製品	13
583.92	竹製品	3
583.94	蔓製品 (藤、籐、あけび)	3
583.96	藁製品	2
583.97	縄製品	1

分類番号	種別	点数
586.27	綿製品 (たおる、てぬぐい)	14
586.37	麻製品	4
586.78	織機	1
588.38	飴菓子	5
588.39	雑菓子	5
588.55	果実酒 (容器)	8
589.211	和服	5
589.215	子供服、T シャツ	2
589.224	ネクタイ	5
589.225	ハンカチ	6
589.23	靴下、足袋	4
589.24	マフラー、ネックチーフ	2
589.253	靴、スリッパ	1
589.27	ハンドバック、袋物 (財布)	17
589.28	ボタン、タイピン、カフス	3
589.3	傘、扇、団扇	14
589.4	洋傘	1
589.49	杖、ステッキ	1
589.5	ブラシ	1
589.7	文房具、運動具、貯金箱	85
594.1	モール	4
596.5	厨房具、食器	48
597	住居、家具、調度	37
597.2	カーテン、簾、タペストリー	16
597.7	床飾、インテリア	2
599.8	絵本	3
600		
629.61	灯籠	9
674.7	宣伝広告用印刷物、新聞、PR 誌、 シール、チラシ、案内状、シオリ	117
674.71	千社札	43
674.72	ポスター	123
674.73	カレンダー	15
675.18	包装、ラベル、容器	39
688.181	マッチラベル	275
693.5	観光みやげ物	199
693.8	切手、葉書、スタンプ	220
699.67	ラジオ、テレビ、演劇、娯楽	1
700		
711.9	仮面 (郷土玩具を除く)	14
713	木彫	149
714	石彫	61

分類番号	種別	点数
717	粘土彫刻、テラコッタ、蠟、石鹼	5
718.4	石仏、仏像	5
720	絵画	7
721.2	大和絵、絵巻物	23
721.3	水墨画	10
721.6	写生画	15
721.7	文人画、南画、俳画、色紙	63
721.8	浮世絵、錦絵、大津絵	48
724.8	ガラス絵	1
726.58	絵葉書	93
726.7	児童画	1
726.8	影絵（シュリエット）	1
728.8	書跡	8
729.3	墨	3
729.5	硯	7
729.6	文鎮	8
729.7	水差し	5
733	木版画、版木	26
739.1	印章材料	10
745	陽画（写真）	33
751.3	陶磁器（皿、絵皿）	405
751.31	灰皿	19
751.32	徳利、杯	15
751.33	急須、湯呑	17
751.4	埴輪、古瓦	16
751.5	ガラス工芸	17
751.9	プラスチック	43
752	漆工芸	1
753.7	刺繍	11
753.8	染物	1
754	木工芸	92

分類番号	種別	点数
754.7	竹工芸	36
754.9	紙工芸（折り紙、せん紙、ペーパークラフト）	38
755.4	牙角細工	12
755.5	革細工	3
755.6	貝細工	6
756.14	鍍金	12
756.6	刀剣、鐔	4
756.7	甲冑	1
759	人形、玩具	308
759.9	郷土玩具、郷土人形	16
759.91	土人形、土笛、土面	493
759.92	首人形	14
759.93	土鈴、陶鈴、鈴	122
759.94	張り子	95
759.95	凧	5
759.96	張り子面、土面子	159
759.97	紙塑	5
759.98	練り物	6
759.99	木、竹、その他	159
774	歌舞伎	2
777.1	人形浄瑠璃	6
777.8	影絵芝居、ギニョール、マリオネット	30
791.5	茶器、菓子器	20
792.6	香合、香炉	14
793.5	花器	7
900		
909.3	童話	10
合計		4,723 点
2017 年度 収集数		0 点

5. 音響・映像資料

2018 年 3 月 31 日現在、42 点の映像資料、および以下の映像機器が登録されている。

ビデオデッキ		液晶プロジェクター	
SONY VHS SLV-F6	1	東芝 TLP781J	1
カラービデオカメラ		EPSON EMP1710	1
SONY CCD-G5	1	EPSON EH-TW5200	1 (PWS)
デジタルビデオカメラ		CD/DVD プレーヤー / レコーダー	
Panasonic NV-GS50	1	SONY DVP-NS53P	1
SONY DCR-PC5	1	Panasonic DVD-S39	1
SONY DCR-HC62	1	Victor SR-DVM700	1
デジタルハイビジョンビデオカメラ		CCD-001	1
Panasonic HDC-HS100	2	テレビモニター	
8mm 映写機		TOSHIBA REGZA 37C7000	1
エルモ E80	1	By D:sign d:4222GJV3	1
16mm 映写機		Panasonic VIERA TH-37TX50	1
BELL & HOWELL	1	I・O Data LCD-MF223FBR-T	1 (PWS)
スライドプロジェクター		Panasonic TH-42AS600	1 (PWS)
ファミリーキャビン	1	TV 会議システム	
Master Lux	1	Polycom HDX6000-720	1 (PWS)
オーバーヘッドプロジェクター	1		

6. 図書資料

2017 年度に受け入れた資料は、次のとおりである。

図書	107 点
定期刊行物（雑誌類等）	681 点

2018 年 3 月 31 日現在、保有する登録図書資料（製本分を含む）は、次のとおりである。

和書	6,049 点
洋書	3,740 点
計	9,789 点

逐次刊行物を受贈した機関は次のとおりである。

〈一般および研究関係等〉

Bombay Natural History Society	京都大学生態学研究センター	新潟県立柏崎高等学校
Elsevier	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	日経ナショナル ジオグラフィック社
NHK 出版	京都大学霊長類研究所	日本学術振興会
Springer	公益財団法人崙山会	日本自然保護協会
愛銀教育文化財団	國學院大学博物館学研究室	日本人類学会
愛知学院大学歯学会	国立感染症研究所	日本動物愛護協会
あいち健康プラザ	国立極地研究所	日本動物園水族館教育研究会
愛知県生涯学習推進センター	静岡大学教育学部	日本動物心理学会
愛知県立大学多文化共生研究所	市民 ZOO ネットワーク	日本野生動物医学会
石川県白山自然保護センター	全国学童保育連絡協議会	日本霊長類学会
犬山市	全日本写真連盟	農林水産省動物検疫所
犬山城白帝文庫	帝京科学大学	日吉大社
岩手大学農学部付属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	フィード・ワン株式会社
岩波書店	東京農業大学学術情報通信課程	ボルネオ保全トラスト・ジャパン
ウータン・森と生活を考える会	同志社大学博物館学芸員課程	三重県林業研究所
栄研化学株式会社	動物園研究会	美濃加茂市民ミュージアム
大阪自然環境保全協会	名古屋経済大学犬山学研究センター	宮城のサル調査会
科学技術振興機構	名古屋経済大学地域連携センター	明治大学学芸員養成課程
神奈川大学日本常民文化研究所	名古屋国際センター	百瀬製作所
可見市ひとづくり課	名古屋国際センター	野生生物保全論研究会
川村学園女子大学	名古屋市立大学大学院医学研究科	野生動物保護管理事務所
環境省自然環境局生物多様性センター	成田山名古屋別院大聖寺	山階鳥類研究所
京都大学アフリカ地域研究センター	南山考古文化人類学研究会	酪農学園大学大学院獣医学研究科
		立教大学学校・社会教育講座

〈博物館等〉

American Museum of Natural History
 Museu de Zoologia da Universidade de Sao Paulo
 愛知県陶磁美術館
 秋吉台科学博物館
 熱田神宮宝物館
 一宮市尾西歴史民俗資料館
 岩手県立博物館
 江戸東京博物館
 大阪市立自然史博物館
 大阪歴史博物館
 大府市歴史民俗資料館
 大町山岳博物館
 岡崎市美術博物館
 春日井市道風記念館
 神奈川県立生命の星・地球博物館
 蟹江町歴史民俗資料館
 刈谷市美術館
 北九州市立自然史・歴史博物館

岐阜県博物館
 京都大学総合博物館
 群馬県立自然史博物館
 国立科学博物館
 国立民族学博物館
 杉本美術館
 たばこと塩の博物館
 田原市博物館
 知多市歴史民俗博物館
 千葉県立中央博物館
 中部大学民族資料博物館
 東海大学博物館
 藤村記念館
 徳島県立博物館
 栃木県立博物館
 鳥取県立博物館
 富山市科学博物館
 豊田市郷土資料館

トヨタ博物館
 豊橋市視聴覚教育センター
 豊橋市地下資源館
 豊橋市美術博物館
 名古屋市博物館
 奈良県立民俗博物館
 日本大学生物資源科学部博物館
 日本博物館協会
 半田市立博物館
 平塚市博物館
 福井市自然史博物館
 鳳来寺山自然科学博物館
 北海道博物館
 瑞浪市化石博物館
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
 みよし市立歴史民俗資料館
 山口県立山口博物館
 和歌山県立自然博物館

〈動物園・水族館等〉

青森県営浅虫水族館
 秋田市大森山動物園
 アクアマリンふくしま
 アクアワールド茨城県大洗水族館
 旭川市旭山動物園
 熱川バナナワニ園熱帯動植物友の会
 いしかわ動物園
 井の頭自然文化園
 魚津水族博物館
 岡崎市東公園動物園・岡崎市動物総合センター
 恩賜上野動物園
 葛西臨海水族園
 鴨川シーワールド
 鹿児島市平川動物公園
 岐阜県世界淡水魚園水族館
 アクア・トリート ぎふ

京都市動物園
 釧路市動物園
 熊本市動植物園
 高知県立のいち動物公園
 神戸市立王子動物園
 神戸市立須磨海浜水族園
 こどもどうぶつえん
 札幌市円山動物園
 静岡市立日本平動物園
 しまね海洋館アクアス
 周南市徳山動物園
 セルコホームズーパラダイス八木山
 高崎山自然動物園
 多摩動物公園
 天王寺動物園
 東京動物園協会
 東京動物園ボランティアーズ

鳥羽水族館
 豊橋総合動植物公園
 長崎ペンギン水族館
 名古屋港水族館
 名古屋市東山動植物園・東山の森
 日本動物園水族館協会
 のとじま水族館
 浜松市動物園
 日立市かみね動物園
 姫路市立動物園
 広島市安佐動物公園
 福山市立動物園
 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館
 宮崎市フェニックス自然動物園
 横浜市動物園友の会
 横浜市緑の協会
 横浜市立よこはま動物園

平成 28 年度年報および友の会ニューズレターを送付した機関は次のとおりである。

〈一般および研究関係等〉

愛銀教育文化財団	京都大学野生動物研究センター	中部電力株式会社
愛知学院大学歯学会	京都大学野生動物研究センター熊本サ ンクチュアリ	名古屋国際センター
愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県 生涯学習推進センター	京都大学野生動物研究センター幸島観 察所	名古屋市鶴舞中央図書館
愛知県立大学多文化共生研究所	京都大学霊長類研究所	名古屋市立大学大学院医学研究科・医 学部
麻布大学	公益財団法人畢山会	成田山名古屋別院大聖寺
アム・プロモーション	國學院大學博物館学研究室	南山考古文化人類学研究会
石川県白山自然保護センター	国立感染症研究所	日本生物科学研究所
稲盛財団	国立国会図書館収書部	広島大学理学研究科附属宮島自然植物 実験所
犬山市立図書館	自然環境研究センター	文化環境研究所
岩田洗心館	実験動物中央研究所	三重県林業研究所
岩手大学農学部附属寒冷フィールドサ イエンス教育研究センター	瀬戸内海国立公園宮島地区パークボラ ンティアの会	宮島ロープウェイ
大阪自然環境保全協会	筑波医学実験用霊長類センター	明治学院大学国際学部付属研究所
神奈川大学日本常民文化研究所	東海大学社会教育センター	明治大学学芸員養成課程
可児市子どもセンター	東京外国語大学アジア・アフリカ言語 文化研究所	野生動物保護管理事務所
川村学園女子大学	同志社大学博物館学芸員課程	山階鳥類研究所
京都大学大学院アジア・アフリカ地域 研究研究科	独立行政法人農業・食品産業技術総合 研究機構畜産草地研究所	酪農学園大学野生動物医学センター
京都大学アフリカ地域研究資料セン ター		立教大学図書館

〈博物館等〉

愛知県陶磁資料館	北名古屋市歴史民俗資料館	藤村記念館
一宮市博物館	岐阜県博物館	徳島県立博物館
犬山市立文化史料館	京都大学総合博物館	栃木県立博物館
岩手県立博物館	群馬県立自然史博物館	鳥取県立博物館
海の博物館	国立科学博物館	富山市科学文化センター
愛媛県総合科学博物館	国立科学博物館付属自然教育園	豊田市郷土資料館
大阪市立自然史博物館	国立民族学博物館	豊橋市自然史博物館
大阪歴史博物館	滋賀県立琵琶湖博物館	豊橋市地下資源館
大町山岳博物館	庄原市立比和自然科学博物館	豊橋市美術博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館	杉本美術館	内藤記念くすり博物館
蟹江町歴史民俗資料館	たばこと塩の博物館	名古屋市科学館
蒲郡市博物館	田原市博物館	名古屋市博物館
蒲郡情報ネットワークセンター 生 命の海科学館	千葉県立中央博物館	日本大学生物資源科学部博物館
北九州市立自然史・歴史博物館	東海大学海洋科学博物館	日本博物館協会
	東京都江戸東京博物館	博物館明治村

半田市立博物館	北海道博物館	三好町立歴史民俗資料館
兵庫県立人と自然の博物館	瑞浪市化石博物館	野外民族博物館 リトルワールド
平塚市博物館	三重県総合博物館	山口県立山口博物館
福井市自然史博物館	美祢市立秋吉台科学博物館	横須賀市博物館
藤原岳自然科学館	美濃加茂市民ミュージアム	和歌山県立自然博物館
鳳来寺山自然科学博物館	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	

〈動物園・水族館等〉

秋田市大森山動物園	熊本市動植物園	豊橋市総合動植物公園
秋吉台自然動物公園	久留米市鳥類センター	長崎市バイオパーク
アクアワールド茨城県大洗水族館	高知県立のいち動物園	長崎ペンギン水族館
旭川市立旭山動物園	神戸市立王子動物園	長野市茶臼山動物園
熱川バナナワニ園	神戸市立須磨海浜水族園	名古屋港水族館
アドベンチャーワールド	小諸市動物園	日本動物園水族館協会
池田動物園	埼玉こども動物自然公園	熱帯動植物友の会
いしかわ動物園	佐世保市亜熱帯動植物園	のとじま臨海公園水族館
伊豆シャボテン公園	札幌市円山動物園	浜松市動物園
市川市動植物園	鯖江市西山動物園	東山公園協会
魚津水族館	静岡市立日本平動物園	日立市かみね動物園
宇部市常磐遊園協会	島根県立しまね海洋館	姫路市立水族館
海の中道海洋生態科学館	志摩マリンランド	姫路市立動物園
愛媛県立とべ動物園	周南市徳山動物園	姫路セントラルパーク
大分マリンパレス水族館 うみたまご	須坂市動物園	兵庫県淡路ファームパーク
大阪市天王寺動物園	世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ	広島市安佐動物公園
大牟田市動物園	仙台市八木山動物園	フェニックス自然動物園
沖縄美ら海財団	高岡古城公園動物園	福岡市動植物園
おびひろ動物園	高崎山自然動物園	ふくしま海洋科学館
鹿児島市平川動物公園	多摩動物公園	福山市立動物園
蒲郡市竹島水族館	千葉市動物公園	碧南海浜水族館
鴨川シーワールド	東京都井の頭自然文化園	みさき公園自然動物園水族館
川崎市夢見ヶ崎動物公園	東京動物園協会	南知多ビーチランド
九州自然動物公園	東京都恩賜上野動物園	盛岡市動物公園
京都市動物園	東武動物公園	横浜市金沢動物園
京都大学白浜水族館	とくしま動物園	横浜市動物園友の会事務局
串本海中公園センター	鳥羽水族館	横浜市野毛山動物園
釧路市動物園	富山市ファミリーパーク	和歌山公園動物園

(6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営

1. 飼育動物一覧（2018年3月31日現在）

(1) サル類

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	61	30	31	0
エリマキキツネザル	<i>Varecia variegata</i>	4	2	2	0
クロキツネザル	<i>Eulemur macaco</i>	2	1	1	0
ブラウンキツネザル	<i>Eulemur fulvus</i>	2	1	1	0
レッサースローロリス	<i>Nycticebus pygmaeus</i>	18	10	8	0
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	5	3	2	0
ショウギャラゴ	<i>Galago senegalensis</i>	1	1	0	0
コモンマーモセット	<i>Callithrix jacchus</i>	7	4	3	0
クロミミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	14	10	4	0
ピグミーマーモセット	<i>Cebuella pygmaea</i>	3	1	2	0
アカタマリン	<i>Saguinus midas</i>	11	7	4	0
ムネアカタマリン	<i>Saguinus labiatus</i>	1	0	1	0
ワタボウシパンシェ	<i>Saguinus oedipus</i>	7	3	4	0
ヨザル	<i>Aotus trivirgatus</i>	11	4	7	0
ダスキーティティ	<i>Callicebus moloch</i>	1	1	0	0
シロガオサキ	<i>Pithecia pithecia</i>	1	1	0	0
クロヒゲサキ	<i>Chiropotes satanas</i>	2	1	1	0
ノドジロオマキザル	<i>Cebus capucinus</i>	5	3	2	0
シロガオオマキザル	<i>Cebus albifrons</i>	5	3	2	0
フサオマキザル	<i>Cebus apella</i>	25	14	11	0
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	24	13	11	0
クロクモザル	<i>Ateles paniscus</i>	2	1	1	0
ケナガクモザル	<i>Ateles belzebuth</i>	8	5	3	0
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	7	1	5	1
コモンウーリーモンキー	<i>Lagothrix lagotrica</i>	5	3	2	0
バーバリーマカク	<i>Macaca sylvanus</i>	19	9	10	0
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	29	12	17	0
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	14	5	9	0
シシオザル	<i>Macaca silenus</i>	9	3	6	0
ブタオザル	<i>Macaca nemestrina</i>	12	4	8	0
カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	92	39	53	0
アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	4	0	4	0
タイワンザル	<i>Macaca cyclopis</i>	4	3	1	0
チベットモンキー	<i>Macaca thibetana</i>	5	1	4	0
ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	122	55	67	0
ヤクニホンザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	165	85	80	0
ゴールデンマンガベイ	<i>Cercocebus agilis chrysogaster</i>	1	1	0	0
アヌビスヒヒ	<i>Papio anubis</i>	85	33	52	0
ギニアヒヒ	<i>Papio papio</i>	1	1	0	0
マントヒヒ	<i>Papio hamadryas</i>	7	4	3	0
マンドリル	<i>Mandrillus sphinx</i>	15	7	8	0
クチヒゲグエノン	<i>Cercopithecus cephus</i>	1	0	1	0
サイクスモンキー	<i>Cercopithecus mitis albogularis</i>	1	0	1	0
ブラッサグエノン	<i>Cercopithecus neglectus</i>	2	1	1	0
シュミットグエノン	<i>Cercopithecus ascanius schmidtii</i>	5	0	5	0
バッチィコファークグエノン	<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	1	0	1	0
サバンナモンキー	<i>Chlorocebus aethiops</i>	8	2	6	0
タラポアン	<i>Miopithecus talapoin</i>	3	1	2	0
パタスモンキー	<i>Erythrocebus patas</i>	8	4	4	0

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ハヌマンラングール	<i>Semnopithecus entellus</i>	1	1	0	0
シルバールトン	<i>Trachypithecus cristatus</i>	2	2	0	0
フランソワルトン	<i>Trachypithecus francoisi</i>	3	1	2	0
アビシニアコロブス	<i>Colobus guereza</i>	5	1	4	0
アンゴラコロブス	<i>Colobus angolensis</i>	1	1	0	0
シロテテナガザル	<i>Hylobates lar</i>	7	5	2	0
ボウシテナガザル	<i>Hylobates pileatus</i>	4	3	1	0
アジルテナガザル	<i>Hylobates agilis</i>	2	0	2	0
ミュラーテナガザル	<i>Hylobates muelleri</i>	1	0	1	0
フクロテナガザル	<i>Symphalangus syndactylus</i>	11	6	5	0
ニシゴリラ	<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	1	1	0	0
チンパンジー	<i>Pan troglodytes</i>	8	5	3	0
計		891	419	471	1

(2) その他動物

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ウサギ	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	5	2	3	0
デグー	<i>Octodon degus</i>	10	6	4	0
モルモット	<i>Cavia porcellus</i>	5	0	5	0
カイロキンイロトゲマウス	<i>Acomys cahirinus</i>	2	1	1	0
イヌ	<i>Canis familiaris</i>	2	0	2	0
シバヤギ	<i>Capra hircus</i>	3	1	2	0
ケヅメリクガメ	<i>Centrochelys sulcata</i>	2	2	0	0
スペングラーマガメ	<i>Geoemyda spengleri</i>	2	1	1	0
パンケーキリクガメ	<i>Malacochersus tornieri</i>	1	0	1	0
ヒョウモンガメ	<i>Stigmochelys pardalis</i>	1	0	1	0
ホウシャガメ	<i>Astrochelys radiata</i>	2	2	0	0
ミツユビハコガメ	<i>Terrapene carolina triunguis</i>	1	0	1	0
ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta</i>	1	0	1	0
ヒョウモントカゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	2	1	1	0
アオジタカゲ	<i>Tiliqua</i> sp.	1	0	1	0
フトアゴヒゲトカゲ	<i>Pogona vitticeps</i>	1	1	0	0
アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	26	13	13	0
ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	2	0	0	2
カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	1	1	0	0
レッドコロソマ	<i>Piaractus brachipomum</i>	1	0	0	1
ガラ・ルフア	<i>Garra rufa</i>	6	0	0	6
カワムツ	<i>Nipponocypris temminckii</i>	1	0	0	1
マダガスカルオオゴキブリ	<i>Gromphadorrhina portentosa</i>	431	179	252	0
チリアンコモン	<i>Grammostola rosea</i>	1	0	0	1
総 計		510	210	289	11

2. プリーディングローン動物一覧（2018年3月31日現在）

(1) 貸付動物

種名	個体数	出園日 / 出生日	現飼育施設
ボルネオオランウータン <i>Pongo pygmaeus</i>	オス 1	1988年2月9日 (横浜市立野毛山動物園で出生)	千葉市動物公園
コモンウーリーモンキー <i>Lagothrix lagotricha</i>	オス 1	1998年1月7日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
コモンウーリーモンキー <i>Lagothrix lagotricha</i>	オス 1	1999年2月18日 (横浜市立よこはま動物園で出生)	横浜市立よこはま動物園
シシオザル <i>Macaca silenus</i>	メス 1	2005年11月12日 (出園)	東武動物公園
チベットモンキー <i>Macaca thibetana</i>	オス 1	2011年10月20日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
ブラッサグエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2003年5月4日 (広島市安佐動物公園にて出生)	神戸市立王子動物園
ビグミーマーモセット <i>Cebuella pygmaea</i>	メス 1	2013年3月14日 (出園)	静岡市立日本平動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2 メス 2	2014年7月23日 (出園)	旭川市旭山動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 7 メス 4	2014年10月21日 (出園)	神戸どうぶつ王国
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2	2014年11月16日 (出園)	熊本市動植物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
ボリビアリスザル <i>Saimiri boliviensis</i>	メス 1	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
フサオマキザル <i>Cebus apella</i>	メス 3	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
アビシニアコロブス <i>Colobus guereza</i>	メス 1	2014年11月27日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015年6月23日 (出園)	おびひろ動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2015年6月23日 (出園)	札幌市円山動物園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	オス 1	2015年10月13日 (出園)	浜松市動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 10	2015年10月19日 (出園)	NIFREL
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015年11月24日 (出園)	浜松市動物園
アカテタマリン <i>Saguinus midas</i>	オス 1	2016年3月29日 (出園)	市川市動植物園
ビグミーマーモセット <i>Cebuella pygmaea</i>	メス 1	2016年3月31日 (出園)	千葉市動物公園
シロテテナガザル <i>Hylobates lar</i>	オス 1	2016年6月30日 (出園)	伊豆シャボテン動物公園
ヨザル <i>Aotus trivirgatus</i>	オス 1	2016年6月30日 (出園)	伊豆シャボテン動物公園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	オス 1 メス 1	2016年9月10日 (出園)	東京都恩賜上野動物園
ヨザル <i>Aotus trivirgatus</i>	メス 1	2016年9月10日 (出園)	東京都恩賜上野動物園
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	メス 1	2016年12月9日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
クロシロエリマキキツネザル <i>Varecia variegata</i>	メス 1	2016年12月20日 (出園)	川崎市夢見ヶ崎動物公園
ボリビアリスザル <i>Saimiri boliviensis</i>	メス 3	2018年3月16日 (出園)	豊橋総合動植物公園

(2) 借受動物

種名	個体数	来園日／出生日	来園元
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス 1	1994 年 5 月 19 日 (来園)	横浜市立野毛山動物園 (帰属は横浜市立よこはま動物園)
ポト <i>Perodicticus potto</i>	メス 1	2009 年 2 月 10 日 (来園)	那須ワールドモンキーパーク
クロシロエリマキキツネザル <i>Varecia variegata</i>	オス 1	2010 年 4 月 19 日 (出生)	JMC 生まれ (帰属は静岡市立日本平動物園)
クロクモザル <i>Ateles paniscus</i>	メス 1	2010 年 12 月 16 日 (来園)	愛媛県立とべ動物園
クロシロエリマキキツネザル <i>Varecia variegata</i>	メス 1	2011 年 4 月 30 日 (出生)	JMC 生まれ (帰属は静岡市立日本平動物園)
チンパンジー <i>Pan troglodytes</i>	メス 1	2013 年 6 月 6 日 (来園)	豊橋総合動植物公園
フランソワルトン <i>Trachypithecus francoisi</i>	メス 1	2016 年 4 月 22 日 (出生)	JMC 生まれ (帰属は鯖江市西山動物園)
クロキツネザル <i>Eulemur macaco</i>	オス 1	2017 年 11 月 8 日 (来園)	浜松市動物園
フランソワルトン <i>Trachypithecus francoisi</i>	オス 1	2017 年 11 月 8 日 (来園)	浜松市動物園

3. 動物の異動

(1) 出園

① サル類

ブリーディングローン 1 種 3 頭

内訳：豊橋総合動植物公園

ボリビアリスザル *Saimiri boliviensis*

メス 3 頭

無償譲渡 1 種 2 頭

内訳：須坂市動物園

ブタオザル *Macaca nemestrina*

オス 1 頭、メス 1 頭

(2) 来園

① サル類

ブリーディングローン 2 種 2 頭

内訳：浜松市動物園

クロキツネザル *Eulemur macaco*

オス 1 頭

フランソワルトン *Trachypithecus francoisi*

オス 1 頭

(3) 出産

種名	学名	出産	現存	死亡	流産	繁殖区分
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	1	0	1	0	自然哺育
エリマキキツネザル	<i>Varecia variegata</i>	2	0	2	0	自然哺育
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	1	0	1	0	自然哺育
クロミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	2	0	2	0	自然哺育
コモンマーモセット	<i>Callithrix jacchus</i>	2	1	1	0	自然哺育
アカテタマリン	<i>Saguinus midas</i>	3	1	2	0	自然哺育
ワタボウシパンシェ	<i>Saguinus oedipus</i>	3	2	1	0	自然哺育
フサオマキザル	<i>Cebus apella</i>	2	0	2	0	自然哺育
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	5	3	2	0	自然哺育
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	1	1	0	0	自然哺育
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	1	1	0	0	自然哺育
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	3	2	1	0	自然哺育
ブタオザル	<i>Macaca nemestrina</i>	1	0	0	1	自然哺育
ヤクニホンザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	17	11	6	0	自然哺育
アヌビスヒビ	<i>Papio anubis</i>	2	1	1	0	自然哺育
マンドリル	<i>Mandrillus sphinx</i>	2	1	1	0	自然哺育
計 16 種		48	24	23	1	

4. 高齢動物（年齢は 2018 年 3 月 31 日現在）

種 名	性別	年齢	摘要
ケナガクモザル <i>Ateles belzebuth</i>	メス	43 以上	1974/6/27 来園
クロクモザル <i>Ateles paniscus</i>	メス	33	1985/3/22 生
ジェフロイクモザル <i>Ateles geoffroyi</i>	メス	32	1985/4/5 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	メス	36	1981/4/21 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	メス	33	1985/3/19 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	メス	32	1985/4/14 生
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	メス	31	1986/4/13 生
タイワンザル <i>Macaca cyclopis</i>	オス	30	1987/4/6 生
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス	推 51	1969 年推定 2 歳で日本平へ入園 1994/5/19 モンキーセンターへ来園
アジルテナガザル <i>Hylobates agilis</i>	メス	推 49	1971 年推定 2 歳で到津遊園へ入園 1981/9/11 モンキーセンターへ来園
ニシゴリラ <i>Gorilla gorilla</i>	オス	44	1973/4/20 生

5. 獣医療

(1) 動物の死亡原因（サル類・その他動物の総計）

区分	飼育動物数		死亡動物数									飼育動物に 対する %
	年度末飼育頭数	年間死亡数	呼吸器系	消化器系	泌尿生殖器系	外傷	寄生虫症	感染症	神経系	その他	計	
哺乳類	918	82	16	10	0	8	0	0	5	43	82	8.2
爬虫類	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	932	82	16	10	0	8	0	0	5	43	82	8.1

*飼育動物に対する % = 年間死亡数 ÷ (年度末飼育頭数 + 年間死亡数) × 100

(2) 年間診療件数

入院	361 件	退院	302 件
麻酔	555 件	外科処置	181 件
補液・注射	1,072 件	歯科処置	92 件
抜糸	100 件	包帯交換	127 件
洗浄・消毒	103 件	避妊処置（インプラント等）	76 件
マイクロチップ挿入・確認	218 件	イレズミ	24 件
低周波治療	69 件	酸素吸入・ネブライジング	24 件
検便	265 件	検尿	35 件
X 線検査	47 件	エコー検査	99 件
血液検査	200 件	体脂肪率測定	102 件
細胞診	58 件	点眼	20 件
外注検査	20 件	薬処方	1,935 件
その他	124 件	総診療件数	5,546 件
剖検	82 件		

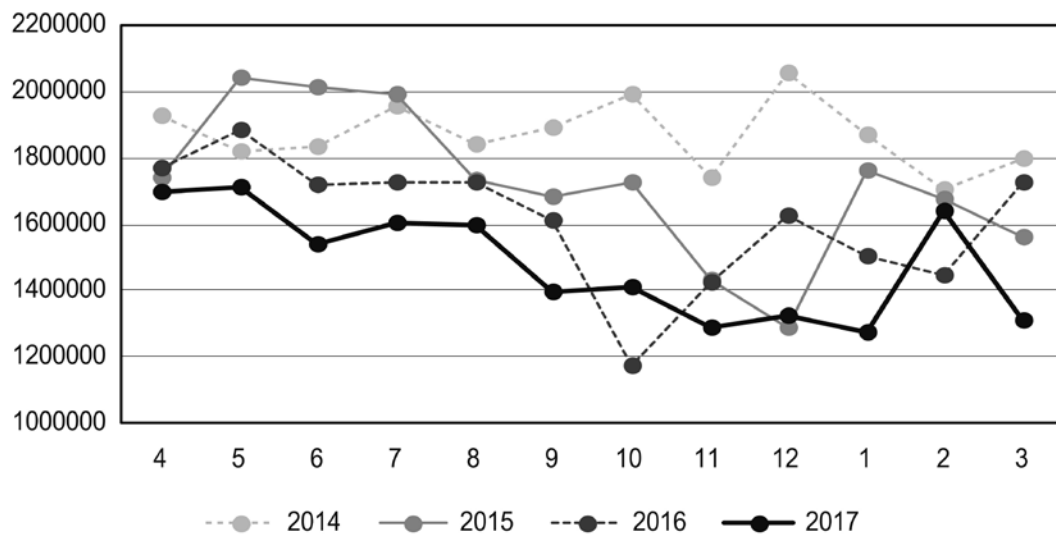
6. 動物の給餌量（園全体、2018年3月31日現在）

品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量
外葉	289kg	トマト	23.5kg	リンゴ	528.9kg	パン	216 枚
キャベツ	7 玉	チンゲン菜	21.0kg	バナナ	162.6kg	卵	350 個
白菜	19 束	セロリ	1 本	ミカン	56.1kg	コオロギ	700 匹
人参	25.2kg	カボチャ	1 玉	キウイ	35 個	固形飼料	220kg
生サツマイモ	528.9kg	タマネギ	7kg				
蒸サツマイモ	182.1kg	ダイコン	7 本				

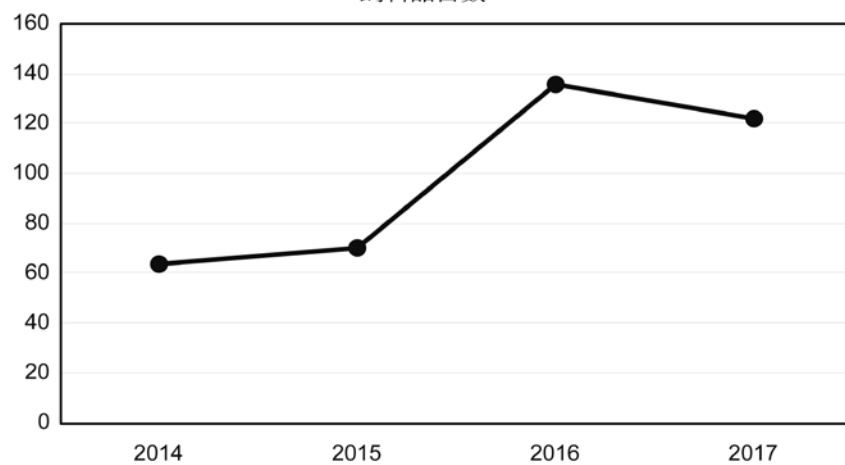
カットフルーツ・カット野菜

品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量
メロン（皮）	161kg	オレンジ（皮）	20kg	ニンジン	152.7kg	サトイモ	30kg
メロン（種）	25kg	オレンジ（芯）	25kg	カボチャ	241.7kg	キャベツ	170kg
パイン（皮）	100kg	キャベツ	9kg	ダイコン	32kg	ゴボウ	19kg
パイン（芯）	178kg	レタス	5kg	タマネギ	27kg		

月別飼料費推移



飼料品目数

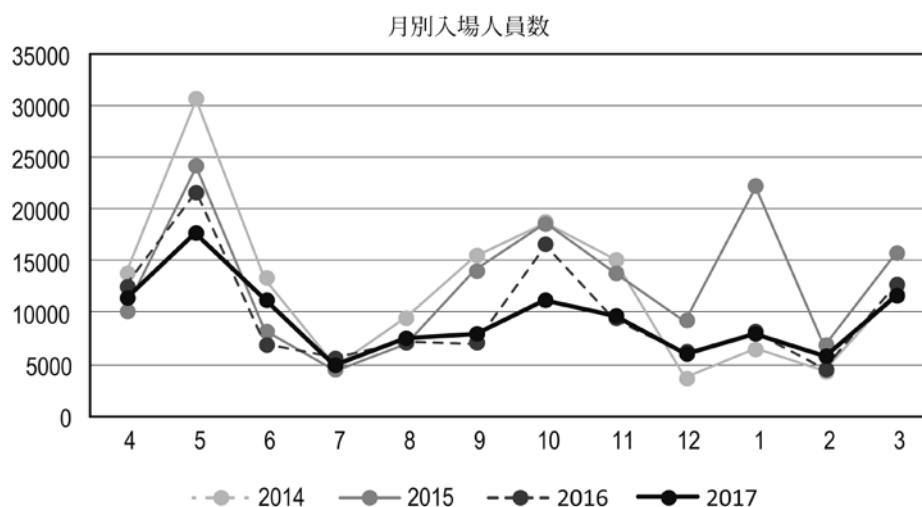


7. 月別入場人員数

入園区分	有料		無料	合計	開園日数
	一般	団体			
2017 年 4 月	7,100	996	3,210	11,306	22 日間
5 月	14,179	1,104	2,283	17,566	25 日間 (2 日、30 日は開園)
6 月	6,053	927	4,297	11,277	22 日間
7 月	3,293	465	1,057	4,815	24 日間 (25 日、26 日は開園、14 日は臨時閉園)
8 月	5,686	524	1,189	7,581	27 日間 (15 日、16 日、22 日、23 日は開園)
9 月	5,574	980	1,473	8,027	25 日間 (13 日、26 日、27 日は開園)
10 月	4,716	5,011	1,513	11,240	26 日間 (17 日は開園、23 日は臨時閉園)
11 月	7,093	1,288	1,381	9,762	22 日間 (1 日は開園)
12 月	4,898	230	908	6,036	24 日間 (27 日は開園)
2018 年 1 月	6,613	0	1,261	7,874	19 日間 (2 日、3 日は開園)
2 月	4,617	334	885	5,836	13 日間
3 月	9,226	849	1,570	11,645	26 日間 (21 日、27 日、28 日は開園)
合計	79,230	12,708	21,027	112,965	275 日間

※休園日：祝日を除く火曜・水曜。

ただし 10 月は火曜のみ休園、1 月 22 日から 2 月 16 日の間は平日全てが休園日。



(参考) 過去の年間入場者数の推移 (2013 年度までの数値は遊園地日本モンキーパークとの総計)

年度	入場人員	年度	入場人員	年度	入場人員	年度	入場人員
1997 年	897,663	2002 年	798,353	2007 年	773,256	2012 年	562,465
1998 年	844,804	2003 年	711,889	2008 年	725,870	2013 年	548,045
1999 年	774,709	2004 年	776,068	2009 年	604,306	2014 年	147,523
2000 年	830,102	2005 年	594,590	2010 年	595,391	2015 年	154,378
2001 年	905,169	2006 年	734,906	2011 年	560,920	2016 年	118,113

8. KIDSZOO 入場人員数

入場区分	有料	付添	団体有料	合計
2017 年 4 月	1,332	1,333	293	2,958
5 月	2,366	3,763	146	6,275
6 月	1,042	1,191	14	2,247
7 月	514	602	0	1,116
8 月	916	1,226	82	2,224
9 月	995	1,349	118	2,462
10 月	795	816	2,079	3,680
11 月	1,075	1,327	867	3,269
12 月	771	890	31	1,692
2018 年 1 月	875	1,145	0	2,020
2 月	583	592	9	1,184
3 月	1,444	1,545	218	3,207
合計	12,708	15,779	3,847	32,334

9. 土地・主な施設および設備の一覧と変動

〈土地〉 (2018年3月31日現在)

地区名	面積 (m ²)
官林地区	173,480.04
栗栖地区	6,153.62
小野洞地区	759,061.22

〈施設・設備〉 (2018年3月31日現在)

施設名	構 造	面積 (m ²)	建設・変動年
動物園管理事務所	鉄筋コンクリート2階造	565.5	平成15年
飼料調理倉庫	鉄骨造	64.8	平成15年
マダガスカル館	鉄筋コンクリート造	193	平成13年
マダガスカル館島	芝張り、硝子、電気柵	235	平成13年
アフリカ館	鉄骨ブロック造	446	昭和39年
ボイラー室と変電室(旧モンキーアパート関係)	鉄骨ブロック造	49	昭和38年
ビジターセンター	鉄筋コンクリート造	860	平成元年
駐車場			平成15年
ニホンザルの丘	放養式フェンス、電気柵造	1,647	平成23年
南米館	鉄筋コンクリート2階造	480	昭和41年
リスザルの島	鉄筋コンクリート水張り造	1,507	昭和37年
ヒヒの城	放養式鉄筋コンクリート造	415	平成15年
休憩所	木造コロニアル葺造	81	平成15年
エコドーム	アイアンフレーム組SUSメッシュ張造	523	平成3年
エコドーム寝室	鉄筋コンクリート造	45	平成3年
休憩所(エコドーム横)	鉄筋組ルーフデッキ葺造	85.8	平成3年
無料休憩所	鉄骨2階造	166.87	昭和55年
アジア館	鉄筋コンクリート造	375	昭和53年
アフリカセンター	鉄筋コンクリート造	2,240	昭和55年
テナガ・クモザルの島	鉄筋コンクリート石積水張造一部電柵併用	1,500	平成9年
ギボンハウス	鉄筋強度度セメント中空押出整形張 ALC葺シート防水SOS メッシュ張造2棟	164.4 ×2棟	平成6年
セミナーハウス白帝	鉄筋コンクリート平屋建造	261	昭和39年
トイレ1(休憩所横)	ブロック積コロニアル葺造	20	昭和60年
トイレ2(KIDSZOO横)	鉄筋コンクリートコロニアル葺造	36	平成28年
トイレ3(アフリカセンター)	鉄筋コンクリート造	60	昭和55年
障害者用トイレ(アフリカセンター前)	鉄筋ALC張切板葺	10.2	平成15年
動物園出改札詰め所	鉄骨造	50.4	平成15年
モンキーバレイ	放養式フェンス電気柵造	3,321.7	平成9年
診療及び資料棟	ブロック積鉄柱梁組サイディングボード張 ルーフデッキ葺造	217.74	平成9年
検疫棟	ルーフデッキ葺造	91.08	平成9年
収容棟	ルーフデッキ葺造	71.28	平成9年
標本作成棟	ルーフデッキ葺造	18.5	平成9年
屋外ケージ	鉄骨金網張り造	129.6	平成9年
炭化装置	ブロック積鉄柱梁組スレート張りスレート造	12.5	平成15年
資材倉庫	プレハブ造	17	平成9年
乾燥炉	プレハブ造	22.74	平成25年
焼却炉	プレハブ造	7.3	平成27年
ベビールーム	ブロック積鉄柱梁組サイドボード張 コロニアル葺造	16.24	平成10年
南米館用バコティン ヒーター室	上屋鉄骨組ルーフデッキ葺 サイディングボード張りスレート葺造	9.25	平成10年
Waoランド	木造 ブロック積 水張り 電柵併用	1,000	平成17年
モンキースクランブル	鉄木材複合構造 水張り電柵併用 総延長300m		平成18年
Waoランドmini	ステンレス檻 木造寝室 木造デッキ	35.1	平成21年
KIDSZOO	透水式路面工法 トレーラーハウス30m ² カーポート付デッキ100m ² 軽量鉄骨造休憩室15.9m ²	568	平成27年

10. 施設配置図（2018年3月31日現在）



- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 1 管理事務所 | 16 アフリカセンター | 31 猿塚 |
| 2 飼料倉庫 | 17 トイレ | 32 ポンプ場 |
| 3 資材倉庫 | 18 セミナーハウス白帝 | 33 ニホンザルの丘 |
| 4 ガレージ | 19 駐車場 | 34 ヒヒの城 |
| 5 ポンプ場 | 20 倉庫 | 35 駐車場 |
| 6 モニュメント | 21 倉庫 | 36 エコドーム |
| 7 動物園正門出札 | 22 ポンプ場 | 37 リスザルの島 |
| 8 ビジターセンター | 23 屋外収容棟 | 38 テナガ・クモザルの島 |
| 9 Wao ランド mini | 24 収容棟 | 39 ギボンハウス 2 |
| 10 マダガスカル館 | 25 診療棟および資料棟 | 40 ギボンハウス 1 |
| 11 アフリカ館 | 26 検疫棟 | 41 トイレ |
| 12 南米館 | 27 乾燥炉 | 42 楽猿（レストラン） |
| 13 ボイラー室 | 28 資料作成室 | 43 無料休憩所 |
| 14 アジア館 | 29 炭化装置 | 44 モンキーバー（軽食） |
| 15 Wao ランド | 30 焼却炉 | 45 KIDSZOO |
| | | 46 トイレ |

11. 主な施設改修

(1) モンキーバレイやぐら改修

2017年11月28日～12月8日



ヤクニホンザルを飼育管理しているモンキーバレイ内のメインにあたるやぐらを11年ぶりに改修工事をおこないました。屋久島生息地研修にて、実際に見てきた野生のヤクニホンザルたちの樹上でのくらしを再現すべく、止まり木の角度を工夫したり、消防ホースを駆使したりなどして、これまで実施してこなかった新しいことを新生やぐらに施しました。(山田)

(2) KIDSZOO 内ツリーハウスの建設

2018年1月20日～4月27日

(3) 入園ゲート改修

2018年2月14日、3月28日



入園ゲート看板取替 (2018年2月14日)

12. 施設修繕 (業者工事)

2017年4月4日

スクランブル修繕資材搬入 (所沢建築)
4月13日 軽トラック修理 (アクセスコーポレーション)
4月14日 電気メーター交換 (中部精機)
4月26日 グリストラップ清掃 (名鉄環境造園)
5月15日 貯水槽簡易水道検査 (名鉄環境造園)
5月17日 アフリカセンター周辺排水溝工事 (有川設備)
5月17日 ビジターセンター裏給水ポンプメンテナンス (有川設備)
5月24日 バックヤード収容棟ブレーカー点検 (文化電気)

5月28日～29日

南米館ホール電気不良調査 (文化電気)

5月29日 南米館ホール電気不良調査 (中部電気保安協会)

5月31日～6月2日

南米館電気配線工事 (文化電気)

6月4日 無料休憩所エアコン修理 (ダイキン)

6月21日 消防設備点検 (ALSOK)

7月4日 電気設備点検 (中部電気保安協会)

7月7日～8日

アジア館寝室エアコン取り換え (文化電気)

7月19日 バックヤード壁付ケージ扉改良

アフリカ館檻溶接 (所沢建築、伊豆木施工)

7月20日 病院棟薬分包機修理 (落雷被害) (アトムベッツメディカル)

7月22日 アフリカ館天窗防水補修 (所沢建築)

7月22日、25日、28日、8月3日

ワゴン車修理 (アクセスコーポレーション)

7月25日 井戸給水ポンプメンテナンス (有川設備)

7月27日 KIDSZOO エアコン点検 (ダイキン)

7月28日 病院棟電話修理 (落雷被害) (メイエレック)

7月31日 南米館哺育室、南米館ホール、アジア館、ニホンザルの丘、アフリカセンター 蛍光灯取り替え (文化電気)

8月2日～3日

アフリカセンターエアコン取り替え (文化電気)

8月3日 南米館哺育室エアコン取り付け (文化電気)

8月4日 バックヤード焼却炉灯油タンク増設 (伊ワタニ東海)

8月5日 アフリカセンターエアコン室外機補強 (文化電気)

8月8日 バックヤード灯油タンク配管工事 (伊ワタニ東海)

8月18日 アフリカセンターエアコン室外機点検 (文化電気)

8月18日 アフリカ館温度異常警報器点検 (ALSOK)

8月20日～22日

ワゴン車修理 (豪雨被害) (アクセスコーポレーション)

8月21日 南米館ホール電灯修理 (文化電気)

8月24日 事務所エアコン修理 (文化電気)

8月28日 バックヤード収容棟エアコン修理 (SHARP)

8月30日 飼料倉庫エアコン取り替え (文化電気)

9月1日 バックヤード隔離舎コンセント移設 (文化電気)

9月4日 南米館中型サル寝室ライト補修 (文化電気)

9月11日 バックヤード屋外収容棟エアコン点検 (中部技工)

9月19日 トウクトウ点検 (アクセスコーポレーション)

9月20日 アフリカセンター屋外運動場排水管詰まり工事 (有川設備)

9月20日 バックヤード収容棟エアコン修理 (SHARP)

9月22日 ワゴン車修理、タイヤ交換 (アクセスコーポレーション)

9月22日 ヒビの城・ニホンザルの丘排水管詰まり工事 (有川設備)

9月22日 バックヤード収容棟エアコン修理 (ダイキン)

9月22日	Waoランド mini ヤナギ伐採 (何でも屋今井)	1月23日	事務所1階エアコン設置 (エディオンイオン扶桑店)
9月26日	アフリカセンター温水ボイラー定期点検 アフリカセンター・南米館エアハン点検 (今井設備)	1月24日～26日	ビジターセンター上看板撤去工事(所沢建築)
9月26日～27日	園内FA暖房(10台)点検(今井設備)	1月25日～26日	事務所電灯・コンセント点検、プレーカー 点検およびヒューズ交換(文化電気)
9月28日～29日	マダガスカル館警備盤取り替え(ALSOK)	1月30日	飼料倉庫大型回転コンロ設置(ハットリ)
10月5日	バックヤード焼却炉燃焼バーナー点検 (DAITO)	1月31日	アフリカ館、ヒヒの城、マダガスカル館 FA暖房温度表示板修理(マルヨ住設)
10月10日	浄化槽ポンプ交換(アカツキ)	2月7日	南米館バコティンヒーター定期点検 (若松物産)
10月16日	アフリカセンター寝室蛍光灯交換 リスザルの島蛍光灯修理(文化電気)	2月13日	ヒヒの城汚水管工事、ビジターセンター 裏市水給水バルブ漏水修理(有川設備)
10月16日	バックヤード病室FA暖房基板交換 (マルヨ住設)	2月14日	入園ゲート看板取替・ 南米館種名看板取り付け(中央工芸)
10月19日	バックヤード病室FA暖房部品交換 (マルヨ住設)	2月21日	市水受水槽点検(名鉄環境造園)
10月22日	駐車場出入口危険木除去(シーキューブ)	2月28日～3月3日	トゥクトゥク修理、点検整備 (アクセスコーポレーション)
10月23日	外周路竹撤去(シーキューブ)	3月2日	ヒヒの城屋内シュート修理(所沢建築)
10月23日	アフリカセンター誘導灯交換、 楽猿設置の発信機バッテリー交換、 消火器11本回収(ALSOK)	3月7日	アジア館屋内通路扉ガラス交換(橋爪ガラス)
10月24日	軽トラックバッテリー交換 (アクセスコーポレーション)	3月19日～	ビジターセンター裏営繕小屋建築(所沢建築)
10月25日	園内ガス使用箇所定期点検(イワタニ東海)	3月22日	ワゴン車整備点検(アクセスコーポレーション)
11月7日	エコドーム・テナガ舎・ギボンハウス エアコン設置(竹下電気)	3月28日	入園ゲート改修(白帝社)
11月7日	ヒヒの城櫓鉄柱溶接、バックヤード小型 ケージ溶接(所沢建築)	3月30日	事務所、KIDSZOO、アフリカセンター LPガスボンベ部品交換(イワタニ東海)
11月15日	ビジターセンター自動ドア定期点検 (ナブコドア)	3月30日	園内看板修正(中央工芸)
11月15日	ビジターセンターAED定期点検(ALSOK)	13. 施設修繕(自営作業)	
11月17日	飼料倉庫冷蔵庫部品交換(TOSHIBA)	2017年4月1日	
11月24日	バックヤード屋外収容棟ブルーヒーター 修理(中部技工)	リスザルの島デッキ柵修理、杭整備	
11月28日～12月8日	モンキーバレイ櫓改修(何でも屋今井)	4月14日	
12月6日	ビジターセンター裏給水ポンプ修理 (有川設備)	南米館中型舎檻溶接	
12月7日	トゥクトゥクブレーキランプ交換 (アクセスコーポレーション)	4月17日	
12月13日	高圧洗浄機清掃デモ(ケルヒャー)	ギボンハウス職員扉小窓格子溶接	
12月14日	バックヤード屋外収容棟ストーブ モーター交換(中部技工)	4月20日、21日	
12月16日	アフリカ館FA暖房修理(マルヨ住設)	リスザルの島デッキ柵修理、杭整備	
12月19日	アフリカセンター・南米館地下タンク 気密漏洩検査(今井設備)	4月24日、26日	
12月19日	園内ガス設備点検(イワタニ東海)	Waoランドデッキ手すり修理	
12月21日	ビジターセンター裏給水ポンプ修理 (有川設備)	4月28日	
12月23日	外周路竹撤去(シーキューブ)	アフリカ館檻溶接	
12月25日	アジア館通路コンセント交換(文化電気)	5月12日	
12月26日	消防設備点検(ALSOK)	アフリカ館檻溶接	
2018年1月16日～26日、29日	駐車場危険木伐採(何でも屋今井)	5月31日	
1月20日	ゴミ回収ボックス設置(所沢建築)	アフリカセンター屋外運動場フェンス溶接	
1月23日	南米館ホール蛍光灯本体交換(文化電気)	6月14日	
		Waoランド、Waoランド mini デッキ修理	
		6月15日	
		ヒヒの城寝室溶接修理	
		7月19日	
		モンキーバレイ土留め補修	
		8月1日	
		南米館檻、KIDSZOO扉ラッチ溶接	
		8月9日	
		アフリカセンター予備室、屋外フェンス など溶接	
		8月17日	
		アジア館檻溶接	
		8月19日	
		モンキーバレイ土留め補修	
		8月20日	
		ニホンザルの丘土留め補修	
		8月30日～9月1日	
		Waoランド、Waoランド mini デッキ修理	
		9月2日	
		アジア館檻溶接、ヒヒの城シュート溶断	
		9月4日、5日、14日	
		リスザルの島デッキ修理	
		9月7日	
		モンキーバレイ石上げ	
		9月10日	
		アフリカセンター屋内運動場鉄扉溶接	
		9月15日	
		アフリカ館檻溶接	
		9月30日	
		南米館中型舎檻溶接	

10月13日 リスザルの島デッキ修理
 10月14日 テナガ舎天井溶接
 10月15日 バックヤード収容棟壁付ケージ溶接
 10月16日 KIDSZOO メインデッキ入口部分修理
 10月17日 モンキーバレイ石上げ、土留め補修
 11月9日 南米館中型舎檻溶接
 11月9日 モンキーバレイ土留め補修、フェンス補強
 11月10日 Waoランド mini 放飼場檻、南米館中型舎檻溶接
 11月13日 南米館中型舎檻溶接
 11月23日 リスザルの島デッキ修理
 11月24日 アフリカセンター屋外運動場檻溶接
 12月5日 アフリカセンター屋外運動場檻溶接
 2018年1月1日 Waoランド mini 放飼場檻溶接
 1月15日 バックヤードケージ溶接
 1月16日 南米館中型舎扉溶接
 1月21日 Waoランド mini 放飼場檻溶接
 1月26日 リスザルの島外周デッキ修理
 1月26日 ニホンザルの丘支柱溶接
 1月30日～31日 アフリカ館檻溶接
 2月1日 アジア館檻溶接
 2月6日、19日、21日～23日 リスザルの島外周・内周デッキ修理
 2月21日 モンキーバレイ石上げ
 2月25日、26日、28日 アジア館檻溶接
 2月25日 Waoランド出入口溶接
 2月27日 Waoランド mini デッキ修理
 3月6日 Waoランド mini デッキ修理
 3月7日、14日、17日、20日 Waoランドデッキ修理
 3月7日 ヒビの城やぐら増設
 3月7日、15日、19日、29日、31日 モンキーバレイ土留め増設および補修
 3月14日 リスザルの島デッキ修理
 3月23日 南米館中型舎檻溶接

14. 京都造形芸術大学との連携

(1) ミーティングの実施

日程：2018年2月25日

会場：ビジターセンターなど

内容：卒業制作（園内施設案）のプレゼンテーション、意見交換など



15. その他

(1) 動物愛護管理法関係（愛知県動物保護管理センター）

- ① 第1種動物取扱業登録更新申請書の提出
2017年4月
- ② 特定動物飼養・保管増減届出書（平成28年度1月～3月分）の提出
2017年4月
- ③ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成29年度4月～6月分）、特定動物飼養・保管廃止届出書の提出
2017年7月
- ④ 特定動物飼養・保管変更許可申請書（13種）の提出
2017年7月
- ⑤ 特定動物飼養・保管廃止届出書（13種）の提出
2017年8月
- ⑤ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成29年度7月～9月分）の提出
2017年10月
- ⑥ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成27年度10月～12月分）の提出
2018年1月

(2) 外来生物法関係（環境省中部地方環境事務所）

- ① 特定外来生物飼養状況届出書の提出
2017年6月

(3) 家畜伝染病予防法関係

- ① 小規模所有者定期報告書の提出（愛知西部家畜保健衛生所尾張支所）
2017年4月

(4) 獣医療法関係

- ① 動物病院遺漏エックス線線量当量率測定の実施（テクノ中部）
2017年8月・2018年2月

(6) 麻薬及び向精神薬取締法関係

- ① 年間麻薬譲渡譲受届の提出（麻薬研究者分・麻薬施用者分）（愛知県健康福祉部健康担当局医薬安全課および江南保健所）
2017年11月
- ② 年間向精神薬輸入・輸出・製造届の提出（愛知県江南保健所）
2018年2月

(7) 銃砲刀剣類所持等取締法関係

- ① 麻酔銃検査（犬山警察署生活安全課）
2017年4月

(8) 研究会、講演会の開催

1. 研究会の開催

(1) 第 62 回プリマーテス研究会の開催

日程：2018 年 1 月 27 日・1 月 28 日

参加者：約 150 名（所員含む）

会場：ビジターセンターホール（口頭発表）、
無料休憩所（ポスター発表）

発表賞

最優秀口頭発表賞（日本語発表）：

田中陽介（（公財）東京動物園協会恩賜上野動物園）

最優秀英語発表賞（英語発表）：

Yuri Kawaguchi (Primate Research Institute, Kyoto University)

最優秀ポスター発表賞：

Xiaochan Yan (Primate Research Institute, Kyoto University)

最優秀中高生発表賞：

安藤萌百加，岡田望，濱田祐梨子，足立恭果，平川歩，
近藤紫，近藤優羽，大久保直美（南山高等・中学校
女子部 JST 中高生の科学研究実践活動推進プログラム
霊長類学入門）

優秀口頭発表賞（日本語発表）：

木村直人（（公財）日本モンキーセンター）

峠明杜（京都大学霊長類研究所）

優秀口頭発表賞（英語発表）：

Kanthi Arum Widayati (Department of Biology, Bogor Agricultural University)

Jie Gao (Primate Research Institute, Kyoto University)

優秀ポスター発表賞：

田中ちぐさ（（公財）日本モンキーセンター）

仲井理沙子（京都大学霊長類研究所）

優秀中高生発表賞：

岸本馨佳，守谷優香，池田智遥（北野高等学校）

発表賞審査委員会

松沢哲郎（日本モンキーセンター所長，京都大学高等
研究院）

伊谷原一（日本モンキーセンター附属動物園長，
京都大学野生動物研究センター）

友永雅己（日本モンキーセンター学術部長，京都大学
霊長類研究所）

河村正二（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

中道正之（大阪大学人間科学研究科）

今井啓雄（京都大学霊長類研究所）

プログラム

2018 年 1 月 27 日（土）

10:00 開会挨拶

10:10 ～ 10:55 口頭発表①

O-1 キツネザル類における苦味受容体 TAS2R16 の機能

○糸井川壮大¹，早川卓志^{1,2}，鈴木・橋戸南美¹，
今井啓雄¹（¹ 京都大学霊長類研究所，²（公財）日
本モンキーセンター）

O-2 飼育下レッサースローロリスへのアラビアガム

給餌に伴う腸内細菌叢変動

○松島慶¹，山梨裕美^{1,2}，奥村文彦^{3,4}，廣澤麻里^{1,3}，
藤森唯³，寺尾由美子³，佐藤良⁵，西野雅之⁵，
土田さやか⁶，牛田一成⁷，早川卓志^{3,4}（¹ 京都大学
野生動物研究センター，² 京都市動物園生き物・学び・
研究センター，³（公財）日本モンキーセンター，
⁴ 京都大学霊長類研究所，⁵ 三栄源エフ・エフ・アイ
株式会社，⁶ 京都府立大学，⁷ 中部大学）

O-3 行動観察と糞中 DNA 分析から探る森林棲

オナガザル属（*Cercopithecus*）3 種の昆虫食

○峠明杜¹，早川卓志^{1,2}，岡本宗裕¹，橋本千絵¹，
湯本貴和¹（¹ 京都大学霊長類研究所，²（公財）
日本モンキーセンター）

10:55 ～ 11:10 休憩

11:10 ～ 12:10 口頭発表②

O-4 京都市動物園における霊長類学初歩実習：北野高等
学校の取り組み V-A

「チンパンジーの社会関係」「ゴリラの社会関係」

○岸本馨佳¹，○守谷優香¹，○池田智遥¹，七五三木環²，
横山実玖歩³，南俊行⁴，瀧山拓哉⁵，川口ゆり⁵
（¹ 北野高等学校，² 京都大学農学部，³ 京都大学
総合人間学部，⁴ 京都大学教育学部，⁵ 京都大学
霊長類研究所）

O-5 京都市動物園における霊長類学初歩実習：北野高等
学校の取り組み V-B

「マンドリルの移動」「マンドリルの行動の変化」

○崎原理瑚¹，○西村奈都¹，○今西真志¹，七五三木環²，
横山実玖歩³，南俊行⁴，瀧山拓哉⁵，川口ゆり⁵
（¹ 北野高等学校，² 京都大学農学部，³ 京都大学
総合人間学部，⁴ 京都大学教育学部，⁵ 京都大学
霊長類研究所）

O-6 京都市動物園における霊長類学初歩実習：関西大倉
高等学校の取り組み V-A

「母親から見るマンドリルの家族関係」「マンドリル
の母子関係」

○太田帆風¹，○松木海登¹，七五三木環²，横山実玖歩³，
南俊行⁴，瀧山拓哉⁵，川口ゆり⁵（¹ 関西大倉高等学校，
² 京都大学農学部，³ 京都大学総合人間学部，⁴ 京都
大学教育学部，⁵ 京都大学霊長類研究所）

- O-7 京都市動物園における霊長類学初歩実習：関西大倉高等学校の取り組み V-B
「コドモ個体を含む接触から見たマンドリルの個体間関係」
「マンドリルにおける父個体と各個体の個体間関係」
○八尾萌江¹，○杉本和奏¹，七五三木環²，横山実玖歩³，南俊行⁴，瀧山拓哉⁵，川口ゆり⁵（¹ 関西大倉高等学校，² 京都大学農学部，³ 京都大学総合人間学部，⁴ 京都大学教育学部，⁵ 京都大学霊長類研究所）

12:10 ~ 13:30 休憩

13:30 ~ 14:45 口頭発表③

- O-8 カメラトラップを用いて確認された、ダナムパレイ森林保護区における中大型哺乳類相と一斉結実による影響
○金森朝子¹，久世濃子²，Henry Bernard³，Peter T. Malim⁴，半谷吾郎¹，幸島司郎⁵（¹ 京都大学霊長類研究所，² 国立科学博物館人類研究部，³ マレーシア・サバ大学，⁴ サバ野生生物局，⁵ 京都大学野生動物研究センター）

- O-9 森林-サバンナ混交環境に住むボノボ：新しい野生ボノボ調査地の開拓と展望
○山本真也¹，新宅勇太^{2,3}，伊谷原一^{2,3}（¹ 京都大学高等研究院，² 京都大学野生動物研究センター，³ （公財）日本モンキーセンター）

- O-10 和歌山で野生化したタイワンザルの群れの根絶和歌山タイワンザルワーキンググループ
（口頭発表者：川本芳（京都大学霊長類研究所））

- O-11 飼育下アイアイの出生性比に影響する要因
○田中陽介¹，深野祐也²，中村壮登¹（¹ （公財）東京動物園協会恩賜上野動物園，² 東京大学大学院農学生命科学研究科）

- O-12 イヌ用体脂肪計を用いて測定したサル類の体サイズ別・サル種別体脂肪率と栄養管理目標の策定について
○木村直人¹，寺尾由美子¹，鏡味芳宏¹，東峯万葉¹，廣澤麻里^{1,2}，岡部直樹^{1,2}，新宅勇太^{1,2}，伊谷原一^{1,2}（¹ （公財）日本モンキーセンター，² 京都大学野生動物研究センター）

14:45 ~ 15:00 休憩

15:00 ~ 16:00 口頭発表④

- O-13 Predicting pathogen transmission in primate networks
○ Valéria Romano¹，Cédric Sueur^{2,3}，Andrew JJ MacIntosh¹（¹ Primate Research Institute, Kyoto University，² Institut Pluridisciplinaire Hubert CURIEN, Université de Strasbourg，³ Département Ecologie, Physiologie et Ethologie, Centre National de la Recherche Scientifique）

- O-14 Peripartum glucocorticoid levels in a case of dead infant carrying in Japanese macaques
○ Rafaela S. C. Takeshita¹，Michael A. Huffman¹，Kodzue Kinoshita²，Fred B. Bercovitch²（¹ Primate Research Institute, Kyoto University，² Wildlife Research Center, Kyoto University）

- O-15 Landscape change effects on primate communities in Colombian Llanos
○ Xyomara Carretero-Pinzón^{1,2}（¹ Zocay Project，² Chubu University）

- O-16 Species identification for isolated macaque teeth, using 3D geometric morphometric method
○ Mao Asami，Masanaru Takai（Primate Research Institute, Kyoto University）

16:00 ~ 16:15 休憩

16:15 ~ 17:00 口頭発表⑤

- O-17 Gaze pattern for adult and infant faces in chimpanzees
○ Yuri Kawaguchi¹，Fumihiko Kano²，Masaki Tomonaga¹（¹ Primate Research Institute, Kyoto University，² Wildlife Research Center, Kyoto University）

- O-18 The body inversion effect in chimpanzees (*Pan troglodytes*)
○ Jie Gao，Masaki Tomonaga（Primate Research Institute, Kyoto University）

- O-19 Touch-panel tasks for zoo-housed primates: new hardware and software solutions
○ Christopher Flynn Martin（Department of Life Sciences, Indianapolis Zoo）

17:00 ~ 18:30 ポスターセッション

2018年1月28日（日）

10:00 ~ 10:45 口頭発表⑥

- O-20 事後アンケートから見てきたレクチャーの評価と改善点
○阪倉若菜，東峯万葉，江藤彩子，赤見理恵，高野智（（公財）日本モンキーセンター）

- O-21 公益財団法人日本モンキーセンターでの研究実践活動「リスザルの島」ボリビアリスザルのアカンボウの成長と他個体との関わり
「Wao ランド」ワオキツネザルの活動時間割合およびその季節変化
○安藤萌百加，○岡田望，○濱田祐梨子，足立恭果，○平川歩，近藤紫，近藤優羽，大久保直美（南山高等・中学校女子部 JST 中高生の科学研究実践活動推進プログラム 霊長類学入門）

- O-22 JMC 飼育レッサースローロリス口腔内の歯周病原性細菌叢の網羅的探索およびその空間的変異と経時的変化
○矢野航¹, 清水大輔², 寺尾由美子³, 岡部直樹³, 早川卓志^{3,4} (¹ 朝日大学歯学部, ² 中部学院大学リハビリテーション学部, ³ (公財) 日本モンキーセンター, ⁴ 京都大学霊長類研究所)

10:45 ~ 11:00 休憩

11:00 ~ 12:00 口頭発表⑦

- O-23 Genetic background of the gustation in a specialized arboreal folivore, koala
○ Takashi Hayakawa^{1,2}, Don Colgan³, Rebecca N. Johnson^{3,4}, Katherine Belov⁴ (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Japan Monkey Centre, ³Australian Museum Research Institute, Australian Museum, ⁴Faculty of Science, The University of Sydney)
- O-24 Characterization of the TAS2R38 bitter taste receptor for phenylthiocarbamide (PTC) of *Macaca tonkeana* and *M. hecki*
○ Kanthi Arum Widayati¹, Yan Xiaochan², Nami Suzuki-Hashido², Laurentia Henrieta Permita Sari Purba¹, Fahri Bajebur³, Bambang Suryobroto¹, Yohey Terai⁴, Hiroo Imai² (¹Department of Biology, Bogor Agricultural University, ²Primate Research Institute, Kyoto University, ³Department of Biology, Tadulako University, ⁴Department of Evolutionary Studies of Biosystems, The Graduate University for Advanced Studies)
- O-25 Sweet taste sensitivity of colobine monkeys
○ Emiko Nishi¹, Nami Suzuki-Hashido¹, Takashi Hayakawa^{1,2}, Yamato Tsuji¹, Bambang Suryobroto³, Hiroo Imai¹ (¹Primates Research Institute, Kyoto University, ²Japan Monkey Centre, ³Department of Biology, Bogor Agricultural University)
- O-26 Divergent evolution of olfactory and taste receptor repertoire in New World monkeys
○ Shoji Kawamura (Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo)

ポスターセッション

- P-1 香草を用いた採食エンリッチメントの効果の検討
○阿野隆平¹, 鏡味芳宏¹, 半田希¹, 綿貫宏史朗^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学霊長類研究所)
- P-2 スローロリスの同居によるネストの使用状況と社会的行動の分析
○土性亮賀¹, 根本慧¹, 堀込亮意¹, 綿貫宏史朗^{1,2}, 山梨裕美³ (¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学霊長類研究所, ³ 京都市動物園)

- P-3 2017 年度タンザニア生息地研修報告
○江藤彩子, 木村直人 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-4 ブタオザル (*Macaca nemestrina*) の脱毛改善に向けて
○舟橋昂, 星野智紀 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-5 飼料変更が小型マカク類へどのような影響を及ぼすか
○舟橋昂, 星野智紀 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-6 Development of combinatory manipulation and tool use in great apes and humans
○ Misato Hayashi¹, Hideko Takeshita² (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Otemon Gakuin University)
- P-7 単独飼育個体の福祉向上を目的とした取り組み ~テナガザルにおける異種ペア 2 事例~
○石田崇斗¹, 山田将也¹, 打越万喜子^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学霊長類研究所)
- P-8 非ヒト霊長類における精巣の生後発育を制御する遺伝子群の特定
○黒木康太, 今村公紀 (京都大学霊長類研究所)
- P-9 miRNA analysis of various crab-eating monkey tissues
○ Hee-Eun Lee^{1,2}, Jae-Won Huh^{3,4}, Heui-Soo Kim^{1,2} (¹College of Natural Sciences, Pusan National University, ²Genetic Engineering Institute, Pusan National University, ³National Primate Research Center, Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology, ⁴Department of Functional Genomics, KRIBB School of Bioscience, Korea University of Science and Technology)
- P-10 Gut microbe shift of Japanese macaques as a result of human encroachment
○ Wanyi Lee¹, Takashi Hayakawa^{1,2}, Naoto Yamabata³, Mieko Kiyono⁴, Goro Hanya¹ (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Japan Monkey Centre, ³Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo, ⁴Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University)

- P-11 育児放棄されたハヌマンランゲールの社会関係形成過程について
○元永康誠¹, 大塚碧斗¹, 加藤理子¹, 宮島聡汰¹, 川出比香里², 木村嘉孝², 伊藤秀一³ (¹ 山口県立宇部高等学校, ² 宇部市ときわ動物園, ³ 東海大学農学部)
- P-12 チンパンジー iPS 細胞を用いた神経幹細胞の分化誘導と発生動態の解明
○仲井理沙子¹, 北島龍之介¹, 馬場庸平², 平井啓久¹, 今井啓雄¹, 岡野栄之², 今村公紀¹ (¹ 京都大学霊長類研究所, ² 慶應義塾大学医学部)

- P-13 スローロリス保全センターの開設とレッサースローロリス飼育環境改善
○根本慧¹, 土性亮賀¹, 大島悠輝¹, 堀込亮意¹, 山梨裕美², 綿貫宏史朗³, 寺尾由美子¹, 鏡味芳宏¹
(¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都市動物園, ³ 京都大学霊長類研究所)
- P-14 霊長類子供期に特有な生殖細胞の運命決定と分子機構
○岡田佐和子¹, 伊藤達矢¹, 黒木康太¹, 新明洋平², 川崎洋志², 佐々木えりか³, 今村公紀¹ (¹ 京都大学霊長類研究所, ² 金沢大学, ³ 実験動物中央研究所)
- P-15 野生ボノボの森林内高さ利用における集団内個体差
○岡村弘樹, 古市剛史 (京都大学霊長類研究所)
- P-16 日本モンキーセンターにおける飼料の見直し
～品目数の増加を目指して～
○奥村太基, 星野智紀, 土性亮賀, 今井由香, 安倍由里香 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-17 京大モンキーキャンパス受講生有志によるボルネオ研修旅行
○大西一¹, 大西美香子¹, 甲田彰¹, 甲田真佐枝¹, 西野雅美¹, 小山雅弘¹, 小山倫理子¹, 熊澤満直¹, 田中茂平¹, 田島明¹, 中村千晶¹, 石田崇斗², 赤見理恵² (¹ 日本モンキーセンター友の会, ² (公財) 日本モンキーセンター)
- P-18 アヌビスヒビにおける床材の種類による探索行動をする個体数の変化
○大島悠輝¹, 荒木謙太¹, 綿貫宏史朗^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学霊長類研究所)
- P-19 野生ウマ群のハーディング行動におけるオスとメスの行動調整
○リングホーファー萌奈美¹, Clark Kendrick C. Go², 越智咲穂³, 井上漱太⁴, Renata S. Mendonça⁵, 平田聡⁴, 久保孝富², 池田和司², 山本真也¹
(¹ 京都大学高等研究院, ² 奈良先端科学技術大学院大学, ³ 神戸大学発達科学部, ⁴ 京都大学野生動物研究センター, ⁵ 京都大学霊長類研究所)
- P-20 お好きな席へどうぞ?～チンパンジーのお勉強における場所をめぐる駆け引き～
○櫻庭陽子^{1,2}, 田中正之^{1,2} (¹ 京都市動物園生き物・学び・研究センター, ² 京都大学野生動物研究センター)
- P-21 Chimpanzees' attention to a wounded individual: an eye tracking experiment
○ Yutaro Sato, Fumihiro Kano, Satoshi Hirata (Wildlife Research Center, Kyoto University)
- P-22 アビシニアコロブスのコドモの成長に伴う行動変化
○竹内康江¹, 田中寿美¹, 片岡まみ¹, 奥村太基², 赤見理恵² (¹ モンキーセンター友の会, ² (公財) 日本モンキーセンター)
- P-23 妨害刺激と標的刺激の提示時間差がチンパンジー (*Pan troglodytes*) とヒト (*Homo sapience*) の音源定位能力に与える影響
○瀧山拓哉, 服部裕子, 友永雅己 (京都大学霊長類研究所)
- P-24 続・飼育下キツネザルの夜間行動
○田中ちぐさ¹, 坂口真悟¹, 早川卓志^{1,2}, 松田一希^{1,3}
(¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学霊長類研究所, ³ 中部大学創発学術院)
- P-25 アパートタイプの施設での飼育改善の取り組み
～アフリカ館の1年～
○辻内祐美, 奥村太基 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-26 アドバイザーとしてモンキーセンターに関わった3年間
○打越万喜子^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学霊長類研究所)
- P-27 霊長渡来考(時代区分編)
○綿貫宏史朗^{1,2} (¹ 京都大学霊長類研究所, ² (公財) 日本モンキーセンター)
- P-28 Exploring attentional bias in chimpanzees using the dot probe task
○ Duncan A. Wilson, Masaki Tomonaga (Primate Research Institute, Kyoto University)



参加者集合写真 (2018 年 1 月 27 日撮影)

- P-29 日本モンキーセンターのヤクニホンザル群で観察された枝使い行動について
○山田将也¹, 石田崇斗¹, 新宅勇太^{1,2} (¹(公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学野生動物研究センター)
- P-30 The temporal characteristics of caregiver-child verbal interactions
○Yuko Yamashita¹, David Hirsh² (¹Shibaura Institute of Technology, ²University of Sydney)
- P-31 Species-specific mutation of two species of Sulawesi macaques
○Xiaochan Yan¹, Kanthi Arum Widayat², Bambang Suryobroto², Yohey Terai³, Hiroo Imai¹ (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Department of Biology, Bogor Agricultural University, ³Department of Evolutionary Studies of Biosystems, The Graduate University for Advanced Studies)
- P-32 Study for microorganisms derived from primates and evaluation of possibility as enzyme sources
○Kensuke Yuki¹, Kinya Washizu¹, Satoshi Koikeda¹, Takashi Hayakawa^{2,3} (¹Amano Enzyme Inc., ²Primate Research Institute, Kyoto University, ³Japan Monkey Centre)
- P-33 タロウさんに、もっと楽しんでもらいたい！
～京大モンキーキャンパス・エンリッチメントサークル 2 年目の活動～
○中村千晶¹, 井川雄太¹, 後藤齊¹, 綿貫宏史朗², 赤見理恵² (¹日本モンキーセンター友の会, ²(公財) 日本モンキーセンター)
- P-34 オランウータン・ジブシーの歯周組織検査
○中村千晶^{1,2}, 矢野航³, 久世濃子^{2,4,5} (¹チアキデンタルクリニック, ²日本オランウータン・リサーチセンター, ³朝日大学, ⁴国立科学博物館, ⁵日本学術振興会)
- P-35 飼育下チンパンジーの群れにおける個体の多様性の意義
○藤森唯¹, 廣澤麻里^{1,2} (¹(公財) 日本モンキーセンター, ² 京都大学野生動物研究センター)

(2) プリマーテス研究会の推移

発表数

回次	59	60	61	62
口頭発表	29	25	22	27
ポスター発表	34	30	43	35

発表者属性

回次	59	60	61	62
大学・研究関係	46	41	40	33
JMC 職員	19	14	19	18
中高生	0	1	5	6
その他(動物園等)	3	3	6	9
外国人研究者	14	7	14	10

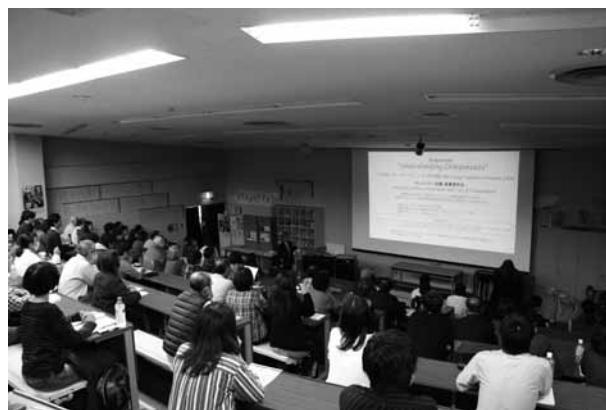
(発表者が京都大学・JMC 両方に所属する場合、両方に加えた。)

2. 講演会の開催

- (1) 成年講演会「ヒトとイヌ、共生がうんだ特別な関係」
講師：菊水健史(麻布大学)
後援：京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
科学研究費補助金基盤研究(S)「野生の認知科学」
日時：2018 年 1 月 8 日
場所：ビジターセンターホール

3. 研究会の共催

- (1) 第 20 回アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い (SAGA20)
主催：アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い
共催：公益財団法人日本モンキーセンター
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
後援：(公社) 日本動物園水族館協会、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会、京都大学霊長類研究所、京都大学野生動物研究センター、中部大学創発学術院、中部学院大学、京都造形芸術大学文明哲学研究所
日程：2017 年 11 月 4 日～5 日
参加者：約 250 名
会場：ビジターセンターホール(講演)
ビジターセンター内展示場(ブース)
無料休憩所(ポスター発表)
食事処「楽猿」(懇親会)
内容：講演 21 件、ポスター発表 58 件、ブース 9 件



SAGA シンポジウム講演風景

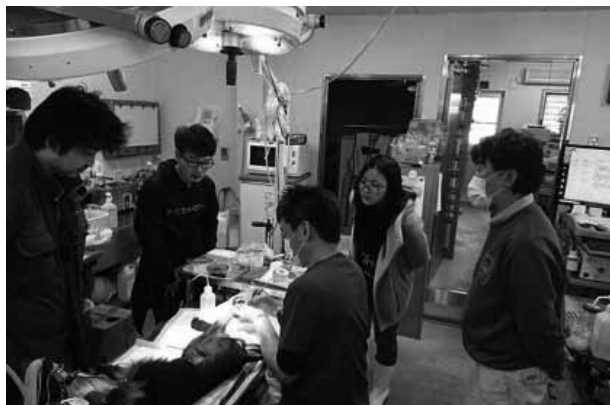
4. 研究会の受入

- (1) The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science
主催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
日程：2017 年 9 月 26 日～9 月 28 日
会場：ビジターセンター
- (2) 平成 29 年度 京都大学 霊長類研究所 共同利用研究会「先端技術の導入による霊長類脳科学の進展と新たな概念の創出」
主催：京都大学霊長類研究所
日程：2018 年 2 月 23 日～2 月 24 日
会場：ビジターセンターホール

(9) 展示、保全、環境教育及び 社会普及活動に関わる人材の育成

1. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・ リーディング大学院実習・セミナー

- (1) インターラボ
内容：レクチャー、バックヤード見学、園内見学
日程：2017年4月9日 学生41名、引率1名
- (2) 動物園・博物館実習
内容：レクチャー、エンリッチメント実習、飼育実習、
解剖見学、標本実習、教育プログラム見学、
来園者調査、獣医療見学 など
前期：2017年7月8日～7月10日 10名
後期：2018年2月2日～2月4日 2名
- (3) ブッダセミナー「ワークショップ:科学コミュニケーション」
日程：2017年7月23日 12名(職員4名含む)



後期動物園・博物館実習（獣医療見学）

2. 飼育研修の受け入れ 計11名

- (1) 大宮動物国際専門学校
2017年6月12日～6月25日 2年生1名
- (2) 麻布大学獣医学部動物応用科学科
2017年8月11日～8月24日 3年生1名
- (3) 帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科
2017年8月16日～8月29日 2年生1名
- (4) 岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科
2017年9月4日～9月17日 5年生1名
- (5) 大阪ECO動物海洋専門学校エココミュニケーション科
2017年9月21日～10月4日 2年生1名
- (6) 東京動物専門学校動物管理科
2017年10月18日～11月16日 2年生2名
- (7) AWS動物学院野生動物管理科
2017年12月17日～12月31日 1年生1名
- (8) 名古屋コミュニケーションアート専門学校
エココミュニケーション科
2017年12月15日～2018年1月7日 1年生2名
2018年3月1日～3月14日 1年生1名

3. 職場体験・インターンシップの受け入れ 計8件29名

- (1) 大口町立大口中学校 職場体験
2017年6月21日～6月23日 2年生4名
- (2) 岐阜県立加茂農林高校 職場体験
2017年7月27日～7月29日 2年生2名
- (3) 扶桑町立扶桑中学校 職場体験
2017年8月3日～8月4日 2年生5名
- (4) 岐阜県立岐阜農林高校 職場体験
2017年8月14日～8月16日 2年生1名
- (5) 愛知県立古知野高校 職場体験
2017年8月17日～8月18日 2年生4名
- (6) 愛知県立犬山南高校 職場体験
2017年8月24日～8月25日 1年生5名、2年生2名
- (7) 各務原市立鷺沼中学校 職場体験
2017年10月18日～10月19日 2年生4名
- (8) 犬山市立犬山中学校
2017年10月18日～10月19日 2年生2名

4. 博物館実習の受け入れ 計8校17名

- (1) 東京農業大学農学部
2017年5月2日～5月13日 4年生1名
- (2) 帝京科学大学生命環境学部
2017年7月20日～7月31日 4年生1名
2017年10月4日～10月15日 4年生1名
- (3) 愛知教育大学教育学部
2017年7月22日～8月2日 4年生1名
2017年8月17日～8月28日 4年生2名
2017年8月24日～9月4日 4年生1名
2017年9月7日～9月18日 4年生2名
2017年9月21日～10月2日 4年生1名
2017年10月12日～10月23日 4年生1名
- (4) 名城大学農学部
2017年8月1日～8月12日 4年生1名
- (5) 愛知学院大学文学部
2017年8月10日～8月21日 4年生2名
- (6) 名古屋芸術大学デザイン学部
2017年9月7日～9月18日 4年生1名
- (7) 東京学芸大学教育学部
2017年10月4日～10月15日 4年生1名
- (8) 聖徳大学通信教育部文学部
2017年12月14日～12月25日 4年生1名

5. 教員研修の受け入れ 計1校2名

- (1) 江南市立北部中学校（10年経験者研修）
2017年7月24日～7月26日 1名
2017年8月4日、8月5日、8月9日 1名

(10) その他

1. 友の会

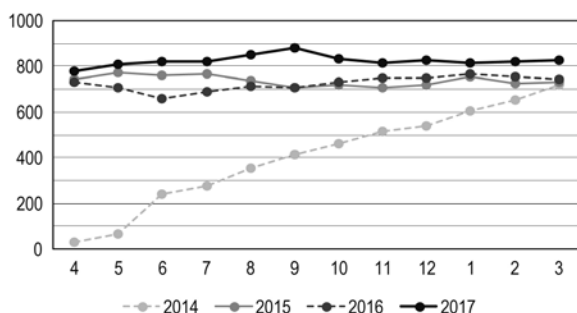
2017 年 4 月 2 日よりオンライン登録を主とした
新システムへと移行、サポート会員の新設

会員数：825 名（2018 年 3 月 31 日時点）

うち、サポート会員 124 名

年会費：サポート会員	5,000 円以上
大人（高校生以上）	3,000 円
小中学生	2,000 円
幼児（3 才以上）	1,500 円

友の会 月別会員数



(1) モンキーセンター友の会 NEWS LETTER の発行

Vol. 4-1 (通巻第 7 号) 2017 年 9 月 15 日 発行

Vol. 4-2 (通巻第 8 号) 2018 年 3 月 10 日 発行

(2) 友の会のつどいの開催

① 第 6 回

日程：2017 年 4 月 2 日 10:00 ～ 16:00

内容：講演「互いを思いやる心の進化」

松沢哲郎（JMC 所長、京都大学特別教授）

JMC 活動報告

京大モンキーキャンパスサークル活動報告

飼料寄附報告 星野智紀

保全活動報告 新宅勇太

タイ海外生息地研修 寺尾由美子

わくわく JMC ガイド

1) 「ここも JMC の一部！？ 継鹿尾山登山会」

友永雅己、赤見恵

2) 「園内みどころ見学ツアー」 早川卓志

3) 「筋系解剖：本物から学ぶ骨と筋肉の

はたらき」 高野智

4) 「復活！！ JMC 園内の野鳥観察会」

綿貫宏史朗

5) 「JMC 園内の爬虫類観察会」 大淵希郷

6) 「リスザルの島でカヌーにのろう！」

堀込亮意、根本慧、石田崇斗、大島悠輝

② 第 7 回

日程：2017 年 10 月 15 日 10:00 ～ 16:00

内容：講演「自然の猿を詠む」

尾池和夫（JMC 理事長、京都造形芸術大学学長）

JMC 活動報告

京大モンキーキャンパスサークル活動報告

保全活動報告

岡安直比

コロンビア海外生息地研修

藤森唯

アフリカセンター・チンパンジーの同居報告

廣澤麻里

茶話会



第 6 回友の会の集い 継鹿尾山登山

(3) サポーター専用ページの運用

2017 年 4 月 1 日より運用開始

2017 年度中に記事 62 本、写真 12 本を公開

連載 Mbali Mbaba Misato の掲載（記事数 46 本）

執筆：岡安直比、三砂ちづる、中村美穂

2. 会議・研修

(1) (公社) 日本動物園水族館協会

① 総務委員会倫理福祉部会

1. 倫理福祉部会

日程：2017 年 5 月 15 日

会場：日本動物園水族館協会会議室（東京都台東区）

木村直人

2. 倫理福祉部会ワークショップ

日時：2017 年 7 月 2 日～ 7 月 4 日

会場：天王寺動物園（大阪府天王寺区） 木村直人

3. 平成 29 年度第 1 回倫理福祉部会

日時：2018 年 1 月 23 日

会場：日本動物園水族館協会会議室（東京都台東区）

木村直人

② 生物多様性委員会

1. チンパンジー計画推進会議

日程：2017 年 6 月 26 日～ 6 月 27 日

会場：多摩動物公園（東京都多摩市） 廣澤麻里

2. テナガザル類計画推進会議および霊長類作業部会

日程：2017 年 11 月 15 日～ 11 月 16 日

会場：仙台市八木山動物公園（宮城県仙台市）

綿貫宏史朗、鏡味芳宏、廣澤麻里

3. 第 20 回種保存会議
 日程：2017 年 11 月 16 日～19 日
 会場：江陽グランドホテル、仙台市八木山動物公園
 （宮城県仙台市） 綿貫宏史朗、鏡味芳宏
4. 平成 29 年度第 2 回個体群管理講習会
 日程：2017 年 12 月 14 日～12 月 15 日
 会場：京都市動物園（京都府京都市） 田中ちぐさ
5. ロリス・マーモセット類、キツネザル類合同計画
 推進会議
 日程：2018 年 3 月 1 日～3 月 2 日
 会場：日本モンキーセンター（愛知県犬山市）
 綿貫宏史朗、鏡味芳宏、田中ちぐさ、根本慧

③ 教育普及委員会

1. 第 65 回動物園技術者研究会
 日程：2017 年 12 月 12 日～12 月 14 日
 会場：京都ブライトンホテル
 京都市動物園（京都府京都市） 田中ちぐさ

(2) (公社) 日本動物園水族館協会 中部ブロック協議会

① 中部ブロック獣医師研究会

1. 第 148 回獣医師研究会
 日程：2017 年 6 月 6 日～6 月 7 日
 会場：岡崎市東公園動物園（愛知県岡崎市）
 発表：症例報告、検査報告、剖検報告、
 動物の異動報告 岡部直樹

2. 第 150 回獣医師研究会
 日程：2017 年 12 月 6 日～12 月 7 日
 会場：名古屋市東山動物園（愛知県名古屋市）
 発表：症例報告、検査報告、剖検報告、
 動物の異動報告 岡部直樹

② 飼育技術者研修会

1. 第 114 回中部ブロック飼育技術者研修会
 日程：2017 年 6 月 14 日～6 月 15 日
 会場：すいとびあ江南（愛知県江南市）
 世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ
 岐阜県水産研究所（岐阜県各務原市） 大島悠輝

2. 第 113 回中部ブロック飼育技術者研修会
 日程：2017 年 11 月 21 日～11 月 22 日
 会場：豊橋総合動植物公園（愛知県豊橋市）
 奥村太基

(3) 愛知県博物館協会

- ① 平成 29 年度愛知県博物館協会総会
 日程：2017 年 6 月 8 日
 会場：名古屋市博物館（愛知県名古屋市） 高野智
- ② 平成 29 年度愛知県博物館等職員研修会ならびに
 第 42 回東海三県博物館協会研究交流会
 日程：2017 年 11 月 7 日
 会場：名古屋市博物館（愛知県名古屋市）
 高野智

(4) 平成 29 年度 PRI-JMC-KS 獣医師合同カンファレンス

① 第 1 回合同カンファレンス

- 日程：2017 年 5 月 12 日
 場所：セミナーハウス白帝（TV 会議）
 症例報告：ケナガクモザルの骨折治療と術後管理に
 ついて（木村、岡部） 木村直人、岡部直樹

② 第 2 回合同カンファレンス

- 日程：2017 年 6 月 23 日
 場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
 症例報告：ヤクシマザルの急性鼓脹について（木村、岡部）
 ハヌマンラングールの胃拡張について
 ワオキツネザルの角膜潰瘍について
 （岡部、木村）
 木村直人、岡部直樹

③ 第 3 回合同カンファレンス

- 日程：2017 年 8 月 10 日
 場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
 症例報告：エリマキキツネザルの尿道結石について
 アカテタマリンの若木多発骨折について
 （木村、岡部）
 木村直人、岡部直樹

④ 第 4 回合同カンファレンス

- 日程：2017 年 10 月 20 日
 場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
 症例報告：チベットモンキーの回盲部重積について
 （木村、岡部）
 ニホンザルの中耳炎について
 カニクイザルの陰茎絞扼について
 （岡部、木村）
 木村直人、岡部直樹

⑤ 第 5 回合同カンファレンス

- 日程：2017 年 12 月 8 日
 場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
 症例報告：エリマキキツネザルの胆汁性腹膜炎について
 （木村、岡部）
 木村直人、岡部直樹

⑥ 第 6 回合同カンファレンス

- 日程：2018 年 1 月 26 日
 場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
 症例報告：パタスモンキーの敗血症について
 （木村、岡部）
 レッサースローロリスの精巣腫瘍について
 ヤクニホンザルの脾臓腫大について
 ワオキツネザルの陰部浮腫について
 （岡部、木村）
 木村直人、岡部直樹

⑦ 第 7 回合同カンファレンス

- 日程：2018 年 3 月 9 日
 場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
 症例報告：アカゲザルの鼠経ヘルニアについて
 （木村、岡部）
 木村直人、岡部直樹

(5) PRI-JMC 検討委員会

- ① 第 24 回 PRI-JMC 検討委員会 2017 年 5 月 8 日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- ② 第 25 回 PRI-JMC 検討委員会 2017 年 7 月 10 日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- ③ 第 26 回 PRI-JMC 検討委員会 2017 年 7 月 10 日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- ④ 第 27 回 PRI-JMC 検討委員会 2017 年 9 月 28 日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- ⑤ 第 28 回 PRI-JMC 検討委員会 2017 年 11 月 29 日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志
- ⑥ 第 29 回 PRI-JMC 検討委員会 2018 年 1 月 31 日
松沢哲郎、伊谷原一、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志

3. 広告

15 秒のテレビ CM を出稿（10 月～12 月、3 月）
計 28 回放送
制作：(株) たき C1
制作協力：ワイルドサマーキャンプ参加者

4. 社会貢献

- ① 社会福祉法人 溢愛館 招待企画
日程：2017 年 12 月 17 日
招待者：41 名
内容：昼食会・ゲーム大会（楽猿）
園内での体験イベント（ドローン、カヌーなど）

5. その他

- ① 京都大学技術職員専門研修（業務継続計画 BCP）
日程：2017 年 5 月 19 日
場所：京都大学霊長類研究所
赤見理恵、早川卓志、大瀨希郷、田中ちぐさ
星野智紀、根本慧、山田将也、市野悦子、小泉有希
- ② 宮島ニホンザル調査
日程：2017 年 6 月 7 日～6 月 9 日
場所：宮島（広島県廿日市市）
伊谷原一、早川卓志、根本慧、荒木謙太
- ③ 京都大学霊長類研究所チンパンジー放飼場植樹見学
日程：2017 年 6 月 15 日
場所：京都大学霊長類研究所
阪倉若菜、舟橋昂

- ④ 危険物取扱者講習
日程：2017 年 6 月 28 日
場所：稲沢市民会館（愛知県稲沢市） 堀込亮意
- ⑤ 公正採用選考人権啓発推進員研修会
日程：2017 年 8 月 25 日
場所：小牧勤労センター（愛知県小牧市） 木村直人
- ⑥ WRC 連携園館連絡会議
日程：2017 年 10 月 12 日
場所：京都大学野生動物研究センター（京都府京都市）
伊谷原一、友永雅己、赤見理恵
- ⑦ 動物取扱責任者研修
日程：2017 年 10 月 27 日
場所：稲沢市民会館（愛知県稲沢市） 木村直人
- ⑧ 霊長類研究所病理カンファレンス
日程：2017 年 10 月 27 日
場所：京都大学霊長類研究所（愛知県犬山市）
岡部直樹
- ⑨ 京都大学霊長類研究所チンパンジー逃走防止訓練見学
日程：2017 年 11 月 22 日
場所：京都大学霊長類研究所（愛知県犬山市）
坂口真悟、星野智紀、山田将也
- ⑩ 甲種防火管理者講習
日程：2017 年 12 月 6 日～12 月 7 日
会場：扶桑町総合体育館（愛知県扶桑町） 星野智紀
- ⑪ サルの取扱者に対する検疫・安全講習会
日程：2017 年 12 月 13 日
会場：関西国際空港 CIQ 合同庁舎（大阪府泉佐野市）
星野智紀、寺尾由美子
- ⑫ 宮島ニホンザル調査
日程：2018 年 1 月 30 日～2 月 1 日
場所：宮島（広島県廿日市市） 根本慧、大島悠輝
- ⑬ B ウイルスセミナー
日程：2018 年 1 月 31 日
場所：京都大学霊長類研究所（愛知県犬山市）
木村直人、綿貫宏史朗、岡部直樹、
鏡味芳宏、阿野隆平
- ⑭ 犬山シティーマラソン参加
日程：2018 年 2 月 11 日 石田崇斗、阿野隆平
- ⑮ PWS ブッダセミナー / 京都大学霊長類研究所・所内
談話会 「国境を越えて ―野生動物研究者が避けて
通れない法律の話」
日程：2018 年 2 月 27 日
場所：京都大学霊長類研究所
友永雅己、木村直人、高野智、
赤見理恵、新宅勇太、早川卓志
- ⑯ 獣医師研修会
日程：2018 年 3 月 8 日
場所：（京都府京都市） 岡部直樹
- ⑰ エコー研修
日程：2018 年 3 月 13 日
場所：京都大学霊長類研究所（愛知県犬山市）
岡部直樹

II 収益事業

(1) 動物園における物品並びに飲食物販事業

1. ミュージアムショップの運営

場所： ビジターセンター内
取扱商品： 書籍、民俗民芸品、美術作品、
 オリジナル雑貨、菓子類、委託販売品等
新規商品の開発：新デザインソックス
 キツネザルタオル
 (キツネザルフェスティバル記念)



2. オリジナルピンバッジの作成

全4種：ボノボ、ニシゴリラ、ボリピアリスザル、
 ワオキツネザル
カプセル自動販売機にて販売（ビジターセンターおよび
入園ゲートに設置）

3. 自動販売機の設置

オリジナルラッピングを施した自動販売機を
園内15か所に設置

(2) 所有する土地・建物の賃貸事業

1. 犬山市大字犬山字官林他 土地建物

賃貸先：京都大学
目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究

2. 犬山市大字栗栖字古屋敷他 土地建物

賃貸先：京都大学
目的：霊長類の研究施設

3. 犬山市大字善師野字小野洞他 土地

賃貸先：京都大学
目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究

4. 犬山市大字犬山字官林（JMC管理棟）建物

賃貸先：京都大学
目的：教育等

5. 犬山市大字犬山字官林（JMC管理棟）建物

賃貸先：（株）名鉄インプレス
目的：日本モンキーパークの運営

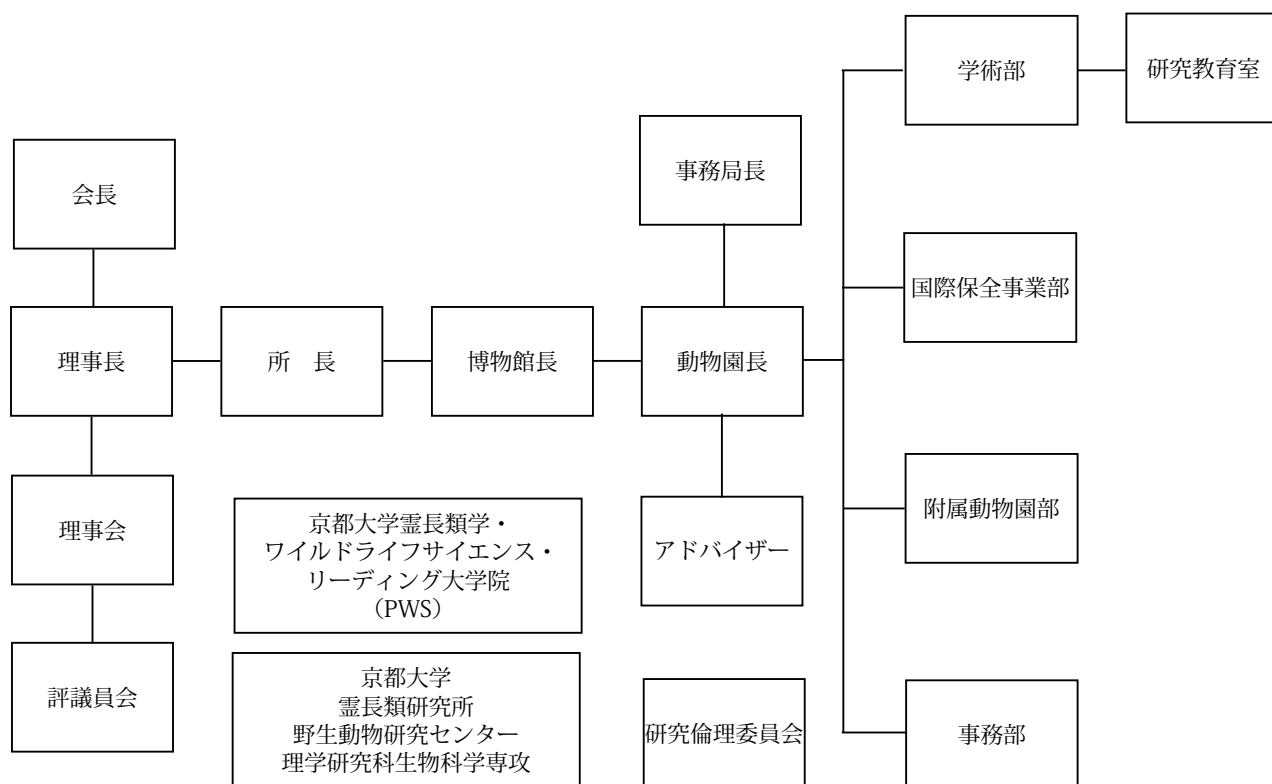
6. 犬山市大字犬山字官林 駐車場施設

賃貸先：（株）名鉄インプレス
目的：駐車場

III 総務

(1) 組織

1. 組織図 (2018年3月31日現在)



2. 役員 (2018年3月31日現在、50音順、敬称略)

会長		
河合 雅雄	京都大学名誉教授	日本モンキーセンター 元所長
理事長		
尾池 和夫	京都大学名誉教授	京都造形芸術大学 学長
常務理事		
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター 教授	日本モンキーセンター 動物園長
松沢 哲郎	京都大学高等研究院 特別教授	日本モンキーセンター 所長
山極 壽一	京都大学 総長	日本モンキーセンター 博物館長
理事		
安藤 隆司	名古屋鉄道㈱ 代表取締役社長	
長谷川 寿一	東京大学大学院総合文化研究所 教授	
松林 公蔵	京都大学名誉教授	
山本 亜土	名古屋鉄道㈱ 代表取締役会長	
吉川 泰弘	千葉科学大学 副学長	

監事		
中野 雄介	中野公認会計士事務所 所長	
拝郷 寿夫	名古屋鉄道㈱ 代表取締役専務	グループ統括本部長
評議員		
伊藤 博司	㈱名鉄インプレス 代表取締役社長	
小川 秀司	中京大学国際教養学部 教授	
亀崎 直樹	岡山理科大学生物地球学部 教授	
國松 豊	龍谷大学経営学部 教授	
黒邊 雅実	名古屋市東山動物園 園長	
幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター長 教授	
齋藤 亜矢	京都造形芸術大学文明哲学研究所 准教授	
坂本 英房	京都市動物園 副園長	
田中 正之	京都市動物園 生き物・学び・研究センター長	
平田 聡	京都大学野生動物研究センター 教授	
湯本 貴和	京都大学霊長類研究所 教授	

3. 職員（2018年3月31日現在）

理事長

尾池 和夫 （京都造形芸術大学・学長）

所長

松沢 哲郎 （京都大学高等研究院・特別教授）

博物館長

山極 壽一 （京都大学・総長）

動物園長・事務局長・事務部長（兼任）

伊谷 原一 （京都大学野生動物研究センター・教授）

アドバイザー

打越 万喜子 （京都大学霊長類研究所・特定研究員）
 野上 悦子 （京都大学野生動物研究センター・技術職員）
 林 美里 （京都大学霊長類研究所・助教）
 松田 一希 （中部大学創発学術院・准教授）
 森村 成樹 （京都大学野生動物研究センター・特定准教授）
 平口 愛子 所長秘書、PRIMATES 編集長秘書（兼任）

学術部

友永 雅己 部長
 （京都大学霊長類研究所・教授）
 高野 智 研究教育室長、主席学芸員、キュレーター
 赤見 理恵 主任学芸員、キュレーター
 新宅 勇太 キュレーター
 （京都大学野生動物研究センター・特定研究員）
 綿貫 宏史朗 キュレーター
 （京都大学霊長類研究所・特定研究員）
 早川 卓志 キュレーター
 （京都大学霊長類研究所・特定助教）
 古賀 典子 PRIMATES 編集担当
 （京都大学野生動物研究センター・特定研究員）
 江藤 彩子 エデュケーター
 阪倉 若菜 エデュケーター
 東峯 万葉 エデュケーター

国際保全事業部

岡安 直比 部長

附属動物園部

木村 直人 部長、動物園長補佐
 堀込 亮意 飼育統括
 岡部 直樹 （京都大学野生動物研究センター・特定研究員）
 坂口 真悟 飼育主任
 鏡味 芳宏 飼育主任
 田中 ちぐさ 飼育主任
 阿野 隆平
 荒木 謙太
 石田 崇斗
 市原 涼輔
 大島 悠輝
 奥村 太基
 小泉 有希
 辻内 祐美
 寺尾 由美子
 土性 亮賀
 中久木 愛
 根本 慧
 半田 希
 廣澤 麻里 （京都大学野生動物研究センター・特定研究員）
 藤森 唯
 舟橋 昂
 星野 智紀
 三宅 菜穂美
 山田 将也

事務部

安倍 由里香
 今井 由香
 根本 真菜美
 大岡 幸男
 浅沼 龍希
 杉本 直人
 仙石 久子
 大坊 早苗
 山田 久

(2) 人事

1. 採用

2017年4月1日付 附属動物園部	舟橋昂 小泉有希 市野悦子	中久木愛 土性亮賀 辻内祐美
2017年5月13日付 事務部	大坊早苗	
2017年10月1日付 附属動物園部	市原涼輔	
2017年11月1日付 附属動物園部	阿野隆平	
2018年2月1日付 所長秘書、PRIMATES 編集長秘書、アドバイザー	平口愛子	

2. 退職

2017年9月30日付 附属動物園部 事務部	市野悦子 小川冴奈	
2018年3月31日付 学術部 附属動物園部 事務部	東峯万葉 半田希 山田久	浅沼龍希

3. 離任

2017年12月31日付 学術部	大淵希郷
---------------------	------

(3) 総務

1. 理事会、評議員会の開催

- (1) 第10回公益財団法人日本モンキーセンター理事会
日程：2017年5月26日
会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）
- (2) 第6回公益財団法人日本モンキーセンター評議員会
日程：2017年6月19日
会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）
- (3) 第11回公益財団法人日本モンキーセンター理事会
日程：2018年3月19日
会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）

2. 訓練の実施

- | | |
|------------------|-------------|
| (1) トウクトウク運転講習会 | 2017年4月12日 |
| (2) 初期消火訓練 | 2017年5月24日 |
| (3) 大型類人猿脱出時対策訓練 | 2017年11月28日 |
| (4) 麻酔銃取扱訓練 | 2017年11月28日 |



初期消火訓練

3. オンライン講習の実施

- (1) パワーハラスメントオンライン研修
- (2) 研究倫理eラーニング

(4) 寄附

1. 寄附受領

(1) 2017 年度寄付金の受入

(単位：円)

内訳	金額
法人寄附	160,835,389
個人寄附	3,630,947
国際保全事業寄附	30,000,000
合計	194,466,336

寄附者御芳名

(30,000 円以上の寄付をいただいた個人のうち、
許諾をいただいた方のみ掲載)

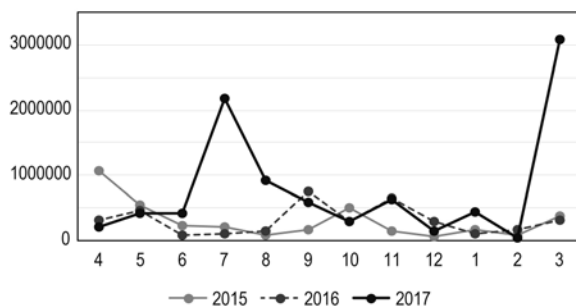
坂本 光康

土井 隆雄

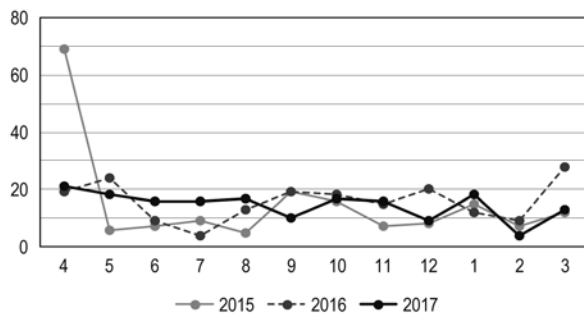
中川 織江

御手洗 陽 (敬称略)

月別寄附金額



月別寄附件数



(2) 寄附物品の受領

① 動物用飼料としての寄附

年間受領件数：550 件以上

(毎週受領の定期寄附を含む)

月間受領量

月	重量	品目数
2017 年 4 月	797kg	27
5 月	727kg	41
6 月	1,149kg	34
7 月	1,832kg	38
8 月	1,570kg	38
9 月	2,200kg	38
10 月	1,877kg	59
11 月	3,733kg	38
12 月	3,973kg	38
2018 年 1 月	822kg	38
2 月	1,011kg	23
3 月	1,616kg	41
合計	21,307kg	

② その他

年間受領件数：40 件以上

品目：おが粉、消防ホース、麻袋、植物など

IV 経理

貸借対照表（平成 29 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	39,701,564	18,092,633	21,608,931
寄附金預金	9,954,106	3,480,066	6,474,040
未収入金	157,000	74,000	83,000
前払金		592,490	▲ 592,490
立替金	38,880	20,500	18,380
仮払金	5,340	2,594	2,746
流動資産合計	49,856,890	22,262,283	27,594,607
2 固定資産			
基本財産			
土地	378,300	378,300	0
建物	3,014,370	3,214,407	▲ 200,037
基本財産合計	3,392,670	3,592,707	▲ 200,037
特定資産			
宮島預金	9,000,000	9,000,000	0
動物園施設整備資金	56,000,000	35,000,000	21,000,000
土地	596,868,254	595,848,254	1,020,000
特定資産合計	661,868,254	639,848,254	22,020,000
その他固定資産			
建物	9,263,813	9,539,757	▲ 275,944
建物附属設備	34,501,247	25,416,328	9,084,919
構築物	17,482,193	13,272,925	4,209,268
機械装置	2,910,638	4,023,068	▲ 1,112,430
車両運搬具	1,541,206	1,714,466	▲ 173,260
器具備品	3,194,462	4,398,186	▲ 1,203,724
動物	28,716,678	33,136,200	▲ 4,419,522
図書	578,771	828,523	▲ 249,752
雑設備	2	2	0
土地	754,611	754,611	0
電話加入権	18,301	18,301	0
ソフトウェア	185,724	278,586	▲ 92,862
その他固定資産合計	99,147,646	93,380,953	5,766,693
固定資産合計	764,408,570	736,821,914	27,586,656
資産合計	814,265,460	759,084,197	55,181,263
II 負債の部			
1 流動負債			
仮受金	172,620	252,478	▲ 79,858
未払金	7,630,407	7,433,517	196,890
預り金	408,351		408,351
賞与引当金		6,105,000	▲ 6,105,000
未払消費税	3,636,800	3,011,800	625,000
未払法人税等	6,930,200	5,654,500	1,275,700
流動負債合計	18,778,378	22,457,295	▲ 3,678,917
2 固定負債			
固定負債合計			
負債合計	18,778,378	22,457,295	▲ 3,678,917
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取寄附金	42,000,000	42,000,000	0
固定資産受贈益	3,392,670	3,592,707	▲ 200,037
受贈土地	596,868,254	595,848,254	1,020,000
指定正味財産合計	642,260,924	641,440,961	819,963
（うち基本財産への充当額）	（3,392,670）	（3,592,707）	（▲ 200,037）
（うち特定資産への充当額）	（638,868,254）	（637,848,254）	（1,020,000）
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	153,226,158	95,185,941	58,040,217
（うち特定資産への充当額）	（23,000,000）	（2,000,000）	（21,000,000）
正味財産合計	795,487,082	736,626,902	58,860,180
負債及び正味財産合計	814,265,460	759,084,197	55,181,263

正味財産増減計算書
(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
基本財産等受入利息	0	0	0
事業収益	133,064,339	154,512,628	▲ 21,448,289
事業収益（動物園入園料）	51,957,200	68,586,750	▲ 16,629,550
賃貸事業	48,837,391	48,505,391	332,000
賃貸事業（駐車場）	23,436,000	23,112,000	324,000
賃貸事業（土地・建物）	25,401,391	25,393,391	8,000
動物園附帯事業	32,269,748	37,420,487	▲ 5,150,739
受取寄附金	195,624,482	165,649,974	29,974,508
友の会収入	2,011,150	1,865,700	145,450
受取寄附金	10,413,295	3,584,237	6,829,058
受取寄附金振替額	183,200,037	160,200,037	23,000,000
雑収益	6,731,706	5,729,160	1,002,546
受取利息	4,087	149,788	▲ 145,701
雑収益	6,727,619	5,579,372	1,148,247
経常収益計	335,420,527	325,891,762	9,528,765
(2) 経常費用			
事業費	254,801,129	285,174,628	▲ 30,373,499
給与手当	101,581,119	104,557,459	▲ 2,976,340
謝金	432,115	397,590	34,525
法定福利費	15,988,608	15,726,578	262,030
福利厚生費	338,698	234,800	103,898
賞与引当金繰入	0	5,860,800	▲ 5,860,800
旅費交通費	532,810	374,252	158,558
研究旅費	1,035,691	469,921	565,770
研究会費	14,000	51,000	▲ 37,000
調査研究費	1,238,460	1,257,566	▲ 19,106
出版費	2,431,193	422,017	2,009,176
普及事業費	1,015,722	1,316,844	▲ 301,122
展示費	49,953	744,804	▲ 694,851
飼料費	15,184,329	17,883,945	▲ 2,699,616
動物購入費	0	0	0
衛生薬器費	3,313,651	3,475,513	▲ 161,862
サル輸送費	19,707	33,520	▲ 13,813
施設整備費	7,167,636	15,430,623	▲ 8,262,987
販売費	4,194,091	4,819,821	▲ 625,730
備用品費	2,958,925	3,110,456	▲ 151,531
被服費	183,275	98,538	84,737
水道光熱費	31,623,676	35,159,080	▲ 3,535,404
車両費	755,585	495,951	259,634
業務委託料	26,498,795	31,527,281	▲ 5,028,486
会議費	1,706,945	0	1,706,945
諸会費	381,290	408,300	▲ 27,010
租税公課	7,540,830	21,900,943	▲ 14,360,113
減価償却費	17,405,198	16,908,507	496,691
補償費	691,989	995,536	▲ 303,547
通信運搬費	636,120	692,381	▲ 56,261
広報宣伝費	283,500	0	283,500
現地活動費	8,250,000	0	8,250,000
雑費	1,347,218	820,602	526,616

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	13,959,842	10,700,516	3,259,326
給与手当	7,765,407	4,394,061	3,371,346
法定福利費	1,203,444	655,274	548,170
福利厚生費	27,826	12,358	15,468
賞与引当金繰入	0	244,200	▲ 244,200
旅費交通費	74,120	196,060	▲ 121,940
備用品費	332,526	373,489	▲ 40,963
会議費	288,289	149,745	138,544
通信運搬費	145,313	182,795	▲ 37,482
諸会費	3,000	3,000	0
水道光熱費	1,664,404	1,850,478	▲ 186,074
減価償却費	92,862	92,862	0
租税公課	73,750	6,000	67,750
業務委託費	1,866,240	1,867,144	▲ 904
車両費	150,474	419,443	▲ 268,969
補償費	172,997	241,514	▲ 68,517
雑費	99,190	12,093	87,097
経常費用計	268,760,971	295,875,144	▲ 27,114,173
当期経常増減額	66,659,556	30,016,618	36,642,938
Ⅰ 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈益	13,951	29,699	▲ 15,748
図書受贈益	13,951	29,699	▲ 15,748
経常外収益計	13,951	29,699	▲ 15,748
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	1,703,090	69,033	1,634,057
経常外費用計	1,703,090	69,033	1,634,057
当期経常外増減額	▲ 1,689,139	▲ 39,334	▲ 1,649,805
税引前当期一般正味財産増減額	64,970,417	29,977,284	34,993,133
法人税、住民税及び事業税	6,930,200	5,654,500	1,275,700
当期一般正味財産増減額	58,040,217	24,322,784	33,717,433
一般正味財産期首残高	95,185,941	70,863,157	24,322,784
一般正味財産期末残高	153,226,158	95,185,941	58,040,217
Ⅱ 指定正味財産の部			
受取寄附金	183,000,000	163,000,000	20,000,000
受取寄附金	183,000,000	163,000,000	20,000,000
固定資産受贈益	1,020,000	0	1,020,000
土地受贈益	1,020,000	0	1,020,000
一般正味財産への振替額	▲ 183,200,037	▲ 160,200,037	▲ 23,000,000
当期指定正味財産増減額	819,963	2,799,963	▲ 1,980,000
指定正味財産期首残高	641,440,961	638,640,998	2,799,963
指定正味財産期末残高	642,260,924	641,440,961	819,963
Ⅲ 正味財産期末残高	795,487,082	736,626,902	58,860,180

正味財産増減計算書内訳表
(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	0	0	
基本財産等受入利息	0	0	0	0
事業収益	62,579,080	70,485,259	0	133,064,339
動物園入園料	51,957,200	0	0	51,957,200
賃貸事業	0	48,837,391	0	48,837,391
駐車場	0	23,436,000	0	23,436,000
土地・建物	0	25,401,391	0	25,401,391
動物園付帯事業	10,621,880	21,647,868	0	32,269,748
受取寄附金	193,613,332	0	2,011,150	195,624,482
友の会収入		0	2,011,150	2,011,150
受取寄附金	10,413,295	0	0	10,413,295
受取寄附金振替額	183,200,037	0	0	183,200,037
雑収益	4,680,619	0	2,051,087	6,731,706
受取利息	0	0	4,087	4,087
雑収益	4,680,619	0	2,047,000	6,727,619
経常収益計	260,873,031	70,485,259	4,062,237	335,420,527
(2) 経常費用				
事業費	231,462,227	23,338,902	0	254,801,129
給与手当	100,523,654	1,057,465	0	101,581,119
謝金	432,115	0	0	432,115
法定福利費	15,816,688	171,920	0	15,988,608
福利厚生費	338,698	0	0	338,698
旅費交通費	532,810	0	0	532,810
研究旅費	1,035,691	0	0	1,035,691
研究会費	14,000	0	0	14,000
調査研究費	1,238,460	0	0	1,238,460
出版費	2,431,193	0	0	2,431,193
普及事業費	1,015,722	0	0	1,015,722
展示費	49,953	0	0	49,953
飼料費	15,184,329	0	0	15,184,329
動物購入費	0	0	0	0
衛生薬器費	3,313,651	0	0	3,313,651
サル輸送費	19,707	0	0	19,707
施設整備費	7,167,636	0	0	7,167,636
販売費支出	0	4,194,091	0	4,194,091
備品消費	2,958,925	0	0	2,958,925
被服費	183,275	0	0	183,275
水道光熱費	29,959,272	1,664,404	0	31,623,676
車両費	755,585	0	0	755,585
業務委託料	14,476,149	12,022,646	0	26,498,795
会議費	1,706,945	0	0	1,706,945
諸会費	381,290	0	0	381,290
租税公課	3,364,212	4,176,618	0	7,540,830
減価償却費	17,405,198	0	0	17,405,198
補償費	691,989	0	0	691,989
通信運搬費	636,120	0	0	636,120
広報宣伝費	283,500	0	0	283,500
現地活動費	8,250,000	0	0	8,250,000
雑費	1,295,460	51,758	0	1,347,218

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
管理費	0	0	13,959,842	13,959,842
給与手当	0	0	7,765,407	7,765,407
法定福利費	0	0	1,203,444	1,203,444
福利厚生費	0	0	27,826	27,826
賞与引当金繰入	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	74,120	74,120
備品費	0	0	332,526	332,526
会議費	0	0	288,289	288,289
通信運搬費	0	0	145,313	145,313
諸会費	0	0	3,000	3,000
水道光熱費	0	0	1,664,404	1,664,404
減価償却費	0	0	92,862	92,862
租税公課	0	0	73,750	73,750
業務委託費	0	0	1,866,240	1,866,240
車両費	0	0	150,474	150,474
補償費	0	0	172,997	172,997
雑費	0	0	99,190	99,190
経常費用計	231,462,227	23,338,902	13,959,842	268,760,971
当期経常増減額	29,410,804	47,146,357	▲ 9,897,605	66,659,556
1. 経常外増減の部				
（1）経常外収益				
固定資産受贈益	13,951	0	0	13,951
図書受贈益	13,951			13,951
経常外収益計	13,951	0	0	13,951
（2）経常外費用				
固定資産除却損	1,703,090			1,703,090
経常外費用計	1,703,090	0	0	1,703,090
当期経常外増減額	▲ 1,689,139	0	0	▲ 1,689,139
税引前当期一般正味財産増減額	27,721,665	47,146,357	▲ 9,897,605	64,970,417
法人税、住民税及び事業税		6,930,200		6,930,200
他勘定振替額	22,933,842	▲ 22,933,842	0	0
当期一般正味財産増減額	50,655,507	17,282,315	▲ 9,897,605	58,040,217
一般正味財産期首残高	24,007,991	34,227,022	36,950,928	95,185,941
一般正味財産期末残高	74,663,498	51,509,337	27,053,323	153,226,158
Ⅱ 指定正味財産の部				
受取寄附金	183,000,000	0	0	183,000,000
受取寄附金	183,000,000			183,000,000
固定資産受贈益		1,020,000		1,020,000
土地受贈益		1,020,000		1,020,000
一般正味財産への振替額	▲ 183,200,037			▲ 183,200,037
当期指定正味財産増減額	▲ 200,037	1,020,000	0	819,963
指定正味財産期首残高	641,440,961			641,440,961
指定正味財産期末残高	641,240,924	1,020,000	0	642,260,924
Ⅲ 正味財産期末残高	715,904,422	52,529,337	27,053,323	795,487,082

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法

基本財産のうち建物及びその他固定資産は定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

賞与引当金

給料支給基準を年俸制に変更するため、当期は引当計上していない。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	378,300			378,300
建物	3,214,407		200,037	3,014,370
小 計	3,592,707	0	200,037	3,392,670
特定資産				
宮島預金	9,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000
動物園施設整備資金	35,000,000	22,000,000	1,000,000	56,000,000
土地	595,848,254	1,020,000		596,868,254
小 計	639,848,254	26,020,000	4,000,000	661,868,254
合 計	643,440,961	26,020,000	4,200,037	665,260,924

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
土地	378,300	(378,300)		
建物	3,014,370	(3,014,370)		
小 計	3,392,670	(3,392,670)	0	0
特定資産				
宮島預金	9,000,000	(9,000,000)		
動物園施設整備資金	56,000,000	(33,000,000)	(23,000,000)	
土地	596,868,254	(596,868,254)		
小 計	661,868,254	(638,868,254)	(23,000,000)	(0)
合 計	665,260,924	(642,260,924)	(23,000,000)	(0)

4. 担保に提供している資産 なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び差引計

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び差引計は次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	差引計
基本財産			
土地	378,300		378,300
建物	8,232,000	5,217,630	3,014,370
小 計	8,610,300	5,217,630	3,392,670
特定資産			
土地	596,868,254		596,868,254
小 計	596,868,254	0	596,868,254
その他固定資産			
建物	99,406,230	90,142,417	9,263,813
建物附属設備	63,752,512	29,251,265	34,501,247
構築物	415,801,199	398,319,006	17,482,193
機械装置	12,972,360	10,061,722	2,910,638
器具及び備品	29,983,764	26,789,302	3,194,462
車両運搬費	4,557,500	3,016,294	1,541,206
動物	149,575,634	120,858,956	28,716,678
図書	21,094,422	20,515,651	578,771
雑設備	2		2
土地	754,611		754,611
電話加入権	18,301		18,301
ソフトウェア	464,310	278,586	185,724
小 計	798,380,845	699,233,199	99,147,646
合 計	1,403,859,399	704,450,829	699,408,570

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	
事業実施による用途制約の解除	183,000,000
減価償却費計上による振替	200,037
合 計	183,200,037

附属明細書

1. 基本財産及び特定財産の明細

財務諸表に対する注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

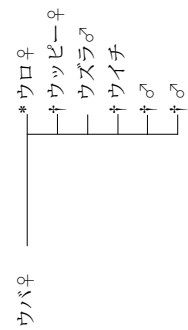
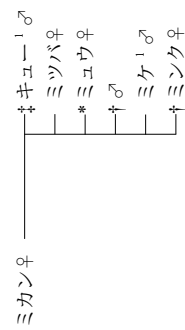
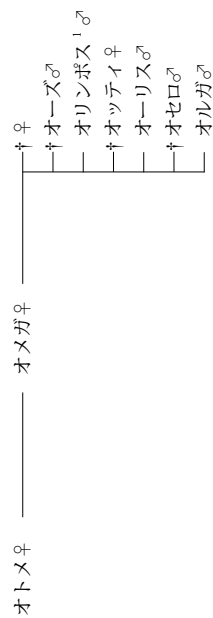
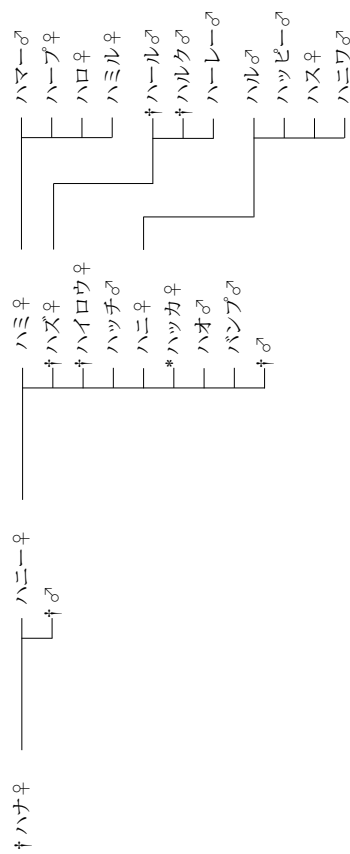
科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	6,105,000	0	6,105,000		0

財産目録
(平成 29 年 3 月 31 日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	489,741
小口現金			1,033,000
預金	普通預金 (寄附)	運転資金として	
	名古屋銀行犬山支店		2,204,356
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		7,749,750
	普通預金 (寄附) 計		(9,954,106)
	普通預金	運転資金として	
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		16,177,471
	定期預金	運転資金として	
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		22,001,352
未収入金	賃借料他	収益事業に供する家賃の未収入分	157,000
立替金	機械警備料他	公益目的事業に供する経費立替分	38,880
仮払金	販売委託費	収益事業に供する委託販売手数料の仮払分	5,340
流動資産合計			49,856,890
(固定資産)			
基本財産			
土地	犬山市栗栖	公益目的事業を行うために不可欠な特定の財源	378,300
建物	犬山市栗栖	公益目的事業を行うために不可欠な特定の財源	3,014,370
	基本財産計		(3,392,670)
特定資産			
宮島預金	普通預金	宮島で捕獲予定のサルの飼育費用の財源としている	9,000,000
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		
動物園施設整備資金	定期預金	公益事業の積立資産であり施設整備費として管理されている資金	56,000,000
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		
土地	犬山市犬山 42 - 2 他	公益事業に供する施設の敷地等に使用している	596,868,254
	特定資産小計		(661,868,254)
その他の固定資産			
建物	猿舎他	公益目的事業を行うための事業財産	9,263,813
建物附属設備	モンキーバレイ遊具他		34,501,247
構築物	スクイズケージ他		17,482,193
機械装置	加圧ポンプ他		2,910,638
車両運搬費	ミニキャブトラック他		1,541,206
器具備品	サル類剥製標本他		3,194,462
動物	オランウータン他		28,716,678
書籍	寄生虫学他		578,771
雑施設	商標権他		2
土地	犬山市犬山官林		754,611
電話加入権	No. 0568-61-2327		18,301
ソフトウェア	会計ソフト		185,724
	その他の固定資産計		(99,147,646)
固定資産合計			764,408,570
資産合計			814,265,460
(流動負債)			
仮受金	サンクチュアリ, モノリンク他	収益事業に供する委託販売売上金の仮受金	172,620
未払金	紅光, 農協他	公益事業に供する飼料費等の未払分	7,630,407
預り金	小牧税務署	給料源泉所得税	408,351
未払法人税	小牧税務署他	平成 28 年度確定納付分	6,930,200
未払消費税	小牧税務署	平成 28 年度確定納付分	3,636,800
流動負債計			18,778,378
(固定負債)			
固定負債計			0
負債合計			18,778,378
正味財産合計			795,487,082

付録 1 ポリビアリスガル (*Saimiri boliviensis*) 家系図



本図では、2018年3月31日において、日本モンキーセンター内で飼育している個体に関係する母系のみを掲載している。

凡例

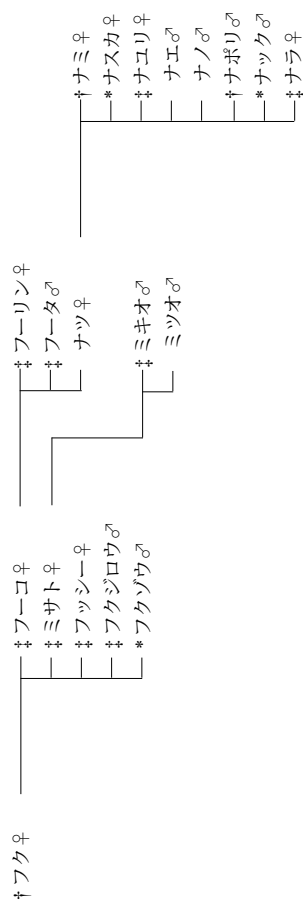
†:死亡個体

†：他園館に移動（譲渡）

*: 他園館に移動 (ブリーディングローン)

1: 南米館にて飼育 (他はすべてリスザルの島)

付録2 フォキツネザル (*Lemur catta*) 家系図

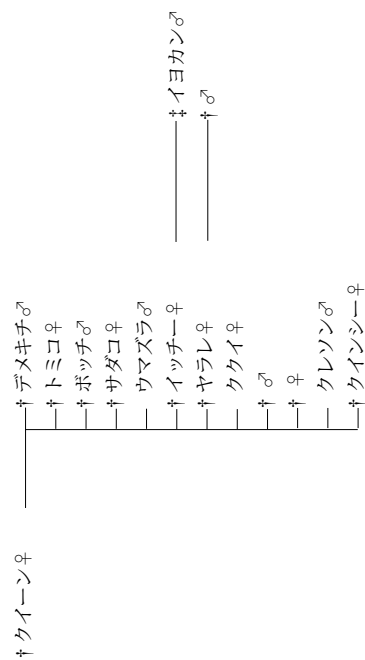


母系図上、他個体とつながらない個体

ウメキチ♂

♂
+ テッ

†キング♂



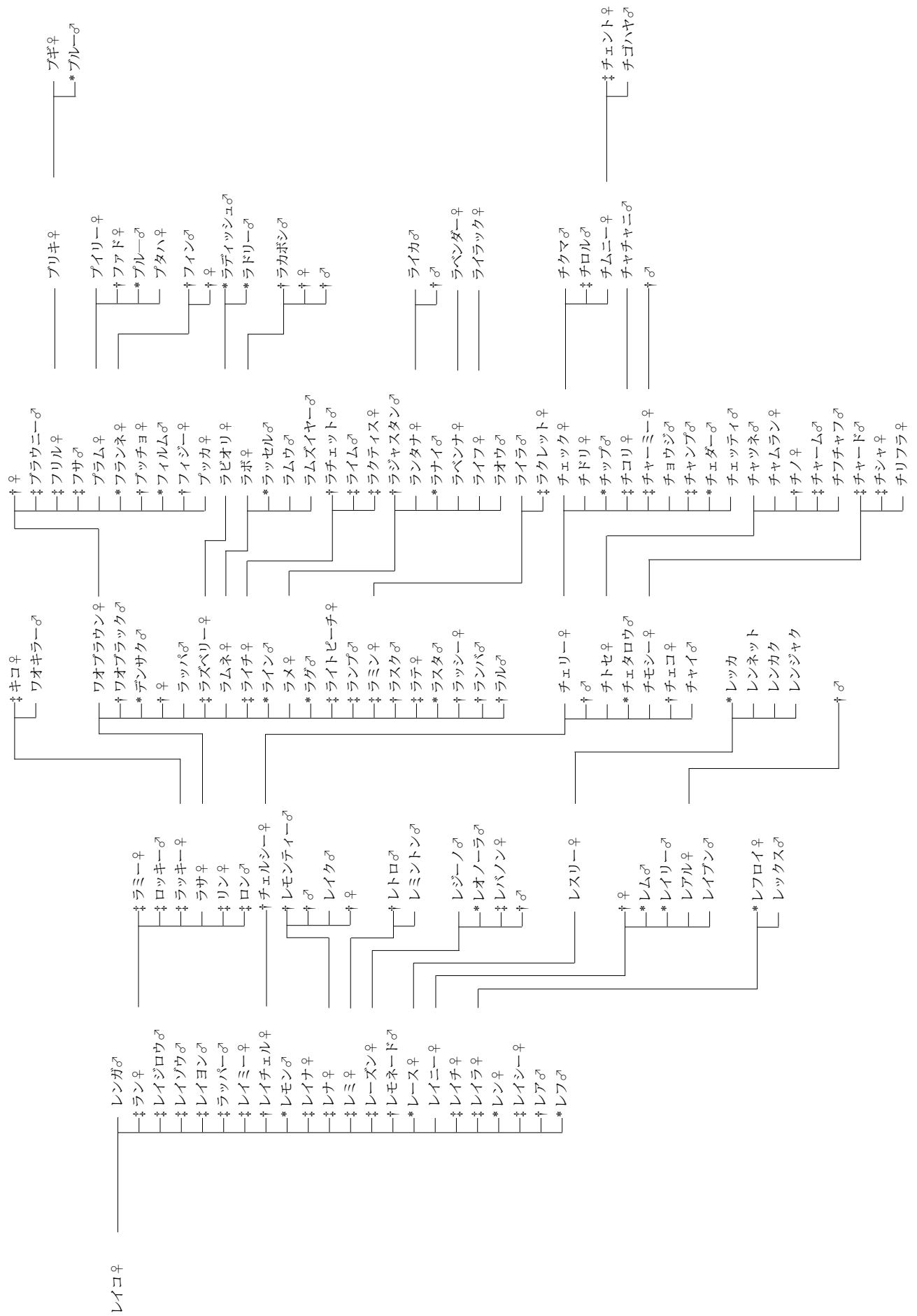
本図では、2018年3月31日において、日本モンキーセンター内で飼育している個体に関する母系のみを掲載している。

凡例

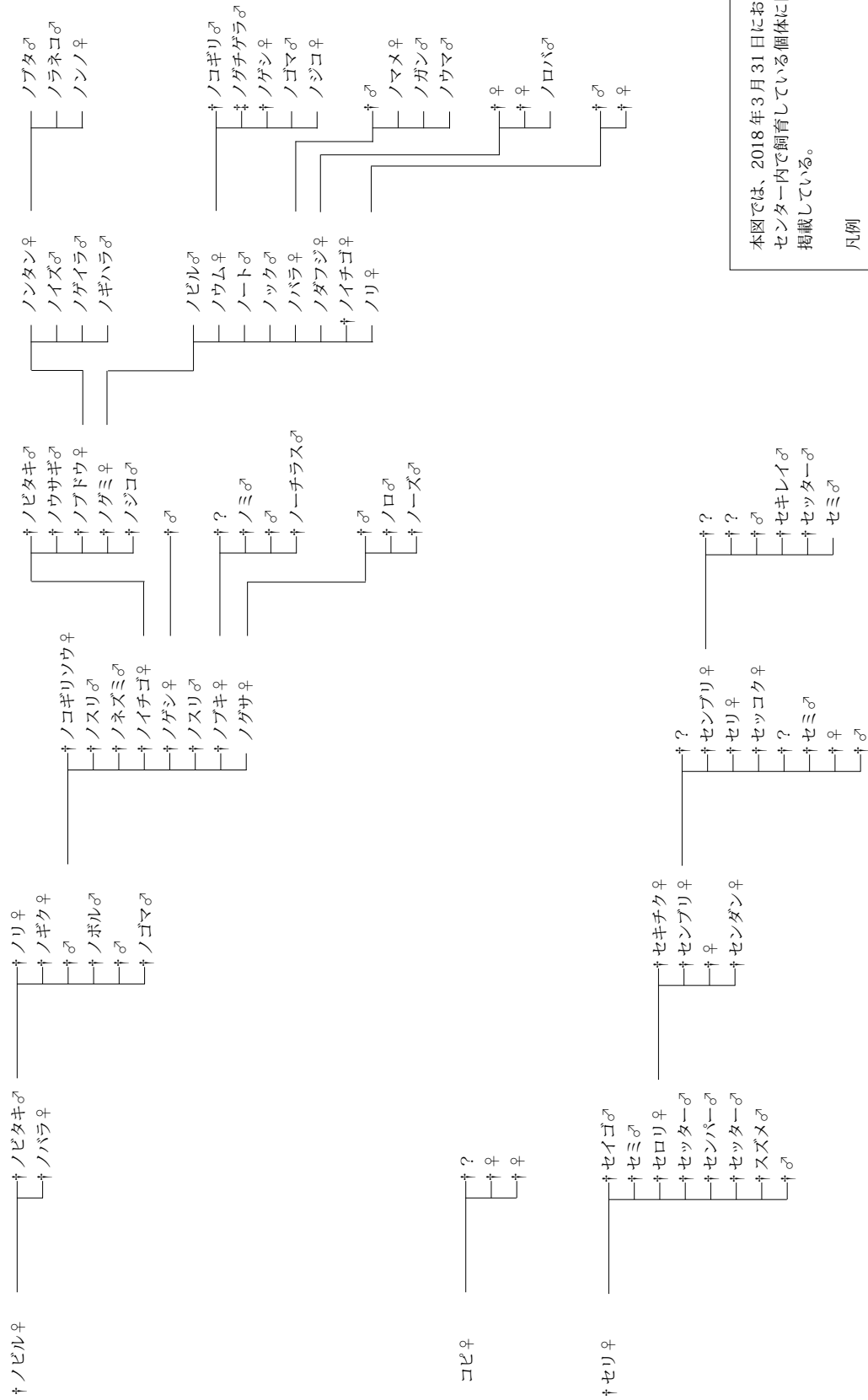
十：死亡個体

†：他園館に移動（譲渡）

*: 他園館に移動 (ブリーディングローン)

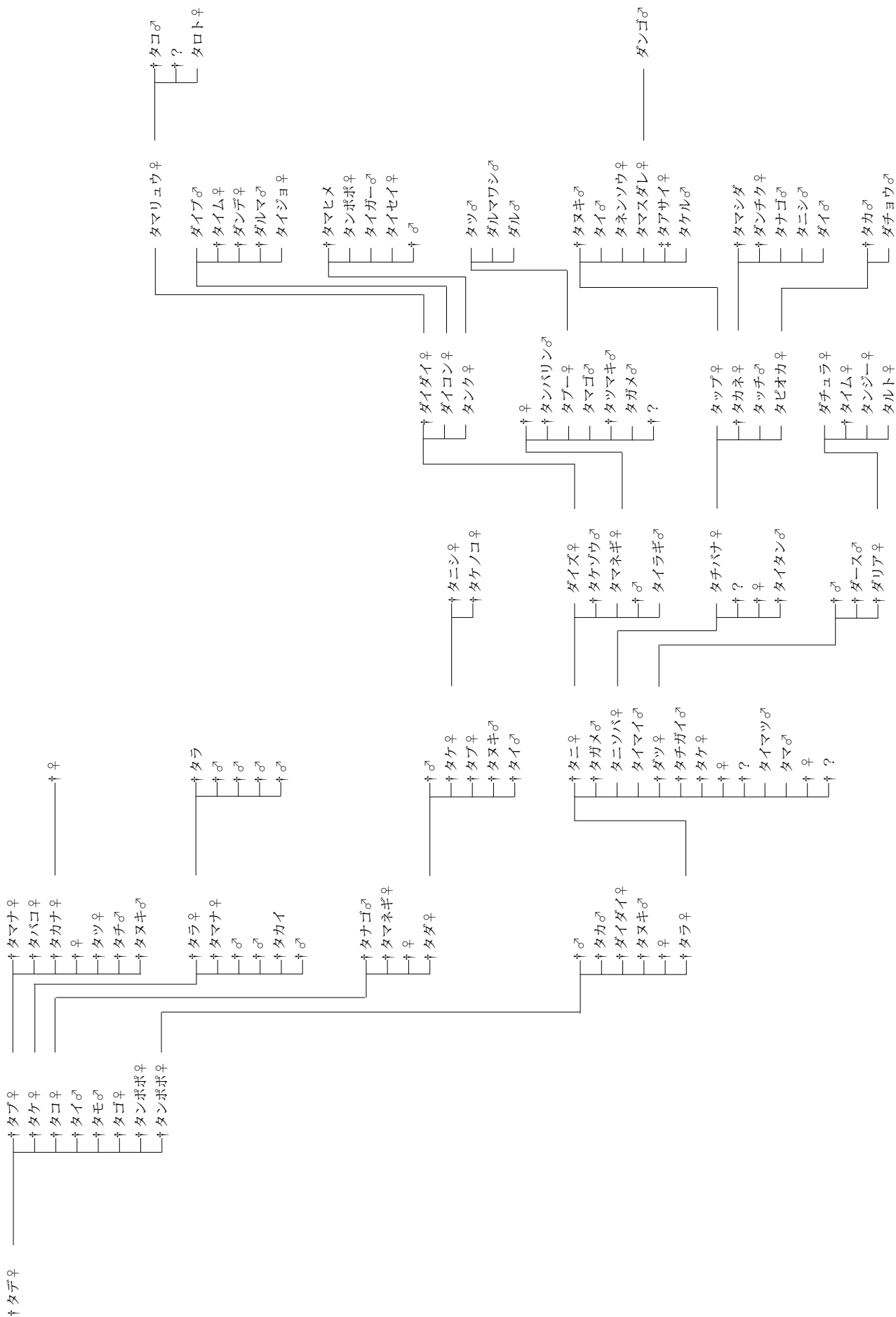


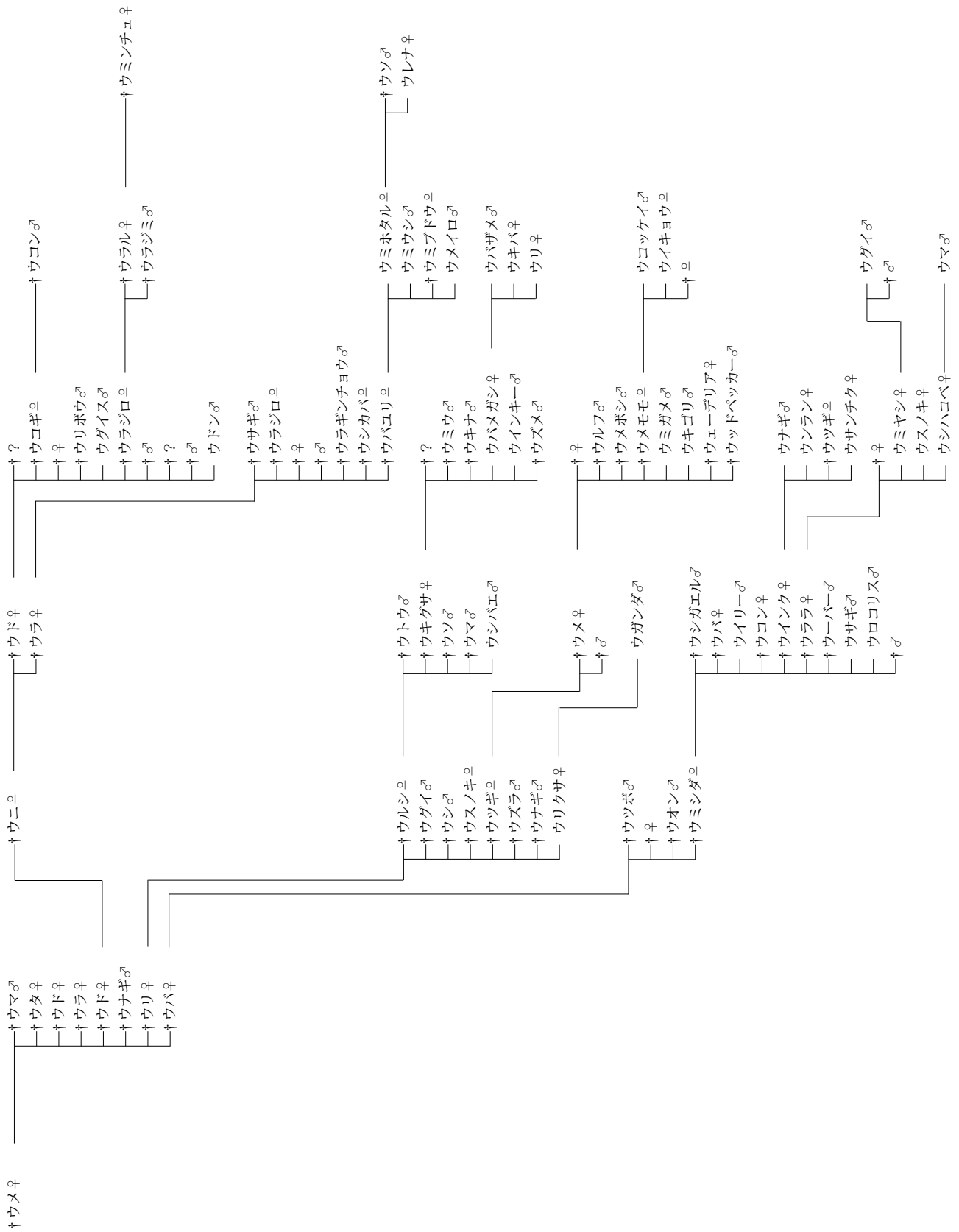
付録3 ヤクシマザル (*Macaca fuscata yakui*) 家系図

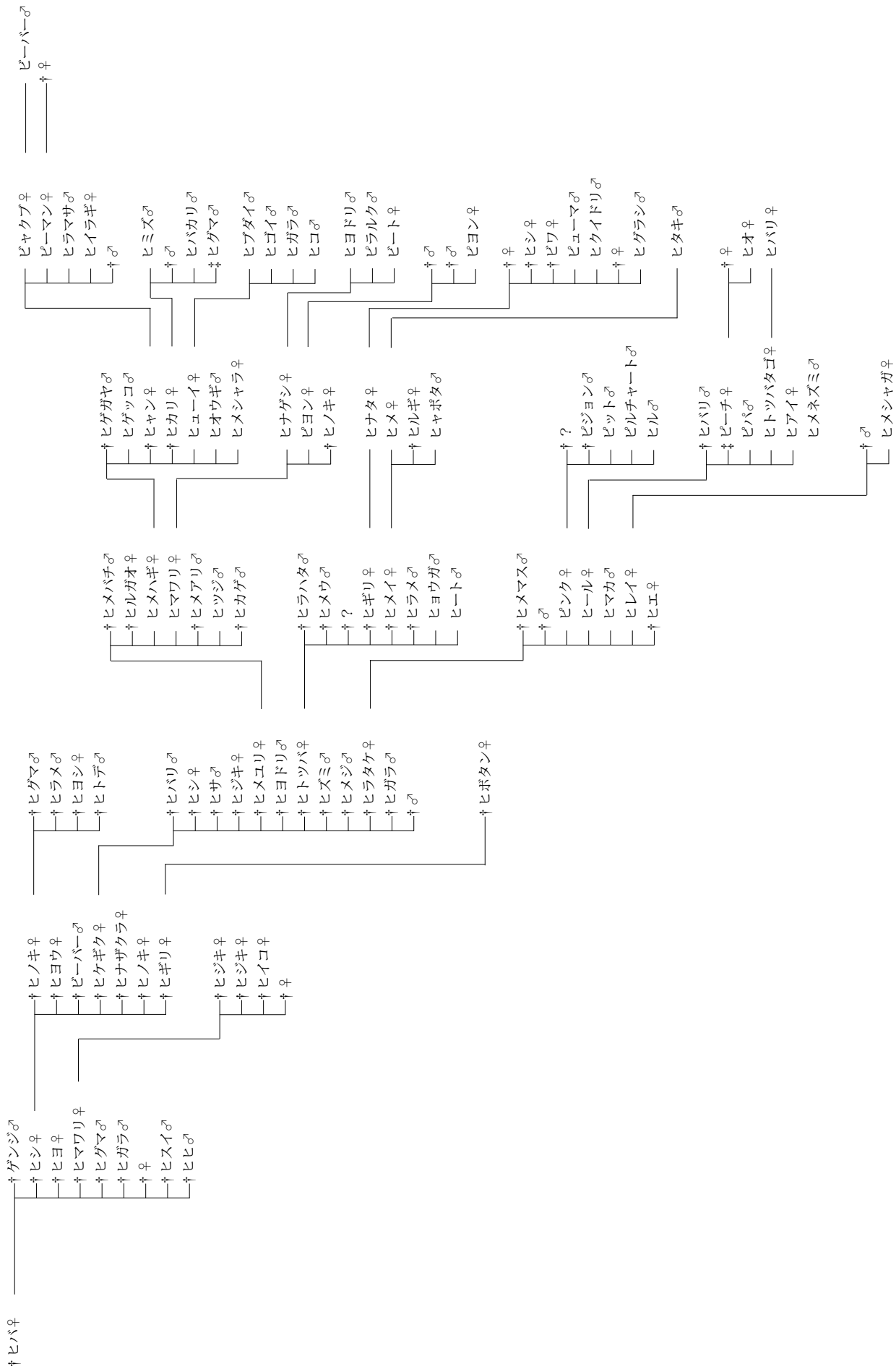


本図では、2018年3月31日において、日本モンキーセンター内で飼育している個体に関係する母系のみを掲載している。

凡例
†: 死亡等により現存しない個体
*: 他園館に移動（譲渡）







公益財団法人 日本モンキーセンター年報
平成 29 年度

〈非売品〉

発行日 平成 30 年 8 月 31 日

発行者 公益財団法人 日本モンキーセンター
〒484-0081 愛知県犬山市大字犬山字官林26番地
電話 (0568) 61-2327
FAX (0568) 62-6823

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
〒606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24
京都大学野生動物研究センター内
電話 (075) 771-4388

印刷所 オリンピア印刷株式会社
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-13-6F
電話 (06) 6445-0321

Japan Monkey Centre
Annual Report

2017



協力：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science, Kyoto University